259-60

緒言

學理の蘊奥を叩くには讀書を以て先とし、讀書は要を得るを以て主とすべし。たとへ萬巻の書に目を晒し連架の巻を讀み盡すも、其の要を得されば即ち徒爲耳、況んや書籍の數愈〻多く人事益〻複雑なるに於てをや。されば時間と勞力との經濟を計り、少數の書を繙きて大體に通ずるは、これ即ち要約の道にして讀書の秘訣なり。本書は即ち其の要を採錄蒐輯せしものなれば、一書以て萬巻を繙くに値するなり。蓋し文部省檢定試驗は殆んど凡ての學科に渉り、其問題は皆學科の神髄を以てしたればなり。されば本書は啻に受驗者に向つても亦良好の指好參考たるのみならず、一般の研究者に向つても亦良好の指たるなり。

蓋し答解をして正鵠を得せしむるは容易の業にあらず

時
ば
の
の方法に巧拙あるによるべし。故に本會
斟酌し、且つ簡明以て其要所を得んことを勉めたり。
答解を試むることは各專門の學術を以てするも尚難しと
れば、本會が之に
或は斯學專門の大
業にあらざりし、殊
を免れざるべし。若
る所あらば本會の

目次

	頁
一倫理科	一
一教育科	一八
一國語漢文科	二八
一歷史科	三五
日本史	三五
〃東洋史	四三
西洋史	五二
一地理科	五九
一數學科	六〇
算術、代數科	六〇
幾何科	六七
三角法	七二

理論……
應用……
一植物科……
一動物生理科……
一物理科……
一化學科……
一鑛物科……
一習字科……
一圖畫科……
鉛筆畫及用器畫……
一外國語科……
佛語科……
一農業科……
一家事科……
一裁縫科……
附錄
一教員免許令……
一教員檢定委員會官制……
一教員檢定ニ關スル規程……
一學校教員學力試驗及免許狀授與手數料登記印紙ヲ以テ納付方……
一學校教員學力試驗及免許狀授與手數料トシテ登記印紙貼付方……
一無試驗檢定者ノ資格……
一第十四回檢定試驗施行ノ告示及受驗者心得……
一教員免許令等ニ關スル主務省ノ取扱上ノ要件……
一教員檢定ニ對スル規程ノ改正……
一教員試驗檢定出願者注意……

目次

教員檢定試驗問題答解

◉倫理科

一、動機論ト結果論トノ是否如何

動機トハ手短カニ云ヘバ意志發動ノ原因ナリ、故ニ動機論ト結果論トノ分ルヽ所ハ意志發動ノ原因ヨリシテ如何ナル關係ニ依ツテ其結果ヲ出スヲ得ルカト云フコトノ說明如何ニアツテ存ス。然ルニ「動機ハ感情ナリ」（之否ナリ感情トイヘバ「或何物」カニ對スル感情ノコトナルベシ、道德的價値ノ分ルヽハ、此「或何物」ニ在リテ存ス。）トスル說ニヨルモ、「動機ハ欲望ナリ」（欲望モ「或何物カ」ニ據ラデハ動カザルベシ）トスル說ニヨルモ、將タ又「動機ハ觀念ナリ」（觀念トイヒテモ品性ニ符號セザレバ以テ意志ヲ動カスニ足ラザルナリ、「或何々」トイフ觀念ト我ナルモノトガ一致セザレバ意志ノ發動ハ無カルベキナリ。單ニ觀念其モノガ意志ヲ動ガスコトハ之ナキナリ、故ニ「或何々ヘ」依然トシテ問題ニ殘レリ）トスル說ニヨルモ、動機ハ我ナルモノト懸ケハナレタリトナシ、人ノ働作ト無關係ナリトナシ、行爲者ノ目的及結果ト分離獨立セルモノトナスコト斷ジテ不可能ノ事ニ屬セリ。サレバ結果ヲ慮リ居ルガ取リモ直サズ動機ニシテ、動機ト結果トハ離在セルモノニアラザルナリ。固ト此兩論ノ爭タルヤ、道德的判斷ノ對象ニ關スル議

論ニ屬ス、而カモ右ノ如クニ觀ジ來レバ此兩論實ニ楯ノ半面ヲ見テ相爭フト一般ナリ。其見方ノ異ナルニヨリテ異ヲ成セルノミ、學說上ヨリ言ハヾ其是非ヲ分ツノイハレナキナリ。

於是テカ問題ハ實踐上ノ舞臺ニ上レリ、實行上此兩說ハ何レカ價値アルカトノ問題トナレリ。今試ニ之ヲ一考センニ若シ實行上動機ニ重視スルトキハ、タトヘバ伊庭ガ星ヲ刺セルガ如ク、一己ノ良心ノ咎メナクバ他評ヲ顧ミズ、世間ノ利不利ヲ問ハズ、斷乎トシテ之ヲ行フヲ善シトスルコトヽナリ。之ニ反シテ若シ結果ニ重視セバ心ニモナキコトヲ爲シテ外面ヲ飾リ、僞善ハ必然ノ結果トシテ默許セラルヽノ止ムヲ得ザルニ至ランナリ。前者ニ從ヘバ目的ハ手段ヲ神聖ニスルノ理ニシテ、後者ニ從ヘバ手段ハ目的ヲ待タザル理トナル。彼ニ據レバ誠意誠心ハ尊バルヽモ結果ハ等閑ニ付セラレ、此ニヨレバ結果ハ重ンゼラルヽモ精神ハ閑却セラルヽナリ。若シ社會ノ一致其モノヽミヲ偏重セバ其結果ニ向テ衆人盲從シ、苟クモ精神ヤ主義ニカヽハラザルコソヨカランナレドモ、個性ノ主義ノ確立ト云フコトニ重視セバ前節即チ優ラザルヲ得ザルナリ。然ルニ社會ノ一致トイヒテモ、其成員タル個性ノ主義確立セザルトキハ何程結合ハ出來タリトモ決シテソハ理想トスベキ一致ニハアラザルナリ。サレバ社會學的見地ヨリスレバ動機論ノ方結果論ヨリハ價値アルガ如シ、今若シ心理學上ヨリ之ヲ判ゼンカ、動機論ヲ守レルモノハ潛在的統一ニ偏セルモノニシテ結果論ノ方ハ顯在的統一ニ偏シタリトモイヒ得ベシ。換言セバ前者ハ情即習慣上性格ノ確立セルノ意アルニ、後者ハ即智性ノ成就ヲ意味ス。前者ニ偏シテ後者ノ發達足ラザルモノハ所謂馬鹿正直之ナリ、後者ニ偏シテ前者ヲ顧ミザルハ即チ橫着不貞之ナリ。善ノ何物タルカ之ヲ知ルコト十分ナラザルモ、善ト知ラバ輒チ之ニ就クハ、ヨシヤ誤リアリトスルモ善ヲ知了スルコト十分ニシテ、而カモ之ニ就クノ勇ナキニマサルコト萬々ナリ。ソハ性格ノ善ニ就ク可能性、一ハ多クシテ一ハ少ナケレバナリ。

此點ニ於テ吾人ハ動機論ニ偏シテ潛在統一ヲ鞏固ナラシメン方、結果論ニ偏スルニ優ルヲ信ズルモノナリ。今又タ敎育學上ノ立脚地ヨリ瞰下スルニ、顯在統一ハ畢竟潛在統一ノ爲メニスルモノナレバ、此點ニ關シテモ動機論ハ結果論ヨリモ精神敎育ニ適セルコト

明白ナリトイフベシ。

吾人ハ此論ニ關シテハ學トシテノ判斷トヨリ外ハ考フルコト能ハザルガ故ニ、吾人ノ斷案ハ以上陳述セルモノヽ外ニ出デザルナリ。

二、理想ト實行トノ關係

凡ソ經驗ヲ分解スレバ分レテ必ズ二トナル、尙廣ク之ヲ言ハヾ人間ノ思想ノ中ニハ常ニ相對ヲ含ミ居ルモノナリ。例ヘバ本體ト云ヘバ現象ヲ思ヒ、變化ト云ヘバ常住ヲ思ヒ、或ハ必然ト云ヘバ偶然トイヒ、形式ト云ヘバ內容ト云ヒ、陰ニハ陽アリ、體ニハ用アルガ如シ。理想ト實行亦之ニ由ルモノニシテ、人生ノ過程ヲ考察分解シテ得タル一個ノ觀念ニ外ナラザルナリ。然ラバ人世ノ過程ヲ分解シテ之ヲ獲タリトハ何ノ意ナルカ、換言セバ如何ナル故ニテ此獲物ハアリタルカ、之レ理想ト實行ニ關スル觀念ノ發生的問題ナリ。之ヲ究メサレバ以テ此兩者ノ關係ヲ知ルナキナリ。夫レ人生レテ一歲トナリ、二歲トナリ、漸ク星霜ヲ經テ十トナリ二十トナリ、忽ニシテ成年ニ入リ已ニシテ耆老トナル。而シテ不完全ナガラモ意識ノ聊カ發展シテ稍々統一ヲ得ルニ至レバ則チ吾ナルモノヽ統一體ナルコトヲ覺ヘ、昔ノ我モ今ノ我モ同ジ我ナリト云フ「アイデンテイチー」ノ存念生ジ來ルモノニシテ、是ニ及ベバ最早進歩ト云ヒ進化トイフガ如キ觀念自カラ生ジ來ルモノニシテ、種子ノ萌エ初メシト思フ間ニ葉ヲ出シ莖ヲ伸バシテ遂ニ花咲キ實ヲムスブニ至ルガ如キ、或ハ雛ノ長ジテ已ニシテ親鳥トモナルガ如キ、外圍ノ現象ニサヘ兼テ觸目シ居ルコトナレバ、我ノ生長ニ氣付クニ從テ此等ノ現象ニモ氣付クヤウニナリ、斯クテ進化テフ意識ハ年ヲ經ルニ從ヒ我身ノ進歩スルニ至テ擴大シ行クモノナリ。已デニ進歩ノ觀念生起シテ而カモ增進スルニ至レバ、茲ニ必ラズ進歩何ニ由テ起ルカノ疑問ニ會ス。此疑問ハ自カラハ之ヲ意識シ居ルコト無シトスルモ、外界ハ亦ヨク此レガ解答ヲ附與シクルヽコト故、人ノ思想觀察ノ進ムニツレテ內ナル可能勢ト外ナル刺衝トガ進歩ノ兩因子タルコトヲ悟ルニ至ルモノナリ。已ニ此兩因子ガ進歩ノ形成ヲ致ス所以ノモノナルコトヲ知ルニ至レバ、會々人生ヲ觀ズルニ當ツテ人間ノ進歩社會ノ進化ハ、理想ト實行トノ兩因子ヲ以テ解釋シ得ベキヲ悟了スルニ至ランナリ。之レ理想ト實行トニ關スル觀念ノ發達小史ナリ。

發生的方面ヨリ觀察シタル理想ト實行トハ夫レ斯クノ如シ。今動的ノ考察ヲ去テ靜的ノ考察ニ移ランカ、人ノ一世ハ恰カモ梯子ヲ攀ヅルニ似タリ、手一桁二桁ト順ヲ追フテ把リ行クニ從テ、足又之ヲ追テ上リ行クナリ。手ニ把レル階段ハ卽理想ニシテ、足ノ踏メル階段ハ卽チ實行ナリ。理想ノカ、レル所ヤガテ實行ノ到達スル所タラズンバアラズ。而シテ實行ハ卽チ經驗ナリ、理想ハ卽チ應ニカクアルベシト云フ想像ノ完全無缺ナルモノナリ。而シテ完全無缺ト云フ固ヨリ絕對的ノ完全無缺ニハアラズトスルモ、苟クモ此信仰アル以上ハ幾多ノ「經驗」ヲ通ジテ考覈闡明シ得タル結果タラズンバアラザルナリ。此點ヨリ觀ルトキハ實行ハヨク理想ヲ增進スルモノトイフベシ。例ヘバ足一段ノ階ヲ上レバ手ハ之ニ從テ亦一段ヲ上ラザルヲ得ザルガ如シ。故ニ今靜的側面ヨリ觀タル實際ト理想トノ關係ハ分レテ二トナル。謂ヒ得ベシ、一ハ上ヨリ看タルモノニシテ、一ハ下ヨリ仰ギタルモノナリ。卽チ理想アツテ初メテ實行ハ遂ゲラルヽトナスハ上ヨリ看タル觀察ニシテ、實行ノ下方ヨリ押上ル作用アルガ爲ニ、初メテ理想ハ完成シ前進スルモノナリトナスハ下ヨリ仰ギタル觀察ナリ。

今此靜的ニ觀ジタル客觀的ノ考察ヲ去ツテ、飜テ先ニ觀察シタル動的發生的ノ主觀方面ノ解釋如何ヲ考フルニ、亦タ客觀的考察ト相符合セルモノ之アリ。蓋シ理想ノ觀念ト實行ノ觀念トハ、正ニ本體ト現象トノ觀念ノ如ク、陰ト陽トノ夫レノ如ク、互ニ相分離別在スルコト能ハザルモノニシテ、元來人世進步ノ兩因子トシテ獲得把柱セル觀念ナルガ故ニ、必然一ヲ思ヘバ他ヲ豫想セザル能ハザルノ理アレバナリ。

於是カ吾人ハ結論シテ斯クイフヲ得ン、曰ク主觀的ニ理想ト實行トヲ認識シテ見タル時モ、客觀的ニ之ヲ觀察シタルトキモ、理想ト實行トハ互ニ相對シ相待テルモノニシテ決シテ世俗ノ思惟セルガ如ク、兩者ノ間天地雲泥ノ差アルモノニアラザルヲ知ルベキナリト。

三、人心道心ノ意義

人心道心ノ語ハ支那上古ヨリ傳ハリ來リタルモノニシテ卽チ、尙書舜典ニ人心惟危、道心惟微トイフニ始リ、ハカラズ朱子二元論ノ端ヲ開ケリ。今程朱派ノ解スル所ニ從ヘバ道心トハ中庸ノ所謂天命ノ性ニシテ元來圓滿具足何人モ先天的ニ得タルモノニシテ善ニシテ條理アリ、其ノ欲スガマヽニ行ヘバ卽チ道卽チ德、仁義八行悉ク道心ニ基ヅカザル

ハナシ。カク道心トハ先天的普遍的ニ人ニ賦與セラレタルモノニシテ元ト是抽象的概念ナリ。サレド人ハ二五ノ氣ノ妙合シタルモノニシテ生ルヽト同時ニ形體ヲ具ヘ形體アルト共ニ種ノ欲求アリ之レ卽チ人心ニシテ其欲スルガマヽニ放任スルトキハ互ニ相搏噛呑噬シテ統一ナキ禽獸ニ終ラズンバ止マズ。サレド此心ハ人間自然ノ性ニシテ之レヲ根滅排拒スベカラズ、故ニ教育ノ要ハ人心ヲシテ道心ノ配下ニ置キ、道心ノ命ニ從ヒテ其ノ宜シキニ止マルノ習慣ヲ與フルニアリ。朱子ノ氣質本然ノ性トイヒシハ卽チ人心道心ノ謂ニ外ナラズ。彼ノ西哲ありすとてれすノ精神要素ヲ分類シテ合理的非合理ノ二トセシガ如キ略同樣ノ概念ナリ。

程朱派ノ解スル所前上ノ如シトイヘドモ支那學者悉ク同樣に解釋セシニアラズ、種々ノ點ニ於テ常ニ朱子ノ反對ニ立ツ陸子ハ人心道心ノ見解ニ於テモ大ニ異ナレリ。陸子ハ一元論ヲ唱ヘテ、心一也人安有二心トイヒ、書經ノ本文ヲ釋テ曰ク、自人而言、則曰惟危、自道而言、則曰惟微、ト而シテ何ガ故ニ人ヨリ言ヘバ危クシテ道ヨリイヘバ微ナルカノ問ニ對シ、罔念作狂、克念作聖、非危乎、無聲無臭、無形無體、非微乎トイヘリ、二者ノ異ナル所以テ見ルベシ

四、武士道ノ我國德育ニ及ボセル影響

武士道トハ廣義ニ之ヲ解スレバ、日本男子固有ノ性情ヨリ成レル道德ニシテ、一個ノヲーそりちーヲ有スルモノヽコトナリ。之ヲ廣義ニ之ヲ狹義ニ解スレバ則チ武門武家ナルモノヽ守リ來リシ行爲ノ規準ニシテ、亦自カラ歷史的ノ敎權ヲ有セルモノヽコトナリ。之ヲ廣義ニトルト狹義ニトルトハ、一見太ダ相異ヲ生ズルガ如クナルモ、退テ史的眼光ヲ以テ之ヲ見レバ、其間何等ノ差點モ存スルナク、却テ發生的關係上能ク相一致スルモノトナルナリ。蓋シ從來我國ニハ人民ノ階級アリテ日本男兒テフ美名ヲ負ヒ且能ク其古來ノ精神ヲ發揮セシメシモノ、獨リ武士テフ一階級ノモノニ過ギレバナリ。サレバ一見武士道ハ所謂大和男子ノ道ニシテ、女子ニハ聊カモ其道ノ行ハルヽコトナカリシモノヽ如クナリト雖モ、スデニ一個ノをーそりちートナリ、一個ノ風習トナリタル以上ハ、此ノ家風ヲ以テ養育セラレ、此ノ如キ空（アトモスクエヤー）氣ノ中ニ陶冶セラルヽコトナレバ、武士道ノ精神ハイツシカ多感ナル女性ノ武士的性格ヲ構成セザルコトナカルベキノ理ナリトス。

サテ武士道ノ精神トハ抑モ如何ナルモノナルカト云フニ、遠ク遡テ發生的方面ヨリ之ヲ觀セバ、或ハ人類學上、歴史上ノ論點モアルベク、或ハ地理學上ノ着眼點モ尠ナカラザルガ如クナリト雖モ、今ハ此錯雜ナル問題ニ移ルノ要ナキガ故ニ、只ダ出來上リタルモノトシテノ觀察ニ止メ、今日ヨリ少シク其如何ナルモノナルカノ「叙述」ヲ爲サンニ、

(一)義ヲ重ンジ、(二)身命ヲ惜マズ、(三)信ヲ守テ然諾ヲ謹ミ、(四)利ヲ捨テ、卑劣ノ手段ヲ惡ミ、(五)克己ヲ敎ヘテ、(六)自然放任ヲイマシメ、(七)節操ヲ尊シトナシ、(八)苟クモ和合スルヲ賤シミ、(九)理アリ道アルトコロニ就ケト敎ヘテ、(十)私ノ女々シキ感情ヲキリステヨト勸ム。(十一)故ニ道理アリテイザ義ノ爲メトナレバ意志ノ最高奮怒ヲ以テ精神一到ノ實ヲアゲ、(十二)無情冷酷ノ塊トナッテモ纏紛ノ情ニハ惹カサレジト勉ムルナリ。(十三)然リト雖モ高尙優美ノ情操ハ甚ダ高ク評價セラレテ、(十四)卑猥陋劣ノ事ハ一切排斥セラル。(十五)サレバ德性涵養ノ助トナルモノハ武勇ノ氣ヲ消磨セザル範圍ニ於テ奬勵セラレ、(十六)勇敢豪放ノ行爲モ衷心ノ情楚々タルモノナクンバ則チ貴カラズ。(十七)從テ禮儀作法ノ如キ坐作進退ニ關スル末枝ノ規則モ甚ダ重ンズベシトセラレ、(十八)過ギタルノ禮ハ町人ノ叩頭術ヲ學ブトシテ排斥セラレ、本及ルノ禮ハ野人足輕ノ爲ス所ナリトシテ賤シメラル。斯クノ如キハ卽其一斑ニシテ未ダ全豹ヲ舉ゲタリトハ謂フベカラザルモ、シカモ以テ武士道ノ面目ノアル所ヲ知ルニ足ランカ。之ヲ考證スルニハ幾多ノ史的事實モトヨリヨク備ハリ居ルコトナレモ、コレ亦玆ニ擧グルノ煩ハシキヲ恐レテ省略スルコトヽシ、サテ飜テ上來叙述セル所ヲ通觀センニ、先ヅ十八個ノ叙述ハ大ニ分レテ二ツトナル。卽チ積極ト消極トノ二ナリ奇數ニ當レル。號ノ下ニアルハ積極的側面ノふくとトナリ、偶數ニ當レルモノハ則チ消極的側面ノふくとトナル。然リト雖此兩側面ハ伴生的ノモノニシテ、獨立ノ事實ニアラザルナリ。換言セバ消極的側面ノ事實ハ積極的側面ノ反映ニ過ギザルナリ。寧ロ其結果ニ外ナラザルナリ。

夫レ德育ハ物體ヲ前方ニ行ルガ如シ、之ヲ牽ク力ガ前方ニ加ハリ之ヲ押ス力ガ後方ニ働イテコソ其前進モ目ザマシキワケナレ。ぶるりんぐノミニテハ人車モ甚ダ遲々タリト雖モ、ぷっしんぐヲ之ニ加ヘタル二人曳ノ人車ニ至テハ殆ンド駿馬ヲ凌グモノアルガ如シ。今德育ニ於テ之ヲ觀ルニ「セヨ」ト命ジテ前回ヨリ惹クモノト、「勿れ」ト禁ジテ後方ヨリ

推スモノトアリ。前者ハ「目的」ト「す可き」ノ光景ヲ看テ戰慄セシメ、後者ハ「アルマジキ」ノ惡結果テ看テ戰慄セシム。此二ノふくとナクンバ德育ノ法輪轉スルコト遲フシテ人ハ不德ノ誘惑ヲ脫スルダモ覺束サカルベシ。此兩面ノ因子之ヲ稱シテ德育ノ積極方面ト云フ。

抑モ武士道ナルモノハ其發展ノ途中、ユクリナクモ佛敎ノ思潮ニ浸タサレタリ。佛敎、イフマデモナク德育上ノ見地ヨリセバヨク消極的側面ヲ代表セルモノナルガ故ニ、武士道一タビ佛敎思想ノ接觸スルニ會セバ、忽チニシテ其圍繞セルモノヽ色ヲ帶ブルニ至リシヤ明ラカナリ。然ルニ武士道發展ノ途中別ニ接觸セルモノアリ、何ゾヤ儒敎之ナリ。儒敎ハ固ト斷乎タル積極主義ノ敎ニシテ、暗黑ノ一面ニ拘泥セズ、唯光明ノ一面ヲ望ンデ往勇邁進セヨト勸メ、性ノ善ナルヲ發達進長セシメヨト進ムルモノナルガ故ニ、武士道一タビ此思潮ニ會セバ佛敎思潮ノ寒流ニ誘ハレテ陽氣ニ向ヒシモノ飜テ、暖浸ニ乘ジテ直チニ光明ノ陽極ニ走ルヤ疑ナシ。然リト雖モ陰陽等シク其力ヲ加フレバ磁石モ兩極間ニ橫ニマタガルガ如ク、武士道思潮ノ水路亦コヽニ兩極ノ中央ヲトツテ東西ノ路ヲ形チ作ルナリ。「印度思想ト支那思想ノ浸入後ノ斯道ノ方向一轉セルコトカクノ如シ。武士道ノ思潮方向一變シテ、サテ其德育ニ及ボス影響ハ如何、言フマデモナク積極消極ノ兩因子ヲ具備スルニ由リテ著ルシク其効驗ヲアゲ得タルコト之ナリ。而テ武士道ガ鞏固タル基礎ヲ得タルハ、所謂狹義ノ武士道發達ノ時ニシテ卽チ武門武家テフ一族起リ、此一族ガ自カラ以テ日本男兒ノ特性ヲ顯ハシ得ベキ、さやばしてぃーヲ得ルニ至リタルノ後ニアリヲ、而シテ又此期ハ武士道思潮一轉ノ後ニアルコトナレバ、(少クトモ其思潮一轉ノ動力著シキノ時ナレバ)武士道ハヨク印度ト支那ノ兩思潮ヲ折衷シ得テ、德育上積極消極ノ効驗ヲ逞シウスルヲ得タルナリ。」

吾人スデニ武士道ガ積極消極ノ兩方面ヲ有セルガ爲メニ、德育ニ及ボセル影響ノ如何ナリシカヲ知レリ。是ニ於テ更ニ飜テ前陳十八個ノ叙述上ノ第二ノ觀察ヲ試ミンカ、一トシテ之レ意志最上ノ主義ヲ原理トセルモノニアラザルナシ。之ヲ反言セバ武士道ハ卽チ意志ノ權化ナリ、大和魂ト云ヒ、神州ノ靈ト云フ一トシテ意志ノ權化ニアラザルナシ。武士道ハ其發展ノ經路ニ於テ積極消極兩思潮ノ影響ヲ蒙リタリト謂フト雖モ、恰カモ磁石

ガ方向ヲ變ズルモ磁氣ハ失ハザルガ如ク、武士道又其本來ノ面目ヲ更ブルコト能ズシテ、大和ノ明媚ナル山川ノ裏ニ櫻花ノ咲キ初ムルガ如ク、稜々タル海國ノ骨ノ髓マデ浸ミ込ミ居リタル濃々ノ意氣イツシカ、君民和諧セル春風駘蕩ノ懷ニ道德的感激ノ形ヲトツテ膨大セズンバヤマザリシナリ。

排モ德育ニハ知ノ側面ト、情ノ側面ト、及ビ意ノ側面ノ三面アリ。そくらちーすノ如キハ知ノ側面ニ重キヲ措デ着目シタル人ニシテ、基督敎ノ所謂ぴゅあーはーと(眞情)ナルモノハ卽チ情ノ側面ヲ發揮シタルモノトイフベシ。夫レ然リ而シテ武士道ハ意志ノ側面ヲ發揮スルニ君民愛着ノ溫氣ヲ以テ培ヒシモノナレバ、カノ希臘ノ犬儒派や、すとあ派ノ如キ徒ノ稱導セル意志敎トハ頗ル其趣キヲ異ニセリト謂フベシ。然ルニ武士道ガ其發展ノ途中ニテ會シタル印度ト支那トノ兩思潮ハ、何レモ知的側面ト情的トヲ併有セルモノニシテ、前者ハ哲學的傾向アルガ爲メニ知的トナリ、後者ハ修身齊家治國平天下ノ爲メニ格物致知ヲスヽムルモノナリ」卽前者ノ知的傾向ヲトリタルハ哲學トシテトリタルモノニテ、後者ノ知的傾向ヲトリタルハ實際所世ノ爲トシテ取リタルモノナリ。而シテ其情的ノ傾向ニ至テハ前者ハ慈悲濟度ノ精神ヨリシテ情的方向ヲトリ、後者ハ顯在統一ハ潛在統一ノ方便ナリト云フ意義ニテ情的方面ノ修練ニ向ヘルナリ」而シテ印度思潮ガ知的ニ向ヘルモ亦全ク己人的ヨリセバ解脫涅槃、思他的ヨリセバ衆生濟度ノ目的ヲ達セン爲メニ、先ヅ其涅槃ノ那處ニアルカヲ究メントシテ哲學的知的傾向ヲトリタルモノナレバ、此兩思潮ハ共ニ知的情的ノ德育ノ兩面ヲ幷有スレドモ、其主眼目的ハ卽チ情的ノ側面ニ在ツテ存スルガ故ニ、而シテ特ニ又武士道其モノガ意志ヲ重ンジタルガ故ニ、武士道ハ顯在的統一ヨリハ寧ロ潛在的統一ニ重視シテ、之ニ依ツテ人格ヲ完成セントシタルモノナルヲ以テ、斯道德育ノ特徵ハ必然敎權的トナリタルモノナリト云フベシ。

隨テ其德育上ニ及ボセル影響ハ進步的ニアラズシテ寧ロ保守的ニ向ヒ、個人的トナラズ又公共的トモナラズシテ、家風的ノモノトナリシコトナレバ、之ニ背クハ卽チ父ニ背キ先祖ニ背クコトヽナリ、斯道ノ制裁ハ實ニ其甚ダシキモノヲ見ルニ至リシナリ。斯クノ如クナレバ我テフモノハ斯道ヲ離レテ存在スルヲ得ザルモノニシテ、武士タル道ニハ我ガ身モカヘガタシテフ道理ガ出來、「德卽我」テフ精神ハ布植セラレタルモノト云フベク、

德育ノ効果モ亦タ此ニ至テ其力度ヲ追ウシ得タリト云フベキナリ。

以上第一第二ノ觀察ノ跡ヲ通覽スルニ、兩者共ニ德育ノ實ヲアゲタルノ力度甚ダ大ナルヲ證スルニ足ルモノニシテ、併セテ其影響ノ質的方面ヲモ知了スルヲ得ルモノナリ。蓋シ量的影響ト質的影響トハ必ズ此場合ニ於テハ相伴フモノニシテ、「學バシメテ德育ヲ成スモノ」ト「習ハシメテ之ヲ成スモノ」トイフ形式ノ相違ハ、直チニ德育其モノノ「質」ヲシテ進歩的知的ノモノトナスカ、保守的敎權的情的ノモノトナスカノ由テ分カルヽ所タルト共ニ、前者ノ効驗其力度大ナルトノ相違ヲ見ルハ必然ノコトナレバナリ。而シテ後者ノ効驗其力度前者ヨリモ大ナリトハ何ノコトゾト云フニ、之レ前陳已ニ之ニ言ヒ及ビタルガ如ク、敎權的ナルモノハ制裁強キモノハ德育上影響ノ力度亦大ナルノ理ヲ意味スルモノナリ。

武士道ガ我國德育ニ及ボセル量的質的ノ影響ハ以上陳ブル所ニテ、畧々其要ハ記シ得シナラン。

五、撰擧權ニ對スル道德上ノ責任

撰擧スルノ「權」ハ之ヲ一面ヨリ見レバ國家ニ對スル重大ノ「義務」ニシテ、法律ニ謂フ所ノ權利ノ如クニ之ヲ棄却スルモ勝手タルガ如キモノニアラザルナリ。茲ニ於テカ責任生ジテ此權ヲ有スルモノハ縱令其撰擧區內ニ撰ムベキ完全ノ人物ナシトテモ、相對的ニ有爲ノ人物ヲ撰ビ、以テ其義務ヲ盡サヾルベカラザルノ理トナルナリ。之レ道德上撰擧權ニ對スルノ責任ガ、法律上之ヲ解釋スルト異ナル所以ナリ。然リト雖モ撰擧權ニ對スル道德上ノ責任ハ獨リ之ニ止マラザルナリ。卽チ獨リ權利ヲ法律的ニ解スルノミニシテ裏面ヨリ之ヲ義務ナリト解シ、以テ此權ヲ正シク使用スルコトナキハ無論誤レルモノナレドモ、而カモ此權ヲ放棄セズシテ使用ストテモ、之ヲ利用シテ一己ノ私ヲ利セントスルガ如キハ亦更ニ否ナリト云ハザルヲ得ズ。今日投票ヲ賣買シ或ハ金直ヲイル、ガ如キ實ニ此誤リヲ爲セルモノナリ。

要スルニ此權ニ對スル道德上ノ責任ハ二ツアリテ、一ハ否定的消極的ノモノ、一ハ肯定的積極的ノ方面ニ關スルモノ之ナリ。（後者ニツイテハ撰擧法ノ講義ノ如キモノニツキテ調ベ見ルヲヨシトス）

◉教育科

一、教授ハ形式的陶冶ヲ以テ其目的トスト云ヘルコトアリ

心理上ヨリ其眞意ヲ解セヨ

教授ハ形式的陶冶ヲ以テナストイフ意義ヲ心理上ヨリ解スレバ、教授セラルヽモノヽ心意ニ於ケル作用ヲ訓練スト云フコトナリ。

元來教授ニハ二種ノ目的アリ、一ハ必須ナル知識技能ヲ授クルコトニシテ之ヲ質料的目的ト稱シ、他ハ心意ノ知的作用ヲ修練スルモノニシテ之ヲ形式的目的ト稱ス。教授ニ於テハ質料ニ由リテ形式的ノ陶冶ヲ施スベキモノニシテ、兩者相俟タズシテハ教授ノ効ヲ全フシ得ベカラズ。サレド今題意ニ從テ形式的ノ目的ヲ心理學上ヨリ説明スレバ、

第一凡テ心意作用ヲ齊整ニ發達セシムベキコト、即記憶ニノミ長ジテ推理ニ鈍ナルガ如キ事ナク、又或作用例ヘバ想像ノ如キモノヲ大ニ助長シテ爲ニ心意全體ノ均齊ヲ害フガ如キコトナカラシムベシ。約言スレバ各作用ヲ各其分ニ應ジテ其發達ヲ遂ゲシムベキナリ、

第二ニハ各作用ノ性質ヲ研究シ其發達ノ時期ヲ失ハシメザルコト、即兒童ノ時代ニ於テ高尚ナル推理的思辨ヲ强フルガ如キコトヲナサズシテ、各本來ノ發達期ニ應ジテ修練スベキコトヲ是ナリ。

二、數ノ觀念ノ成立ヲ説キ初歩ノ算術教授上ニ於テ取ルベキ方法ヲ述ベヨ、

數ノ概念ハ彼ノ運動ノ概念ト同ジク時空ノ概念ト相伴ヒテ成立發達ス、今之ヲ知覺ノ上ヨリ説明スレバ、

(一)時空ヲ以テ中間ヲ斷絶セラレタル二個以上ノモノヲ辨別スル作用、

(二)之ヲ綜括スル作用

是ナリ、例ヘバ密柑數個アルトキ之ヲ各目別物トシテ認識スルコト、及之ヲ一團トシテ認識スルコト是ナリ。カクシテ他ノ知識ノ進歩ト共ニ益々複雜ナル數ノ概念ヲ形式スルニ至ル。之ニ基キテ算術初歩教授ノ要件ヲ演譯スルコト次ノ如シ。

一、直觀的實物ヲ用ヒテ計算セシムベシ、何トナレバ初歩ニ於テ知覺ト連結セザレバ正

確ナル計算ヲナス能ハズ、其概念成立ノ基礎ヲ曖昧ナラシムルモノナレバナリ。但此時用フル實物ハ精密ニ各個ニ付テ觀察セシメテ說明ヲ與フルコトナキヲ要ス。之レ却テ兒童ノ意識ヲ錯亂セシメテ數ノ明斷ヲ妨ゲル恐アレバナリ。

二、數ノ取扱ハ多方的ナルベシ、加減乘除ヲ併用スベシ、加ト乘トハ數個ヲ一團トシテ認メシメ、減ト除トハ之ヲ區分シテ認メシムルモノニシテ、數ノ概念計算ノ性質ヲ明カニスルニハ之ヲ併用スルヲ必要ナリトス。

三、十以下ノ數ノ計算ニ熟セシムベシ、一ハ兒童ノ心意幼稚ニシテ多數ヲ扱フニ適セザルト、(心理的)一ハ計算ノ基礎ダル性質ヲ有スル(論理的)ヲ以テナリ。

四、計算ノ必要ヲ悟ラシムベシ、是レ初步ノ敎授ニ於テハ實ニ必要ナルモノナリ。故ニ材料ヲ兒童ノ身邊ニ求メテ之ヲ計算セシメ、兒童日常ノ經驗ニ適用スベキ機會ヲ逸セザルヤウ努ムベシ。

三、歐洲中古寺院學校ノ訓練主義及、バゼドウ、ペスタロッチ、ヘルバルト、諸氏ノ訓練主義ヲ比較論評スベシ

歐洲中古寺院學校ニ於テハ宗敎上神ニ對スル敬虔ノ念ヨリ人ノ自然的本性ヲ邪惡ナルモノト認メタルニ由リ、其訓練主義ハ克己制慾ノ主義トナリ、知的敎授ニ於テ煩瑣ニ流レタルト等シク、訓練主義ニ於テハ嚴格ナル壓制主義ヲトレリ。然レ𪜈實際師弟ノ間親愛ヲ以テ結バレ、生徒ハ其嚴ナルモ苦マザリシト云フ。サレド此ノ如キハ人性ノ自然ニ反シ活動ヲ抑制シ發達進步ハ期スベカラズ。是訓練上ノミナラズ實ニ中世一般ノ思潮ナリキ。茲ニ於テ彼ベーコンハ自由討究ヲ唱ヘ、自然ノ呼聲ヲ高メ、コメニウス等之ヲ敎育ニ應用シ、ルーソーニ至ツテ極端ナル自然主義ヲ唱ヘ、凡テノ人爲ヲ排セントスルニ至リヌ、此ルーソーノ主義ヲ半バ實際的ニ改良ヲ施シ、之ヲ以テ實地ノ敎育ニ努メタルモノヲ、バゼドートス。氏ハ溫和仁ヲ以テ旨トシ責罰ヲ施サズ學生ヲシテ學校ヲ愉快ナルトコロト思ハシメ、實地ニ不幸者ヲ觀察セシメ、自己ノ幸福ヲ悟ラシメ、仁愛ノ念ヲ起サシムルガ如キ方法ヲトレリ。サレド此ノ如クニ只管寬大仁愛ヲノミ主トスル時ハ制限ノ適當ナルモノナキガ故ニ、正邪ヲ混同スルノ弊アリテ健全ナル方法トハ云フベカラズ。ペスタロッチ氏モ又此ノ如ク兒童ニ對スル獻身的愛ヲ以テ具ニ難苦ヲ嘗メタリシガ、其主

義トスルトコロハ兒童ノ個性ヲ重ジ師弟間ヲ親密ニシ、信仰ト愛情トヲ以テ品性陶冶ノ根本主義トナシ、實踐躬行ヲ以テ生徒ヲ薫化セントセリ。其熱誠實ニ教育家ノ模範タルモノナリト雖モ、未ダ系統的ニ其教育法ヲ説カザルヲ以テ尚科學的ノ理論ニハアラザリシナリ。サレド氏ノ功績ハ後ノ學者ニ由リテ稱セラル。

更ニ進デ倫理學心理學ヲ基礎トシテ教育學ヲ組織セシモノヲヘルバルト氏トス。氏ノ訓練主義ハ今詳細ニ之ヲ説ク能ハズト雖モ、要スルニ道徳的品性ノ陶冶即五道念ノ完成ハ其目的ニシテ、品性成立ノ原理タル意志ノ記憶ノ理ニ基キテ其方法ヲ立テ、管理教授訓練三者相俟ッテ以テ教育ノ目的ニ達セントスルニアリ。

之ヲ要スルニ中世ノ寺院學校ハ個性ヲ認ムルコト少ナキニ過ギテ一律ノ下ニ壓制セントシ、パゼドウ及ペスタロッチハ之ニ反シテ個人ノ活動ヲ重ジ、愛ヲ以テ生徒ヲ薫陶セントシタリ。サレド兩者共ニ學理的説明ノ充分ナル根據ナカリキ。此點ニ於テヘルバルト氏ハ大ニ學界ニ貢獻シタルモノナリキ。サレド尚氏ノ説ノ如キ個人的ニ偏セルノミナラズ、倫理心理ノ學ニモ多クノ缺點ヲ有シ、今日諸科學ノ發達ニ伴フテ已ニ維持スベカラザル

モノナリト攻撃スルモノアリ。而モ是レ尚ホ現今議論問題ナリ

四、圖畫、唱歌、手工ノ教育的價値如何

圖畫唱歌手工共ニ技能的學科ニシテ共通ノ性質ヲ有スルヲ以テ之ヲ一括シテ述ベントス、

一、心理的ノ價値各覺官ヲ修練シ、知覺作用ヲ鋭敏緻密ナラシメ、且身體ヲシテ意志ノ命ニ忠實ナラシムル堪能ヲ養成ス。

二、倫理的及審美的價値、秩序清潔注意等ノ諸德ヲ養ヒ、審美的趣味ヲ養成シテ自然ニ品格ヲ高尚ナラシム。

（ケルン氏教育學第廿二節ヲ引用スベシ）

三、實用的價値（知レ切リタルコト故略ス）

五、地理歴史ノ教科書ノ選擇及其使用上ノ注意如何

教科書撰擇ノ標準、

一、材料、其撰擇排列共ニ宜シキヲ得タルモノ（是レ別ニ研究スベキ問題ナリ）

二、記述ノ體裁、教授シタル事項ヲ簡略ニ系統的ニ記載セルモノヲトルベシ。

三、文章、簡明ヲ主トスルト雖モ、ヤヽ趣味ヲ有シ誦讀ニ適スベシ。殊ニ歴史ニ於テ然リトス。

使用上ノ注意

一、其奴隷トナルコト勿レ。

二、記載ノ事項ハ可成記憶セシムベシ。
（其他一々記載スルトキハ尚種々アルベシ）

六、教授上ニ復習ヲナサシムル目的、及之レヲナサシムル上ニ注意スベキ點ヲ擧示スベシ

教授上復習ヲナサシムル目的ニアリ、(一)記憶ヲ強固ナラシムルタメニ、(二)次ノ教授ノ準備トシテ是ナリ。實際ニ於テハ此兩樣ノ目的ヲ兼ヌル場合多シ。

一、系統的ニ綜括シテ全體ヲ通覽スベキ用意ヲ以テナサシムベシ。

二、一回ノ時間ヲ短クシ回數ヲ多クセシムベシ。（較近ノ實驗ニ由ル）

三、常ニ一律ニ反復セシムルノミナラズ、多少新ラシキ意義ヲ發見セシムベシ。（等ヲ布

演スベシ）

七、小學校ト中學校及實業學校トノ關係聯絡ヲ如何ニ定ムルヲ適當トスルカ

小學校ハ國民必須ノ普通ノ陶冶ヲ施ストコロニシテ、其程度ニ由リテ尋常（四年）高等（四年）ノ二種アリ、中學校ハ尚進ンデ高等ナル普通陶冶ヲ施ストコロニシテ、五ケ年科程ナリ、實業學校ハ專門ノ業務ヲ授クルヲ以テ目的トシ、初等高等ノ二種アリ。中學校ハ普遍ノ陶冶ヲ目的トスルモノナレバ、現制ノ如ク小學六年ヲ修メシモノヲ入學セシムルヲ適當トス。

元來專門ノ實業ニ關スル學科ヲ深ク研究センニハ、他ノ普通學科ノ知識ナクテハ十分ナリ難キノミナラズ、國家有用ノ實業家タランニハ普遍陶冶ヲ缺クベカラズ。故ニ中學卒業ヲ以テ之ニ入ルヲ適當トスレド、又社會及個人ノ經濟上ノ原因ニヨリ初等ノ實業學校ヲ設クル必要アリ。

此場合ニハ專門ノ學校ト雖モ尚普通陶冶ニ留意スルトコロ多キヲ要シ、且小學八年ノ課

程ヲ修メタルモノヲ入ルヽヲ可トス。尚此ノ如キ學校系統ノ問題ハ兒童ノ心意ト國民生活ノ實際トヲ精細ニ調査シ、社會學倫理學ノ示ストコロノ目的ニ照シテ立論スベキナレドモ今之ニ及ブノ遑ナシ。

八、次ノ文章ヲ尋常小學校第四學年ノ兒童ニ教授スベキ教案ヲ作レ

春色

そのふの梅のれひ風に、わが住む山も、春めきぬ、
門田の雪もむらぎえて、若菜つむべく、野はなりぬ、
彌生のそらに、野邊見れば、すみれの花咲く山見れば、
雪かあらぬか、そこかしこ、さくらの花も咲きそめぬ、

一時間ノ豫定ヲ以テ教授ノ順序ニ從テ記述スレバ、

一、目的指示　「今日ハ春色ト題スル面白キ歌ヲ學バン」

二、準備

イ思想上、初春野邊ノ景色ニ付テ兒童ノ經驗ニ付テ問答ス。

ロ別ニ未知ノ文學ナケレバ左ノ句ニ付テ意義ヲ知ラシム。

おひ風　春めく　むらぎえ等

三、提示

イ讀方　生徒ヲシテ句讀ヲ正シク讀マシメ、或ハ教師模範的ニ朗讀ス。

ロ意義　生徒ヲシテ歌ノ順序ニ從テ、其意義ヲ悟ラシメ、其誤リヲ正ス。

ハ文法上及修辭上ノ說明

一、「野はなりぬ」ノトコロヨク前後二段ニ分チ各其意義ノ完成スルヲ知ラシム。

二、一段ヲ句ニ分解シテ四ヨリ成ルヲ知ラシメ、更ニ七五調ナルヿヲ知ラシム。

三、此ノ如キ歌ヲ今樣トイヒ、短歌ヨリ分ツコトヲ知ラシム。

四、復習及應用

更ニ朗讀ヲ練習セシメ、又唱歌ノ時間ニ於テ譜ヲ授ケテ歌ハシメ、作文ノ時間ニ於テ之ヲ談話語若シクハ普通文ニ改メシメ、或ハ之ニ擬シテ韻文ヲ綴ラシム。

（備考）準備提示ノ項目中、理論上ヨリスレバ兩項相互ニ混交セルヲ免カレザレドモ、暫

グ實地ノ便宜上ヨリ立案セリ。

◉國語漢文科

一、左ノ文ヲ解釋スベシ

遠き處より思ふ人の文を得てかたくふんじたるそくひなど放ちあくるほど心もとなしとみの物縫ふに暗きをり針に糸つくるさへ遅きれど我はさるものにてありぬへき處をとらへて人につかさするにそれもいそげばにやあらむとみにもえさし入れぬをいで只なすげそといへどさすがになどてかはと思ひ顔にえさらぬは憎ささへそひぬ

遠方カラ我ガ戀ヒ思フ人ノ書信ヲ得テ、其ノ堅ク封シタ（ふんじハ音便）飯糊等ヲ剝ギ開ク間ハ、待チ遠ニテ心イラッモノナリ。又急ニスベキ物（衣類等ニヤ）ヲ縫フ爲ニ、暗キ時針ニ糸ヲ付ケル。シカシ自身ハ其針ノ程ヨキ所ヲ持チテ、人ニ糸ヲ付ケサスルニ、其ノ付ケサセラル、人モ急ギ故カ、急ニハ針ノ「メド」ニ糸ヲ插シ入レヌノヲ、我ハモドカシク思ウテイヤモウ（いでや）只其ノマヽニ止メテ糸ハ通スナト言ヘドモ、彼ハシカシナガラドウシテ通シ得ヌコトノ有ルベキト、思フ顔ツキニテ止メ去ラヌノハ、心モトナキノミカ憎ササヘ添ヒ加ッタ。

二、左ノ文ハ傍線引キタル處ノミ解釋スベシ

世に歌よむ人多し或は短歌に巧みに或は長歌にかしこく或はふみかくわざにすぐる世に古學びずる人多し或は御代々々の書をあきらめ或は四つのおきて文に委しく或はあかれる世のふることぶみに心を深め或は後の世の物語書を枕ごとにすその人に問へば彼れに委しきはこれにおるかにこれに思ひ入りたるは彼處に心淺し然のみならずやまとざうしの上には口さきらきゝたるも唐ぶみに向へば爪くはるゝ類多しまことそれもことはり誰やし人かば皆がら兼ねそなへたるあらむわが家の佛尊ぶにはなけれど此の道々に行きとほりて萬たど〳〵しからぬは吾が師錦織の舍の翁のみなむおはしける

四つの……　律令格式の文

枕ごと……　枕は朝夕取リナラスモノナルヨリ起リテ、朝夕ノ言草トスル意、

やまとざうし…我ガ日本ノ雙紙類ノ書物ノ上ニハ、口才利キテ彼是トサカシク論フモ、漢籍ニ向ヘバ一言モイヒ得ズシテ恥デ入ル類ノ人多シ。（爪くふハ恥入ル貌）

誰やし人……誰人カ前ニ擧ゲタル「或ハ御代々々の」以下、「後の世の物語書」ニ至ル諸種ノ學ビテ、皆ナガラ兼ネ備ヘタル博學者アラン、恐ラクサル人ハアルマジ。

わが家の佛……是レ廣ク世ニ行ハレタル諺ニテ、同ジ佛ニテモ、我ガ家ノ佛ハ特別ニ貴ク思ハルトイフ意ニテ、人情、己ガ家ノモノナレバサホド善カラヌモノモ特ニ貴ク思フヲイフ。

鏡織の舍……「にしごりのや」ト讀ミテ、此文ノ作者清水濱臣ノ師、村田春海ノ號ナリ「翁」ハ尊稱。

三、左ノ歌ニ文法上ノ誤謬アラバ其理由ヲ附シテ說明セヨ

うめが香を袖にうつしてとゞめては春は過くともかたみならまし

「とゞめて」ノ「て」ハて、て、つ、つる、つれ、トハタラク過去ノ助動詞ニシテ、「は」トイフ互爾波ハ事物ヲ各自ニ差別スル意ヲ有ス。故ニ「とゞめては」ハ「止ムル」トイフ動作ヲ既ニ行ヒテハノ意ナリ。然ルニ末ハ「まし」ナル推量ノ助動詞モテ結ベレバ、呼應ノ法則ニカナハズ。故ニ「は」字ハ動詞、助動詞、形容詞ノ第一轉ニ連リテ、未定ノ意ヲ成ス「ば」トイフ互爾波ニ改メザルベカラズ。

四、左ノ語ノ差別ヲ說明セヨ

見す、見さす、見せさす、

「見す」ハ複對他動詞、「見さす」ハみ、み、みる、みる、みれトハタラク他動詞ノ第一轉ニ「さす」トイフ使役相ノ助動詞ノ連リタルモノ、「見せさす」ハ見せ、せ、す、する、すれトハタラク複對他動詞ニ「さす」トイフ使役相ノ助動詞ノ連リタルモノナリ。故ニ「見す」ハ我レ甲ニ向テ「見せる」トイフ動作ヲナスナリ、「見さす」ハ我レ甲ニ「見る」トイフ動作ヲナサシムルナリ、「見せさす」ハ我レ甲ヲシテ乙ニ向テ「見せる」トイフ動作ヲナサシムルナリ。

（右四問題及ビ作文ヲ通ジテ四時間）

一、天將ニ大任ヲ於ニ是人ニ也。必先苦ニ其心志ヲ一勞ニ其筋骨ヲ一餓ニ其體膚ヲ一空ニ乏其身ヲ一行ニ拂亂ス其所ヲ一爲ス。所ニ以動ニ心忍ニ性曾益ニ其所ニ不ル能ヲ一。人恆過テ然後能改ム。困ニ於心ニ衡ニ於慮ニ而後作ニ徵ニ於色ニ發ニ於聲ニ而後喩ル。入則無ニ法家拂士ニ出則無ニ敵國外患者ニ國恆亡ブ。然後知ニ生ニ於憂患ニ而死ニ於安樂ニ也（孟子）

天帝ガ大ナル役目ヲ是ノ人ニ負ハサウトスル片ニハ、必ズ始メニ其ノ人ノ心ヲ苦マシメ、其ノ人ノ身ノ筋骨ヲ勞苦セシメ、其ノ身體ヲ飢餓セシメ、其ノ身ノ必用物ヲ空シク乏シカラシメ、其ノ爲ス所ノコトハ失敗ニ歸セシメ、萬事意ノ如クナラザラシムルハ、其ノ人ノ心ヲ竦動シ、其ノ性ノ偏向スル所ヲ忍ビ矯メテ、其ノ才德ノ不足ヲ增益セシムル所以ノモノデアル。一體常人ハ常ニ過チヲシテ然ル後ニ、ソレト悟テ能クソヲ改メ、事ニ當テ心中ニ困苦スル所アリ。其事常ニ思慮ノ中ニ橫ハリテ心配ガ絕エヌトイフ樣デアッテ、後ニ始メテ奮發シ又事ヲ幾徹ニ察スルコガ出來ヌカラ、ソノ事既ニ表面ニアラハルヽニ至テ、人ノ顏色容貌ニ驗シ、人ノ聲音ニ發スルヲ聞テ始メテ喩ル所ガアルモノデアル。故ニ人モヤ患難痛苦ノ外界ノ刺激ガ最必要デアル。彼ノ諸侯ノ內ニハ法度ニ遵フ世々ノ臣下、或ハ輔弼ノ臣ナク、外ハ敵國ヤ外患即チ戎狄ノ侵入トカ、外國ノ攻伐トカイフ刺激ナク、耳ニ逆フ忠言ヲモ聞クコトナク、何ノ國外ニ對スル心配モ無キモノハ、ソノ國恆ニ滅亡スル。之ヲ觀テ然後ニ、人ハ憂慮患難ノ間ニハ却テ奮發熟慮ノ結果生々ノ道ヲ得、安穩快樂ノ際ニハ淫逸放肆ニ流レテ死滅ノ道ニ陷ルモノナルヲ知ル。

二、管仲既ニ任ジ政ヲ相ケ齊ヲ。以テ區々之齊在ニ海濱ニ通ジ貨ヲ積ミ財ヲ富マシ國ヲ強クシ兵ヲ。與俗同ニ好惡ヲ一故ニ其稱ヲ曰ク。倉廩實テ而知ル禮節ヲ。衣食足テ而知ル榮辱ヲ。上服度ニ則チ六親固シ。四維不レ張レバ國乃チ滅亡ス。下令ヲ如キ流水ノ之原ニ。令ノ順ヒ民心ニ故ニ論卑クシテ而易ク行ヒ。俗ノ之所ハ欲スル因テ而予ヘ之ヲ。下ノ之所ハ否ム因テ而去レ之ヲ。其ノ爲ス政ヲ也。善ク因テ禍ヲ而爲シ福ト。轉ジテ敗ヲ而爲シ功ト。貴ビ輕キニ重ミ。愼ミ權ヒ衡ヲ一管仲既ニ執政ノ權ヲ委任セラレテ齊國ノ宰相トナリ、小サキ齊ガ海濱ニ在ルヲ以テ財貨ノ有無ヲ通ジ、貨財ヲ蓄積シ、國ヲ富マシ兵ヲ強クシ、民俗ト好ム所惡ム所ヲ同一ニシタ。故ニ管仲ノ言ニ曰ク、人民窮乏、衣食ニ事缺ク樣ニテハ、イカデカ禮節榮辱ノ別ヲ知ルノ遑アラン。倉廩（クラ）ニ穀物ガ滿チテ後禮節ヲモ知リ、衣食ガ足リテ後名譽不名譽ノ區別

ヲモ知ルノデアル。在上者ガ法度ニ違ハヌ樣ニスレバ、父母、兄弟、妻子ノ六親ノ中カタク（禮義廉恥ノ四ツノヅナガ確ト張ラナケレバ、（禮義廉恥ガ行ハレナケレバ）國ハソコデ滅亡スルト、管仲ガ令ヲ民ニ下スノハ流水ノ源カラ低キニ向テ下ル如ク、民ノ心ノ自然ノ趨勢ニ順ハシメタ故ニ、其ノ論ハ卑俗デアッテ行ヒ易ク、民俗ノ願フ所ハソレヲカナヘテ願フ所ノ事物ヲ與ヘ、民俗ノ否ミ嫌フ所ハ之ヲ去リ除クコトニシタ。彼ガ政ヲ爲スニハ善ク上手ニ禍ニ因テ其レヲカヘテ福トシ、失敗ニ因テソレヲ轉ジテ成功トシ、事ノ輕重ヲハカルコヲ貴ビ、物ノ釣合ヲ程ヨクスルコヲ愼ンダ。故ニ禍敗モ彼ノ爲ニハ福ト功トヲ成ス機會トナリ、事物各々ソノ處ヲ得テ輕重ノ權衡ヲ失スルコトナク國ヨク治ッタ。

三、明代文辭ノ德川時代ノ漢文學ニ及ボシタル影響ヲ略述セヨ、

模擬剽竊古書ノ字句ヲ割裁シテ以テ文辭ヲ作爲シ、其ノ弊ヤ支離滅裂殆ド句讀スベカラザルニ至レルモノ、之ヲ明代李王ノ古文辭トナス。我邦荻生徂徠絶世ノ才ヲ以テ李王ノ說ヲ尊信シテ、文ハ先秦、詩ハ盛唐ヲ師法トナスベシト唱道シテヨリ、其ノ徒相和シ沿々トシテ天下ヲ擧ゲテ模擬剽竊ノ渦中ニ沈淪セシメントセリ。中井履軒ガ近世爲復古之學者、妄以古文爲號、剽竊蹈襲以爲古文……模經之燒痕、效史之闕文、寸斷咫割湊合成編、錦繡百結、間以卉服、險怪腐爛醜態萬狀、乃大言以釣譽……ト喝破セシモノ、能ク明代古文字ノ影響ヲ受ケタル徂徠一派ノ弊病ヲ說盡セリ。

四、左ノ文ヲ漢文ニ復セヨ

道ハモトヨリ遠キニ行ハレテ近キニトドマルアリ往ニ忽ニセラレテ今ニ貴バルヽモノアリタヾ世俗好惡ノ然ラシムルノミニアラズマタ其ノ理マサニ然ルベキモノアリ（歐陽修文中ノ一節）

道固有行於遠而止於近。有忽於往而貴於今者。非惟世俗好惡之使然。亦其理有當然者。

（右四問題ヲ通ジテ四時間）

◉歷史科

日本史

第十四回

一、推古天皇御代ノ顯著ナル事件、

推古天皇ハ我國女帝ノ始メニシテ、此時外國トノ交通開ケ、佛敎新ニ來リナドシテ、歷史上顯著ノ事件甚ダ多シ。今年代ニ從テ之レヲ歷記スレバ、

即位元年、厩戸皇子ヲ立テ、皇太子トシ、仍テ萬機ヲ委ネテ攝行セシメ給フ。之レ我國攝政ノ始メナリ。

二年二月、皇太子及ビ大臣ニ詔シテ三寶ヲ興隆セシメ給フ。蓋シ我國ニ於テ佛敎興隆ノ詔勅ノ出デシ始メナリ。是ニ於テ諸臣連等爭フテ君父ノ爲メニ佛寺ヲ營造スルニ至ル。

而モ十五年九月群臣ニ詔シテ、心ヲ竭シテ神祇ヲ拜セシメシヲ見レバ、敎神奉佛並ビ行ハレシガ如シ。

三年五月、高勾麗僧惠慈、百濟僧惠聰來朝シテ佛法ヲ弘メ、翌年十一月ニ至リ法興寺ヲ建立ス。之レ後ニ南都七大寺ノ一タル元興寺ナリ。

五年四月、百濟王阿佐ヲ遣ハシテ朝貢セシム。十一月吉士磐金ヲ新羅ニ遣ハス、八年新羅任那間ニ爭アリ依テ任那ヲ救ヒ新羅ヲ征シ、次テ媾和ス。二國共ニ朝貢セリ。九年兵ヲ高勾麗ニ遣ハシテ任那ヲ救ヒ十年復タ新羅ヲ討ツ。後十八年二十六年、兩度高勾麗僧ヲ遣ハシ、或ハ朝貢ス、三十二年新羅任那共ニ朝貢セリ、幾クモナクシテ任那終ニ新羅ニ取ラル。

十年、百濟僧勸勒來リ、歷、天文、地理、遁甲、方術等ノ書ヲ奉ル。乃チ書生ヲ選ビ勸勒ニ就テ學バシム。

十一年、始メテ冠位十二級ヲ定メ、翌年ニ至リテ頒チ賜フ。

十二年、厩戸皇子憲法十七條ヲ撰ブ、我邦法文ノ初ナリ。

十五年二月、始メテ支那トノ交通ヲ開ク、卽チ小野妹子ヲ使トシ隋ニ遣ハス。

二十八年、皇太子大臣馬子ト議シ、天皇記、國紀、臣連伴造國造百八十部、公民等本紀ヲ作ル、我國修史ノ始メナリ。

三十二年四月、詔シテ始メテ僧正、僧都、法頭等の僧官ヲ置キ、寺及僧尼ヲ檢校セシム。

二、念佛宗ノ起原

本邦ニ於ケル念佛宗ハ其起原頗ル古ク、既ニ皇極孝德兩朝ニ於テ惠隱法師ハ宮中ニ入テ

大無量壽經ヲ進講セリ。其後久シク寓宗トシテ存セシガ聖德太子モ西方ノ往生ヲ願ヘリトイヒ、又諸宗ノ高僧ニシテ念佛ヲ信ジタル人頗ル多ク、奈良朝平安朝初期ニ發達セリ。

殊ニ慈覺大師圓仁、天台座主トナルニ及ビテ、山上ニ於テ常行佛神三昧堂ヲ創建セリ。之レ蓋唐國五臺山ノ念佛三昧堂ノ制ニ模倣セルモノニシテ、內ニ阿彌陀如來ノ尊像ヲ安置セリ。大師歿後ハ其遺意ヲ承ケテ不斷念佛ヲ山上ニ修スルニ至リシヨリ、其發達著シク、相應和尙延昌僧正等ハ有名ノ念佛者ナリケレバ、叡山ニ於テ念佛門ハ非常ニ盛大トナリ、延昌僧正ノ門下ニ阿彌陀聖ト呼バレシ空也上人出デ、諸國ヲ巡歷シテ稱名念佛ヲ勸奬シ、又叡山中興ノ慈惠僧正ハ延昌僧正ノ後ヲ襲ギテ座主職ニ登リテ亦念佛ノ信者ナリ。去レバ其門ニ惠心院僧都源信和尙ヲ出シ、其著往生要集ハ我邦ニ於テ念佛ノ法門ニ關スル著書ノ最初ナルモノナリ。融通念佛宗ノ開祖良忍上人ハ本ト常行三昧堂ノ堂僧ニシテ又源信僧都四世ノ法孫ナリ。遂ニ山ヲ下リテ別ニ念佛門ノ一宗ヲ開ケリ、是念佛門ガ獨立シテ一宗トナリシ權輿ナリ。而シテ法然上人ニ至リテ念佛門ハ完全ノ一宗トナルニ至レリ。

三、秀吉ノ朝鮮再征ノ軍ヲ出シ、事情

從來太閤記ノ說ヲ信ジ、朝鮮ノ再征ハ秀吉明國皇帝ノ位ニ即ク希望ナリシニ、明皇帝ノ封冊ニ爾ヲ封ジテ日本國王セントアリケレバ、大ニ怒リテ此擧ニ出デタリト稱スレドモ、事實ハ然ラズ。現ニ今日彼誥命ハ存在シ又明國皇帝ノ誥命ヲ以テ己ガ明國皇帝トナルトキハ理ニ於テモ有ルベカラザルナリ、且ハ秀吉ノ媾和條件ニモ斯ル個條ハ存セザルナリ、今其媾和條件ニヨルニ

一和平誓約無相違者天地縱雖盡玆矣、不可有違變也、然則迎大明皇帝賢女、可備日本之后妃事、

一兩國年來依間隙、勘合近年及斷絕矣、此時改之官船商舶可有往來事、

一大明日本通好不可變更之旨、兩國諸將、於朝鮮違前驅追伐之矣、至今彌爲鎭國家安百姓雖可追良將、此條目件々於領納者、不顧朝鮮之逆意、對大明分八道、以四道幷國城可還朝鮮國王、且又前年、從朝鮮差三使、投木瓜之奸也、餘蘊附與四人口實也、

一四道者既返授之然則朝鮮王子幷大臣一兩員爲質可有渡海事、
一去年朝鮮王子二人、前驅者生擒之、其人順凡間不混、四人度與沈擊、可歸舊國事、
一朝鮮國王之權臣、累世不可有違却之者、誓詞可書之、如此者爲四人向大明唐使、縷々可陳說之者也

是レ秀吉ガ朝廷ノ裁可ヲ得テ與ヘシ所ナリ、然ルニ明朝鮮ノ媾和使ノ來着スルニ及ビテ、朝鮮ハ王子又ハ王族ヲシテ來ラシメザルヲ怒リ、朝鮮使節ニ謁見スルヲ許サズ、慶長元年八月十九日明使ヲ大阪城ニ延見シテ、明國皇帝ノ詰命ヲ見ルニ、一トシテ授ケシ媾和條件ヲ滿スモノナシ、是ニ於テ終ニ再征ヲ企ツルニ至リシナリ。

四、左ノ人々ノ事蹟

甲、滋野貞主

滋野貞主ハ平城、嵯峨、淳和、仁明、文德ノ五世ニ歷仕シタル名儒ナリ、曾祖父猶原東人ノ時姓ヲ伊蘇志臣ト賜ハル、父尾張守家澤延曆中滋野宿禰ヲ賜ハリ、貞主ニ至リテ朝臣ニ陞ル。貞主軀幹長大、身長六尺二寸アリ、宏量雅懷ニシテ心至慈仁ナリ、最才學ニ長ジ、兼ネテ政治ノ才アリ、天長中勅ヲ奉ジテ、諸儒ト共ニ古今ノ文書ヲ撰集シ、類ヲ以テ相從フ、凡一千卷祕府略ト名ク、又經國集二十卷ヲ撰ンデ之ヲ上ル、承和中便宜十四事ヲ陳ズ、其後嘉祥ノ初、太宰府ノ官吏不良ナル者多ク、衰弊日ニ甚シキヲ聞テ、貞主慨然上表シテ時弊ヲ痛論ス、其官歷ハ大同中文章生ニ試ミラレテ及第シ、弘仁中大內記トナリ、外從五位下ニ叙シ、尋デ圖書頭ニ遷リ東宮學士トナル、承和中兵部大輔彈正大弼ヲ歷テ大藏卿ニ任ジ、讃岐守ヲ兼ヌ、後式部太輔ニ遷リ、參議ニ拜シ、勘解由使長官トナル。嘉祥初年尾張守ヲ兼ヌ。文德天皇即位ノ初正四位下ニ進ミ相模守ヲ兼ヌ。仁壽二年毒瘡ヲ病ンデ卒ス、年六十八。

乙、山名氏清

山名氏清ハ新田義重ノ後ナリ、父時氏足利尊氏ニ從テ功アリ、因幡、伯耆、丹波、丹後、美作、五國ノ守護トナル。氏清ハ其第四子ナリ。兄義理ト共ニ吉野ヲ攻メテ功アリ、義滿ノ時ニ當テ山名氏最盛ヲ極メ十一ケ國ヲ領ス、世ニ之ヲ六分一氏ト稱ス、是ニ於テ兄弟皆驕恣

幕命モ奉ゼザル所アリ、氏清ノ弟時義ノ子時熙氏之等モ亦横暴ニシテ氏清ト和セズ、氏清乃チ二姪ヲ義滿ニ讒ス、義滿仍テ氏清ニ討伐セシム。時熙氏之潜、義滿ニ哀訴ス、義滿之ヲ憫ミテ氏清ニ諭ス所アラントス、氏清怒テ兄師義ノ子滿幸ト共ニ兵ヲ擧ゲテ和泉ニ據ル、時ニ僧中津氏清ヲ訪フテ諭サントカメタレモ聞カズ、進ンデ男山ニ陣ス、將軍義滿親征ス、先鋒山名時熙、一色詮範等來リ攻ム、氏清遂ニ敗死ス、時ニ明德元年ナリ

丙、僧策彦

足利氏ノ時明國ト交通盛ナリシトキ專ラ其外交ノ局ニ當リテ、國内ニ在リテ外使ト接衝シ、海外ニ渡航シテ使命ヲ致ス者概皆僧侶ノ任ズル所ナリ、僧策彦ハ足利幕府最終ノ遣明使ナリ。策彦和尚諱ハ周良丹波ノ人俗姓井上氏、少ニシテ鹿苑院ニ投ジテ落髪シ、後景德臨川天龍諸寺ニ居ル、天文七年將軍義晴僧碩鼎ヲ以テ遣明正使ニ任ジ、策彦ヲ副使トシヲ遣シテ勘命印ヲ求メシム、和尚ガ此行ノ起錄四冊アリ、策彦和尚初渡集トイフ、當時明廷ハ前使素卿ノ亂ニ懲リ使舶ヲ檢シテ悉ク防盜ノ兵器等ヲ沒取シ、使節ノ旅館外ニ出ヅルヲ許サズ、又貢期ヲ十年一回トシ、舟三隻人三百ニ限ル碩鼎等爭ヘドモ許サレズ、十年六月歸朝ス、後又天文十六年五月策彦正使トナリ明ニ使ス、其記二卷アリ、策彦和尚再渡集トイフ、十九年五月歸朝ス。

五、左ノ事項ノ說明

甲、公廨稱ノ處分

公廨稱トハ春民ニ稻ヲ貸シ、秋ニ至リテ若干ノ利ヲ加ヘテ返サシムルノ法ナリ。之ヲ出擧ストイフ。而シテ其利ハ諸國、官衙、及ビ諸司等ノ用ニ供スルナリ。

乙、小譜請

德川氏幕政時代、二石以上三千石以下ノ旗下ノ士ニシテ非職閑散ノモノヲ稱シテイフ。

丙、准三后

一ニ准三宮トモ云フ、又單ニ准后トモ云フ。三后ニ准ズルモノヲ云フナリ。蓋、天皇ノ祖母(大皇大皇后)母(皇大皇后)妻(皇后)ヲ云フナリ。

東洋史

一、東西魏分立ノ始末

魏孝明帝ノ朝、盜賊外ニ蜂起シ、胡太后内ニ淫ヲ恣ニシ政漸ク衰フ。孝莊帝
其相爾朱榮ヲ殺スニ及ビ、其族帝ヲ弑シテ節閔帝ヲ立ツ。時ニ懷朔縣ノ函使ニ
モノアリ、兵ヲ鄴ニ起シテ之ヲ討シ、進ンデ洛陽ニ入リ帝ヲ廢シテ孝文帝ノ孫、修ヲ
ヲ、之ヲ孝武帝ト云フ。獻大宰相トナリ晉陽ニ居ル。時ニ關西大都督宇文泰威名アリ、帝
獻ヲ忌ミ泰ニ信賴ス。泰亦獻ト好カラズ、帝晉陽ヲ伐タント欲ス、獻兵ヲ擁シテ洛陽ニ
向フ。帝長安ニ走リ泰ニ倚ル。獻帝ノ歸洛ヲ請フコト四拾餘啓ニ至ルト雖モ帝遂ニ報セ
ザリシカバ、乃チ宣武帝ノ姪孫淸河王ノ世子善見ヲ洛陽ニ擁立ス。之ヲ孝靜帝トス、然
レドモ洛陽ハ西方西魏ニ逼リ南梁境ニ近キヲ以テ鄴ニ遷ランコトヲ奏シ卽チ之ヲ行フ。是
リ後魏東西ニ分ル。魏建國以來是ニ至ル迄凡十二世百四拾九年ナリ、魏ハ其名有リト
雖モ實ハ高宇文兩氏ノ天下也其帝系左ノ如シ。

- 宣武帝—孝明帝
- 京兆王愉
- 孝文帝[6]
- 范陽王譯—淸河王亶—東魏孝靜帝
- 獻天帝
- 廣平王懷—西魏[11]孝武帝
- 彭城王勰—孝莊帝[9]
- 廣陵惠王—節閔帝[10]

二、元太祖西征ノ始末

元太祖成吉思汗已ニ位ニ卽キ、西乃蠻(ナイマン)部ヲ擊テ太陽(タヤン)汗ヲ殺ス、太陽汗ノ子曲出律(グチュルク)遁レテ
西遼ニ走リ、遂ニ西遼ノ王位ヲ奪フ、東蒙古ヲ伐テ父讎ヲ報ゼント欲ス、太祖其將哲別(チェベ)
ヲ遣シテ之ヲ逆擊ス、哲別曲出律ヲ追ヒテ巴達克山(バダクシャン)ニ至ル、西遼是ニ於テ滅ビ、蒙古ハ
直チニカリズムト境ヲ接スルニ至ル。時ニカリズムニハムハメット其王タリ、中亞細亞
ヨリアフガン地方ヲ領ス、太祖カリズムト通商ヲ開カント欲シ隊商數百人ヲ發ス隊商等
オトラル城主ノ殺ス所トナル、太祖依テ使ヲ遣シ之レヲ責ム、ムハメット伏セズ、却テ其
使ヲ斬ル。此ニ於テ問罪ノ師ヲ發シ西曆千二百十九年太祖其四子ト共ニ自ラ兵ニ將トシ
テカリズムヲ侵ス、ムハメット戰敗シ西奔シ終ニ裏海中ノ小島ニ遁レ病ンデ死ス、其子
札蘭丁(ゼラルヂン)ハ南ニ遁レテ印度デルバイノアルタムシニ依ル、太祖其將八剌(ベラ)ヲシテ追ハシメシ

ガ及バズ、八剌北印度ヲ略シテ歸ル、卽チ軍ヲ收メテ東歸ス、哲別、速不台二人ハ遠ク西征シテ歐洲ニ入リ、突厥種ナル欽察(キプチャク)國ヲ侵ス、欽察援ヲ露西亞ノ諸侯ニ乞フ、キュフ大公以下ノ諸侯乃チ欽察ト兵ヲ合セテ蒙古トカルカ河ニ戰ヒテ大ニ敗ル、會々哲別等ハ太祖東歸ノ報ヲ得テ卽チ亦歸路ニ就キブルガン及ビ康里(カンクリ)ノ地ヲ經テ、太祖ノ軍ヲ合シ、共ニ東還ス時ニ西曆一千二百二十六年ナリ、太祖西征ノ師ヲ起シテヨリ前後七年ナリト雖モ前後三年ハ往還ニ費シ其西城ニ戰ヘルハ中間四年ノミ、

三、左ノ人々ノ顯著ナル事蹟

甲、阿輸迦王

阿輸迦王ハ西曆紀元前二百五十年頃印度摩掲陀(マカダ)國ノ毛利亞(モーリヤ)朝ノ王ニシテ、旃陀羅笯多(チャンドラグプタ)王ノ孫ナリ、佛敎ニ於ケルコンスタンチント稱セラル、初メハ大ニ佛敎ヲ抑壓セシガ一朝忽チ熱心ナル信徒トナリ卽位ノ十八年佛敎ヲ整理記錄センガ爲メニ千人ノ僧侶ヲ其都ニ集メ、有名ナル結集ヲナス又僧侶ヲ五印度ノ內外ニ派遣シテ弘法ニ力メ其子摩晒陀(マヒンダ)ヲ錫蘭島ニ遣シ錫蘭島佛敎ノ初ヲナス、又國內ニ在リテハ屢々法令ヲ發シテ政治法律、風俗道德悉ク佛敎ニ依ルベキヲ令シ、佛塔伽藍ヲ諸所ニ起ス、彼ノ八萬四千ノ寶塔ヲ世界ノ各所ニ建立セシト云フモ實ニ此王ナリ、斯ク王ハ一方ニ於テ熱心ナル佛徒ナリト雖モ、決シテ波羅門敎ニ對シテモ無道ナルモノニアラザリキ、近頃此王ノ佛敎ヲ勸メ人民ニ令セシ文ヲ刻セル碑石印度ノ各地ニ發見セラレ其中ノ一ニヨレバ王ハ希臘埃及ニ至ル迄モ其敎ヲ弘メタルガ如シ

乙、李舜臣

文祿元年四月九鬼嘉隆脇坂安治、加藤嘉明等水軍九千二百人ニ將トシテ釜山ニ入リ次デ慶尙道海岸ヲ西航シ、唐島ニ近ク釜山ノ水使元均ヲ破ル、元均助ヲ當時釜山ノ左水タリシ李舜臣ニ求ム、舜臣戰船八十餘隻ヲ率キ來リ我軍ト巨濟島附近ニ戰ヒ、次デ唐項浦ニ戰ヒ我船ヲ燒ク、月舜臣、億祺、元均等ト船數百隻ヲ以テ見乃梁ニ來ル、脇坂安治之ヲ迎擊ス、舜臣巧ニ般隊ヲ操リ大ニ安治ヲ破ル、嘉隆、嘉明等、赴援シタレドモ利アラズシテ退ク、舜臣又安骨浦ニ來襲ス、長曾我部元親等苦戰シテ之ヲ卻ク、幾モナク舜臣元均ニ讒セラレテ罪ヲ得タリシガ、元均慶長二年七月行長ノ爲メ破ラルヽニ及ビ再ビ水軍ニ將

トシテ菅リニ對馬釜山ノ間ニ出沒シ以テ我糧道ヲ阻ム、慶長二年八月秀吉薨ジ、諸將班師セントスルヤ舜臣明將鄧子龍ト我軍ヲ阻遏ス、島津義弘、宋義智等之ト露梁ニ激戰シ勝敗相當ル、然レ𪜈舜臣、子龍共ニ此戰ニ斃ル、我征韓軍ガ陸上ノ勝利ニ反シテ常ニ海上ニ不利ヲ取リシハ一ハ我水軍ノ幼稚ナリシニ由ルベシ、ト雖モ、抑モ亦舜臣船師ヲ操ルノ巧ナリシニ由ラズンバアラズ。

丙、左宗棠

左宗棠ハ清國湖南ノ人ナリ、咸豐中髮賊ノ亂ニ殊切アリ、依テ閩浙總督ヲ授ケラル、宗棠曩建ニ在リテ創メテ造船廠ヲ海岸ニ建テ佛人ヲ聘シテ汽船ヲ造ル、次デ陝甘總督トナリ當時跳梁ヲ極メ居タル捻匪ヲ陝西ニ討ジ進ンデ甘肅ノ回匪ヲ掃蕩ス、光緒帝位ニ即クヤ之ニ命ジテ新疆ヲ恢復セシム、時ニ新疆ノ南方ニ回匪ノ占領スル所ニシテ伊犁ハ露人ノ扼スル處タリキ、光緒二年宋棠師ヲ率ヒテ關ヲ出デ先ヅ天山北路ヲ下シ、次デ南路ヲ討チ、ヤクベクヲ破リテ悉ク南路ヲ定ム、朝廷依テ崇厚ヲ露ニ遣シ露人ノ伊犁退去ヲ請求ス、崇厚ノ結ベル伊犁第一條約ハ清國ノ不利大ナリシカバ、宗棠上表シテ抗論シ次デ兵ヲ發シテ伊犁ノ露人ヲ逐フ、此時ニ當リ清露互ニ開戰セントセシガ、曾紀澤ノ結ベル第二伊犁條約ニテ伊犁全土清ノ有ニ復ス後兩江總督トナリ光緒十二年ニ卒ス

四、左ノ地ニ起レル事蹟

甲、開城

開城ハ朝鮮京城ノ北十三里許ノ所ニアリ唐僖宗ノ頃今ノ朝鮮半島ヲ統一シ居タル新羅ハ漸ク衰ヘ、眞聖女王ノ君臨スルニ及ビ群雄四方ニ起リテ騷擾ヲ極ム、時ニ王建ナル者モ亦松嶽ニ依リ朝鮮ノ北部ヲ領ス王建ハ即チ高麗國ノ祖ナリ是ヨリ松嶽ヲ開城ト云ヒ、此ニ都スルコト四百餘年、宗大中祥符三年高麗王ノ臣康肇其主誦ヲ殺シ、誦ノ兄詢ヲ立テ己レ之ニ相タリ、遼主降緒高麗ヲ討チ鴨綠江ヲ渡ル、康肇敗レ退テ鋼州ヲ保ツ、遼人進ミテ肇等ヲ擒ヘ進ンデ開京ヲ攻ム詢城ヲ棄テ、平州ニ走ル遼人遂ニ開京ヲ焚ク、詢復タ開京ヲ復シテ之ニ居ル、今ノ王朝李氏起ルニ及ビ都ヲ漢城ニ移ス豐太閤征韓ノ役小西行長京城ヲ陷レ次ギテ開城ヲトリ更ニ北行ス加藤清正亦茲ニ至リ之ヨリ咸鏡道ニ向フ行長平城ニ敗レ先ヅ開城ニ退キ次ニ明將李加松等來侵ス行長退ク、獨リ小早川隆景等殿シテ敵

ヲ碧蹄館ニ破ル蓋シ碧蹄館ハ開城ヨリ京城ヘノ通路ニアリ。

乙、撒馬兒罕

撒馬兒罕ハ中央亞細亞ニアリ北史ニハ之ヲ悉萬斤ト云ヒ長春ノ西遊記ニハ尋思汗ト云ヒ、唐ニ在リテハ康國トモ薩末鞬トモ稱ス、玄奘三藏ノ西域記ニハ颯秣建ト記ス、共ニ今ノサマルカンドナリ、上古亞歷山大王ガ中亞細亞ニ侵入セシ頃ハ此地ハマルカンドト云ヒ、ソグヂアナノ首都タリ、大王ノ破壞スル所トナリシガ其後再ビ恢復シ、東漢三國時代ニハ佛敎大ニ流行シ支那ニ來リシ傳導僧モアリキ、唐ノ時代ニハ國王溫氏豪勇ニシテ屢四隣ヲ征服ス、後アラビア人ト戰テ克タズ、終ニ征服セラレ、然レモアラビア文化ハ茲ニ光華ヲ發シ建築善美ヲ盡セリ、西曆千二百十九年元太祖成吉思汗ノ西征スルニ當リ先ヅ打擊ヲ蒙リ、都市再ビ破壞セラレタルモ、帖木兒ノ中亞ヲ征定シテ此ニ都ヲ立ツルヤ再ビ昔日ノ盛大ヲ來シ隷屬諸國ニ使節ヲ送リテ朝貢ス、帖木兒死シテ沙合魯一時都セシガ西曆千五百年西方ノ月即別部長アブルチールノ孫シバン、サマルカンドヲ襲ヒ中亞ヲ占領ス、十九世紀ニ至リ魯人ノ有スル所トナリシガ此地ノ回敎徒ハ之ヲ異敎者ノ手ニ委スルニ忍ビズ屢々謀反ヲ企テタルモ終ニ露人ノ壓スル所トナレリ。

丙、佛陀伽耶

佛陀伽耶ハカンデス河ニ注グ所ノブバルク河ノ畔ニ在リ在昔釋迦牟尼ノ成道セシ聖地ナリ、初メ釋迦ハ迦比羅城ヲ遁レ出デ、暫ク跋迦仙、阿羅藍迦等ノ仙人ニ就キ其敎ヲ乞ヒシモ未ダ我心ヲ滿タスニ足ラザリシカバ、摩揭陀國中ヲ偏歷ス一日大ニ悟ル所アリ無益ノ禁慾ガ決シテ眞ノ解脫ヲ得ベカラザルヲ悟リ、乃チ尼連禪ノ河水ニ浴シ牧女難陀波羅ガ供養セル乳糜ニヨリテ氣力頓ニ輕快ニ感ズ、是ニ於テ尼連禪ノ流ヲ渡リテ此地ニ來リ菩提樹ノ下ニ結跏趺坐シ誓テ曰ク予正覺ヲ得ザレバ此坐ヲ起タジト此ノ如クニシテ思索ニ耽ルコト六年、終ニ二月八日ノ曉天明星方ニ現ハレントスル頃廓然トシテ大悟シ絕叫シテ曰ク、「有情非情同時成道、草木國土悉皆成佛」ト、時ニ三十五歲ナリキ、此地今尙ホ一大伽藍アリ、又彼ノ菩提樹モ數十年以前マデハ尙存シ居リシト云フ

一、中世紀間歐洲ニ及ボセルアラビア文化ノ影響ノ概略

七世紀ノ初葉モハメットガ回教ヲアラビアニ起セシヨリ以來其法嗣皆心ヲ外征ニ用ヒ大ニ其版圖ヲ擴メシガ遂ニダマスカス、バグダッド、コルドワノ三廳アリ、其文化遠ク當時ノ歐洲諸國ニ卓絶シ法律文學美術等大ニ發達シ、殊ニ商工業最モ盛ニシテバグダットノ如キハ堅固ナル重壁ヲ以テ市外ヲ繞ラシ數百ノ溝渠ヲ市中ニ通ジ當時東洋諸國貿易ノ中心タリ、マルガワノモハメットノ祠堂ノ如キ其結構ノ善美當時ニ比ナク、其工藝品ハダマスカスノ武具ダラナダノ絹ゴルドワノ鞍ナド當時歐人ノ嘆賞セシ所ナリキト云フ、サレド是等ノ回教的亞剌比亞的文明ハ初メノ程ハ歐洲ニ入ルコト少カリシガ、十一世紀ノ末葉ヨリ十字軍起リシヨリ歐洲人親シク之レニ接スルニ及ンデ爭ッテ工藝美術ヲ傳習シ、東洋諸國ノ奢侈品ヲモ嗜好スルニ至リ從テ工業通商貿易益々盛ナルニ至レリ。

二、一八二〇年白耳義、和蘭兩國分離ノ原因

初メ一八一五年維因會議ノ結果和蘭共和國及ビ墺領白耳義ハ合一シテネーザンランド王國ヲナシウィリヤム一世之ヲ統治セシガ、此二國ハ素大ニ其國情ヲ異ニセシヲ以テ、兩國互ニ相容レズ事々ニ其意見牴觸セル事甚多カリキ、然ルニ一八二〇年七月巴里ニ革命アリ其結果引イテ白耳義ニ及ビ此年八月廿五日ブラッセルニ一揆起リ、ウィリヤム即チ國中ニ令シテ白耳義和蘭兩國ハ自今全然法律行政ヲ異ニスベキヲ以テセルモ、猶人民之ヲ願ミズ、白耳義人ハ自ラ政府ヲブラッセルニ建テ獨立ヲ公布シ、國會ヲ開キテ新政ヲ行フニ至レリ、カクテ翌年一月倫敦會議ノ結果サクスコブルグノレオポルド一世ヲ白耳義王トシテ其獨立ヲ認許シタリシガ戰爭ハ一八三三年マデ繼續シ一八三九年ニ至リ和議調ヒ、倫敦會議ハ公認セラレヌ。

三、左ノ人々ノ顯著ナル事蹟

甲、キモン（Cimon）

キモンハ雅典（アゼンス）ノミルチヤデスノ子ナリミルチヤデスハ初波斯軍ト戰テ功アリシガ後クサンチッポスノ爲メニ彈劾セラレ五十タレントノ罰金ニ處セラレ之ヲ償却スルニ至ラズシテ紀元前四八九年遂ニ獄死ス、キモン父ニ代テ之ヲ拂ヒ後アリステイデスト共ニ波斯軍

ヲ討チテ功アリ希臘軍勝ツニ及ンデ雅典ハ益盛ニシテデロス同盟ノ主トナリ、キモンハセミストクレスアリステイデス等ト共ニ政ニ與リシガセミストクレスト相好カラズ遂ニ之ヲ退ケ、續イテアリステイデス亦退クニ及ンデキモン獨リ輿望アリ自ラ海軍ニ將トシテスレースノ地ヨリ波斯人ヲ逐ヒスキロス島ヲ服シ希臘ノ海岸諸市ヲ自由ニシ四六五年バンフィリヤノユウリメドン河口ニ於テ水陸共ニ波斯ノ軍ニ勝チテ其舟ヲ捕ヘ又ハ之ヲ沈沒スルコト二百ニ及ブ、雅典ハキモンノ配下ニ在リテ日ニ益盛ナリ、偶々バルタニ於テハ四六四年大地震アリ、又ラマニヤメッセナ等ノ奴隷起リテ之ヲ征スル能ハズ、即チ救ヲ雅典ニ求ム、キモンペリクレス等ノ率ユル民主派ニ反對シテ之ヲ救ヒシガスパルタニ於テハ其後雅典ヲ惡ム者勢ヲ占メ雅典ノ援軍ヲ謝絕セリ、是ニ於テ雅典人大ニ怒リペリクレス派勢ヲ得テ大ニ法律ヲ改メ貧民ヲ救フ、キモン勢ヲ失ヒ、彈劾セラレテ雅典ニ去レリ、之ヨリ雅典ハスパルタト戰ヒシガ兩國共疲レ雅典人ハ此戰ノ終局ヲナスモノハキモンニ如ク者ナシトシタリ、キモン追放五年ニシテ國ニ歸リ四五一年スパルタト五年ノ休戰ヲ約セリ、此時偶々埃及ニ一揆起リテ波斯ノ羈絆ヲ脫セントシ援ヲ雅典ニ求ム、キモン即チ兵ヲ率キテ之ヲ討チシガ偶々內ニ事有リキモン一時歸國セシカバ雅典ノ軍艦遂ニ波斯軍ノ爲ニ鏖ニセラル、キモン又出デ、キプロス島ノキチオンヲ圍ミシガ戰中ニシテ病ンデ死ス、

乙、アグリコラ (Agricola)

アグリコラハ羅馬ネロ帝ノ時紀元六一年ニストニウス、パウルリヌスニ從テブリタニヤヲ征シテ功アリ、後亞細亞地方ノ稅吏トナリテ清廉ノ聞エ高ク歸リテトリビーントナリプレートルトナリシガベスパシヤンノ時ブリタニヤノ公使トナリ、歸後パトリンヤンニ列セラレ、アキタニヤノ知事ヨリコンソルトナリ、ブリタニヤノ知事トシテ戰功アリ遠ク島中ヲ平ゲ舊弊ヲ除キ裁判ヲ公平ニシブリタニヤハ彼ノ治下ニ於テ益進歩セリ。帝チッスノ時マデ彼ハ其職ヲ續ケピクト及ビスコットヲ征服シ之ガ侵入ヲ拒グ爲メニ城塁ヲ英蘭蘇蘭ノ間ニ連設セリ、サレド帝ドミチヤン彼ノ功ヲ妬ンデシリヤノ知事タルベキノ約ヲ以テ羅馬ニ呼ビ還セシガ幾モナク死セリ時ニ九十三年或ハ曰フ帝ノ毒殺セシ所ト

丙、モリエール (Molierl)

モリエールハ一六二二年巴里ニ生ル、幼ニシテ戯曲演劇ヲ好ミ一六五三年頃俳優ノ群ニ入リ且ツ喜劇ヲ作リシヲ始トシ其作甚ダ多シ當時佛國文學隆盛ヲ極メ文學者ノ輩出セル者甚ダ多シド雖モ喜劇ニ於テハ彼ニ優ルモノナシ、時人彼ヲ呼ンデ喜劇家ノ大改革家ト稱ス彼ハ一六七三年二月病ヲ務メテ場ニ上リテ其作ヲ演ゼシガ歸宅後間モナク歿セリ年五十二、

丁、デスレーリ (Disraeli)

デスレーリハ一八〇五年英國ニ生ル、初メ法律ヲ學ブベカリシ彼ハ文學ヲ習ヒ二十三歳ニシテ其處女作ヲ出セリ。サレド後彼ハ身ヲ政界ニ投ジ其意見ヲ一變シテ保守黨ニ入リロバートピールヲ扶ケタリシガ一八四六年ピールガ一八一五年ノ穀物條例ヲ廢セントスルヤ彼ハ直チニ之ニ反對シテ穀物條例保存派ノ首領タリキ。後バーマーストンノ外國政略ニ反對シタリシガ自由派内閣轉覆スルニ及ンデ彼復勢ヲ得ダービート共ニレフォーム、ビルヲ提出シ一八六八年ターピー退クニ及ンデ共ニ職ヲ退キシガ後保守黨ノ勢ヲ議院ニ得ルニ及ビ一八七四年復出デ、首相トナリ在職六年間、内治ニ盡ス所少ナカラズ。一八七六年プルガリヤニ於ケル土耳其人ノ基督敎徒逆待ノ報英國人ヲ喚起セシニ際シ土耳其政府ヲ援ケタル英國政府ノ所置ハ大ニ自由派ノ反對ヲ招ケリ、一八七六年彼遂ニ貴族ニ列セラレビーコンスフィールド伯トナル此年ヨリ翌年マデ彼ハ國内ノ反對ニ拘ラズ露西亞ニ敵對シ彼ノコンスタンチノープルニ入ラントスルヤ英艦隊ハダルダルネスニ入リヌ、遂ニサンステファノノ和議アリ彼ハ之ヲ列國ノ協議ニ委セント主張シベルリン會議ニ於テハ英國ノ代表者トシテ出席シ、一八七八年ベルリン條約ニ於テ東方問題ハ落着セリ、後一八八〇年ノ總選擧ニ當リ自由黨優勢ナリシカバ彼ハ職ヲヤメテ退キシガ翌年病ニカカリ同年五月ヲ以テ歿ス年七十七彼ハ初メ文學ニ志シ、人ナレバ其詩篇小說ノ類亦世ニ顯ハレタリキ。

四、左ノ事項ノ說明

甲、神ノ平和 (Treuga Dei＝Truce of God)

水曜日日沒ヨリ月曜日ノ日出ニ至ルノ間ハ耶蘇基督ノ生涯中最神聖ナル事實ヲ有スル時ナレバ此間ハ喧噪紛擾ヲ禁ズルノ法ナリ、コハ一〇三一年ノ頃ヨリ僧徒等ノ出セシ法案

ニシテ、カノフランコニヤ家ノヘンリー三世ノ如キ最モ之ヲ贊助シ其實行ヲ奬勵セリ。遂ニ他ノ一定セル祝日祭日等ニマデ應用セラレ其區域益廣ク殊ニ一〇九五年クレルモントノ宗教會議ニ於テ法王アルバン二世之ヲ耶蘇教國一般ニ行ハシムルノ令ヲ發セリ。

乙、ベルリン命令 (Berlin Decree)

十九世紀ノ初メ佛帝奈翁ノ威盛ニシテ歐洲ヲ併呑スルノ勢アリ、此頃英國ハ一八〇五年トラファルガーニ克チテヨリ其權力ヲ海上ニ擅ニシ歐洲諸國ハ英佛二國ノ中何レカニ附カザルヲ得ザルニ至レリ。カクテ奈翁ハ一八〇六年チルシットノ和議ノ後十一月廿一日ベルリンニ於テ一ノ命令ヲ發セリ其大要ハ(一)歐洲諸國ハ英國ト通商貿易スルヲ禁ズ(二)英語ニテ記セル書狀ハ勿論英人ニ宛タル書狀ハ悉ク之ヲ抑留ス、(三)英國又ハ其殖民地ヨリ來レル商品ハ悉ク之ヲ沒收ス(四)佛軍ノ陣セル國ニアル英人ハ悉ク捕虜トナス(五)英國ノ諸港ヨリ來レル船舶ハ大陸ノ諸港ニ入ルヲ許サズ等ナリ之レ即チ所謂ベルリン命令ナリ。

◉地理科

一、オセアニアニ於ケルヨーロッパ人ノ領土ヲ列記セヨ

二、マホメット教ノ頒布ニ就キテ記セヨ

三、海岸線及ビ左ノ川、岬、都邑ヲ表出シタル四國島ノ圖ヲ描ケ

甲、川、　那賀川、吉野川、仁淀川、肱　川、渡リ川、

乙、岬、　室戸岬、蹉跎岬、佐田岬、蒲生田岬、

丙、都邑、(徳島、高松、松山、高知、丸亀、三津ケ濱、撫養、多度津、八幡濱、宇和島、須崎、

四、コンゴー自由國ノ經濟的事情ニ就キテ論ゼヨ

五、左ノ都邑ニ就キ知ル所ヲ述ベヨ

阿仁、鹿港、西寧、思茅、殷山、

チプリス (Tiflis)　ブリンヂン

バルセロナ (Barcelona)　バッファロー (Buffalo)

カラッカス（Caraccas）

六、熱帶林ノ特徴ヲ述ベヨ

七、深海探險ニ必要ナル器具ヲ記述セヨ

八、山ニテ圍ミタル窪地ニ沖積土ノ發達スル順序ヲ述ベヨ

九、日蝕ノ生ズル必要ナル條件ヲ擧ゲヨ

十、空氣上層ニ於ケル氣象觀測ノ必要ヲ述ベ併セテ觀測ノ方法ニ就キ知ル所ヲ記セヨ

（右四時間）

數學科

算術代數科

一、$(12345)^3$ ヲ小數點以下第二位マデ計算セヨ

解 $(12345)^3=\sqrt[3]{12345^2}$

根號内ハ九位ノ數ナルヲ以テ立方根ハ三位ノ整數根ナリ仍小數二位マデニハ五桁アリ

故ニ整數ノ部分ハ通常ノ方法ニテ其他ハ省略法ニテ求ムレバ次ノ答ヲ得（運算略ス）

$$534.15$$

二、x,y,z ヲ次ノ方程式ヨリ逐ヒ出セ

$$(z+x-y)(x+y-z)=ayz \quad (1)$$

$$(x+y-z)(y+z-x)=bzx \quad (2)$$

$$(y+z-x)(z+x-y)=cxy \quad (3)$$

解 (1)(2)(3)ヲ邊々乘ジ平方根ヲ求ムレバ

$$(y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)=\pm\sqrt{abc}\,,\ x,y,z \quad (4)$$

(4)ヲ(1)ニテ邊々除スレバ

$$y+z-x=\frac{\pm\sqrt{abc}}{a}x \quad (5)$$

$\pm\sqrt{abc}=\lambda$ ト置キ變化スレバ(5)式ハ

$$\frac{x}{x+y+z}=\frac{a}{\lambda+2a}$$

同様ニシテ(4),(2)ノ(4)ト(3)トヨリ

$$\frac{y}{x+y+z}=\frac{b}{\lambda+2b}$$

$$\frac{z}{x+y+z}=\frac{c}{\lambda+2c}$$

此等三式ノ邊々加ク

$$1=\frac{a}{\lambda+2a}+\frac{b}{\lambda+2b}+\frac{c}{\lambda+2c}$$

之レヲ簡約シテ

$$(a+b+c-4)^2=abc$$

ヲ得

三、次ノ方程式ヲ解キ且ツ之ヲ吟味セヨ

$$x^4+2(m-1)x^2+m+7=0$$

解 與式ヲ x^2 ニ付テ解ケバ

$$x^2=-m+1\pm\sqrt{m^2-3m-6}$$

仍テ x ノ値ハ

$$\pm\sqrt{-m+1+\sqrt{m^2-3m-6}}$$

$$\pm\sqrt{-m+1-\sqrt{m^2-3m-6}}$$

ノ四根ナリ

$$-m+1=A\qquad\sqrt{m^2-3m-6}=B$$

ト置ケバ四根ハ

$$\pm\sqrt{A+B}\qquad\cdots\cdots(a)$$

$$\pm\sqrt{A-B}\qquad\cdots\cdots(b)$$

即チ $A^2-B^2=m+7$

又 $m^2-3m-6=\left(m-\frac{3+\sqrt{33}}{2}\right)\left(m-\frac{3-\sqrt{33}}{2}\right)$ ナルヲ以テ m ノ値ノ變化ニ依テ生ズル $A+B$, $A-B$ ノ符號ノ變化ハ次ノ如シ

m	$-\infty$		-7		$\frac{3-\sqrt{33}}{2}$		1		$\frac{3+\sqrt{33}}{2}$		$+\infty$
A		$+$		$+$		$+$		o		$-$	
B		$+$		$+$		o		i		i	
$A+B$		$+$		o		$+$		$+$		$+$	
$A-B$		$+$		$+$		$+$		o		i	

A^2-B^2	−	○
$A-B$	−	○
$A+B$	+	+

依テ

$m<-7$ ノ片(a)ハ實(b)ハ虚トナル

$-7<m<\frac{3-\sqrt{33}}{2}$ ノ片(a)(b)ハトモニ實ナリ

$m\ \overline{\gtrless}\ \frac{3-\sqrt{33}}{2}$ ノ片(a)(b)ハ共ニ虚ナリ

$m=-7$ ノ片(b)ハ○

$m=\frac{3-\sqrt{33}}{2}$ ノ片(a)(b)ハ相等シクシテ實根

$m=\frac{3+\sqrt{33}}{2}$ ノ片(a)(b)ハ相等シクシテ虚根

四、 甲乙丙ノ三人其年齢ガ等比級數ヲナストキ或金高ヲ年齢ニ比例シテ分配シ其後五年ヲ經テ同金高ヲマタ年齢ニ比例シテ分配セシニ甲ハ前ヨリモ59圓50錢多ク乙ハ前ヨリモ8圓50錢多ク得タリ而シテ此時丙ノ年齢ハ甲ノ年齢ノ二倍ニ等シカリシトイフ、仍テ甲乙丙ノ最初ノ年齢及ビ前後兩度ニ分ケタル各金高幾何

解　後ノ場合ノ甲乙丙ノ年齢ヲ $x, y, 2x$ ニテ表ハシ分配シタル金高ヲ8圓トス

然ル時ハ甲乙ノ得シ金高ハ

$$\frac{ax}{3x+y} \qquad \frac{ay}{3x+y}$$

又前ノ場合ニ於ケル兩人ノ金高ハ

$$\frac{a(x-5)}{3x+y-15} \qquad \frac{a(y-5)}{3x+y-15}$$

仍テ題意ニヨリ次ノ三式ヲ得

$$(y-5)^2=(x-5)(2x-5) \quad (1)$$

$$\frac{ax}{3x+y}-\frac{a(x-5)}{3x+y-15}=59,5 \quad (2)$$

$$\frac{ay}{3x+y}-\frac{a(y-5)}{2x+y-15}=8,5 \quad (3)$$

(2)(3)式ヨリ α ヲ消去シ變化シテ

$$y=\frac{7}{5}x$$

ヲ得之レヲ(1)式ニ代用シテ

$$\left(\frac{7}{5}x-5\right)^2=(x-5)(2x-5)$$

之レヨリ $x=0$ 或ハ 25

$x=0$ ヲトレバ $y=0$ トナリ答ヲ得ス故ニ25ヲ取リテ

$y=35$ ヲ得

此 x,y ヲ用キテ $\alpha=3553$ ヲ得

五、 或國ニ於テ毎月出産者ノ數ト死亡者ノ數トハ夫々其月ノ初メノ人口ノ $\frac{1}{480}$ ト $\frac{1}{600}$ トニ等シト云フ幾月ヲ經テ人口ハ元ノ二倍トナルカ但此計算ニハ次ノ對數表ヲ用フベシ

$\log 2=0.3010300$

$\log 3=0.4771213$

$\log 7=0.8450980$

解 毎月其初メノ人口ノ $\frac{1}{480}-\frac{1}{600}=\frac{1}{2400}$ 宛增スヲ以テヒヲ以テ求ムル月數トスレバ

$$\left(1+\frac{1}{2400}\right)^x=2$$

$$\left(\frac{2401}{2400}\right)^x=2$$

兩邊ノ對數ヲトリ x ノ値ヲ求ムレバ

$$x=\frac{\log 2}{\log 2401-\log 2400}=\frac{\log 2}{4\log 7-(3\log 2+\log 3+2)}$$

即チ與ヘラレタル對數ヲ用キテ計算スレバ

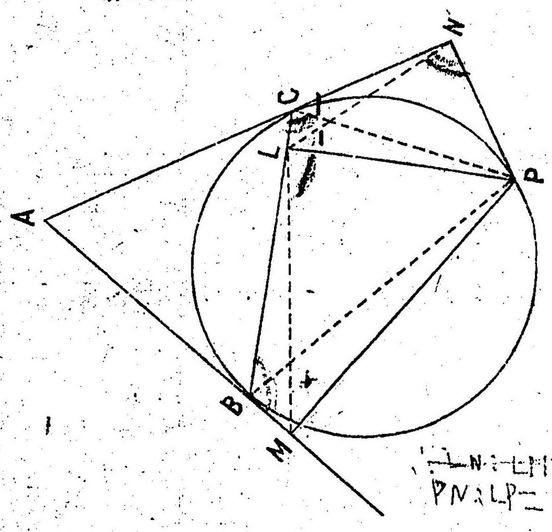
$x=1665.9$

即チ1666月ナリ

幾何科

一、 圓周上ノ任意ノ一點Pヨリ二ツノ切線AB.ACヘ下セル二ツノ

10. 無線PM, PNヘ包ム矩形ハ同點ヨリ二切點B, Cヲ通過スル弦ヘ下セル垂線PLヘ上ノ正方形ニ等シキヲ證明セヨ。



解 PC, PB, NL, LMヲ引クトキハ LPMB 四邊形ニ外接シテ圓ヲ畫キ得ルヲ以テ

MLP角＝MBP角

又同樣ニLPNC四邊形ニモ外接圓ヲ畫キ得ルヲ以テ

PCL角＝PNL角

然ルニMBP角＝PCL角

∴ MLP角＝PNL角

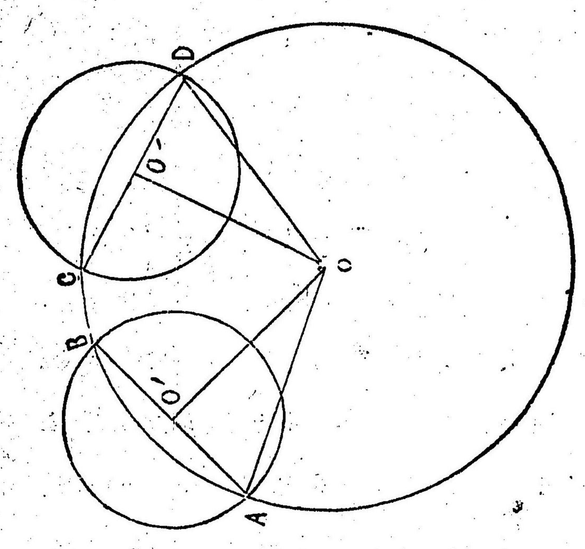
同樣ニシテPML角＝NLP角

故ニMLPトLPNトハ三角形ハ相似形ナリ故ニ

PM:PL＝PL:PN

$$\overline{PL}^2 = PM.PN$$

11. 與クラレタル二ツノ圓ノ周ヲ二等分スル圓ノ中心ノ軌跡ヲ求ム。



解 與クラレタル二圓ノ中心ヲO′, O″トシ此二圓ヲ二等分スル圓ノ中心ヲOトス、O圓トO′, O″圓トノ交リヲA, B, C, Dトスレバ

ABハO′圓ノ直徑

CDハO″圓ノ直徑

OトO′, O″トヲ結合スレバOO′, OO″ハAB, CD線ニ垂直ナリ故ニOA, OD線ヲ作レバ

$$\overline{OA}^2 = \overline{OO'}^2 + \overline{AO'}^2$$

$$\overline{OD}^2 = \overline{OO''}^2 + \overline{DO''}^2$$

然ルニ OD＝OA ナルヲ以テ

$$\overline{OO'}^2 - \overline{DO''}^2 = \overline{OO''}^2 - \overline{AO'}^2$$

故ニ O 點ヲ O′ ヲ中心トシ O″ 圓ノ半徑ヲ半徑トシタル圓ト O″ ヲ中心トシ O′ 圓ノ半徑ヲ半徑トシタル圓トノ根軸上ニアルコトヲ知ル

又逆ニ此根軸上ニ O 點ヲトリ OO′, OO″ ヲ作リ之レニ垂直ニ AB, CD ヲ作リ O′, O″ 圓トノ交リヲ A, B, C, D トスレバ

$$\overline{OO'}^2 - \overline{DO''}^2 = \overline{OO''}^2 - \overline{AO}^2$$

$$\overline{OO'}^2 + \overline{AO'}^2 = \overline{OO''}^2 + \overline{DO''}^2$$

$$\overline{OA}^2 = \overline{OD}^2$$

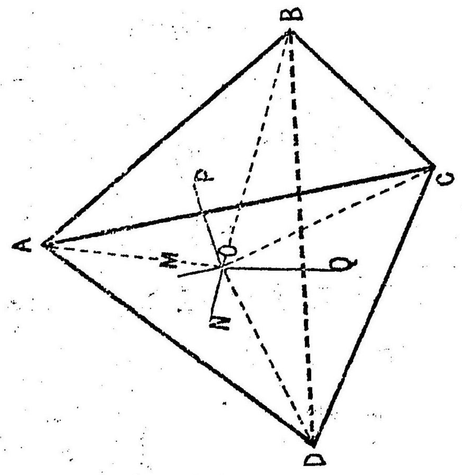
$$OA = OD$$

$$OA = OB = OC = OD$$

即チ O 圓ハ O′ 圓ヲ A, B 二點ニ於テ O″ 圓ヲ C, D 二點ニ於テ二等分ス

三　正四面體ノ內部ノ任意ノ一點ヨリ各面ヘ下セル垂線ノ和ハ不易

ナルコトヲ證明セヨ



解　ABCD 正四面體ノ內部ノ一點 O ヨリ各面ヘ下ス垂線 OP, OM, ON, Oq ノ和ハ不易ナルコトヲ證セントス

今 OA, OB, OC, OD ヲ引クトキハ四ツノ四面體ニ分レ其體積ノ和ハ初メノ四面體ノ積ニ等シキヲ以テ次ノ式ヲ得

$$\frac{\text{DBC三角形ノ面積} \times (PO + qO + MO + NO}{3}$$

$$= \frac{\text{DBC三角形ノ面積} \times \text{ABCD四面體ノ高サ}}{3}$$

$$\therefore PO + qO + MO + NO = \text{ABCD四面體ノ高サ}$$

即チ不易ナリ

三角法（理論）

1′ $a\sin\left(\quad+\frac{\pi}{4}\right)+b\sin\left(\theta-\frac{\pi}{4}\right)=\frac{c}{\sqrt{2}}$

$a\cos\left(\theta-\frac{\pi}{4}\right)+b\cos\left(\theta-\frac{\pi}{4}\right)=c\sin\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)$ ヨリ θ ヲ消ス出ス

解　両式ヲ書キ直セバ

$$a\sin\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)-b\cos\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)=c\sin\frac{\pi}{4}$$

$$a\sin\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)+b\cos\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)=c\sin\left(2\theta+\frac{\pi}{4}\right)$$

両式ヲ辺々相加ク相減ジテ

$$2a\sin\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)=2c\sin\left(\theta+\frac{\theta}{4}\right)\cos\theta$$

$$2b\cos\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)=2c\sin\theta\cos\left(\theta+\frac{\pi}{4}\right)$$

即チ $a=c\cos\theta$　　$b=c\sin\theta$

$\therefore a^2+b^2=c^2$

11′ a,b,c ヘ甲乙丙ノ三辺ニ等シカラザルトキ

$$a=b\cos C+c\cos B$$

$$b=c\cos A+a\cos C$$

$$c=a\cos B+b\cos A$$

ナルトキ

$\cos^2 A+\cos^2 B+\cos^2 C=2\cos A\cos B\cos-1=0$ ナルコトヲ證明セヨ

解　各等式ヲ書キ直セバ

$$-a+b\cos C+c\cos B=0$$

$$a\cos C-b+c\cos A=0$$

$$a\cos B+b\cos A-c=0$$

a,b,c 甲乙丙ノ三辺ニ等シカラザルヲ以テ次ノ式アリ

$$\begin{vmatrix} =1 & \cos C & \cos B \\ \cos C & -1 & \cos A \\ \cos B & \cos A & -1 \end{vmatrix}=0$$

之レヲ展開シテ書キ直セバ

$$\cos^2 A + \cos^2 B + \cos^2 C = 2\cos A \cos B \cos C - 1 = 0$$

三 $\dfrac{\sin\frac{x}{2}}{y} = \dfrac{\cos\frac{x}{2}}{z}$, $\dfrac{\sin^2\frac{x}{2}}{z^2} + \dfrac{\cos^2\frac{x}{2}}{y^2} = \dfrac{6}{y^2+z^2}$ ナル三方程式ヨリ x ノ値ヲ求メヨ

解 $\dfrac{\sin\frac{x}{2}}{y} = \dfrac{\cos\frac{x}{2}}{z} = \dfrac{1}{\lambda}$ ト置ケバ

$$y = \lambda \sin\frac{x}{2} \qquad z = \lambda\cos\frac{x}{2}$$

之レヲ後式ニ置キカク變化スレバ

$$tag^2\frac{x}{2} - \frac{1}{tag^2\frac{x}{2}} = 6$$

即チ $\left[\dfrac{2\,tag\frac{x}{2}}{1-tag^2\frac{x}{2}}\right]^2 = 1 \qquad tag\,x = \pm 1$

故ニ $x = (2kn+1)\dfrac{\pi}{4}$

四 次ノ聯立方程式ヲ解ケ

$$x + y + z = 2\pi$$

$$\frac{\sin x}{a} = \frac{\sin y}{b} = \frac{\sin z}{c}$$

但 x, y, z ハ何レモ零ト π トノ間ニ在ルモノトス

解 $x^1 = \pi - x, y^1 = \pi - y\, z^1 = \pi - z$ ト置ケバ與式

$$x^1 + y^1 + z^1 = z$$

$$\frac{\sin x^1}{a} = \frac{\sin y^1}{b} = \frac{\sin z^1}{c}$$

且ツ但書ニヨリ

$$o < x^1 < \pi \quad o < y^1 < \pi \quad o < z^1 < \pi$$

ナルヲ以テ $2p = a + b + c$ トスレバ

$$tag\frac{x^1}{2} = \sqrt{\frac{(p-b)(p-c)}{p(p-a)}}$$

故ニ $tag\frac{x}{2}=\sqrt{\frac{p(p-a)}{(p-b)(p-c)}}$

$tag\frac{y}{2}=\sqrt{\frac{(p-b)}{(p-a)(p-c)}}$

$tag\frac{z}{2}=\sqrt{\frac{p(p-c)}{(p-a)(p-b)}}$

五、三角形ノ周邊ト其外接圓ノ直徑ト其一ツノ角トヲ知リテ此三角形ヲ解ケ

解　三角形ノ周邊ヲ p, 外接圓ノ直徑ヲ d 其既知角ヲ A トスレバ

$$\frac{a}{\sin A}=\frac{b}{\sin B}=\frac{c}{\sin C}=d \qquad \cdots\cdots(1)$$

ヨリ $a=d\sin A$ ヲ得

又 $b+c=2d\sin\frac{B-C}{2}\cos\frac{B-C}{2}$

即 $\cos\frac{B-C}{2}=\frac{p-a}{2d\cos\frac{A}{2}}$

又 $\frac{B+C}{2}=\frac{\pi}{2}-\frac{A}{2}$

此二式ヨリ B, C ヲ得ベシ

又(1)式ヨリ b, c ヲ得ベシ

三　角　法　(應用)

三角形ノ三ツノ邊ガソレゾレ

$a=750{,}32$「メートル」　　$b=685{,}49$「メートル」

$c=664{,}03$「メートル」

ナルコトヲ知リテ此三角形ノ三ツノ角及其面積ヲ計算セヨ

解　$r=\sqrt{\frac{(p-a)(p-b)(p-c)}{p}}$

$r=\frac{a+b+c}{2}$

トスレバ

$$\tan\frac{A}{2}=\frac{r}{p-a}\qquad \tan\frac{B}{2}=\frac{r}{p-b}\qquad \tan\frac{C}{2}=\frac{r}{p-c}$$

$$S=pr$$

ヨリ

A＝67°　32′　9″

B＝57°　35′　36″

C＝54　52′　12″

S＝210324平方メートル

◉植物科

一、普通植物科中最顯著ナル根莖、塊莖、多肉根、紡錐形根、等各々二種ノ適例ヲ擧ゲヨ。

根莖、かきつばた、はす、

塊莖、じやがたらいも、きくいも、

多肉根、

イ、初生根ニシテ多肉且ツ多量ノ養分ヲ含ムモノ

大根、にんじん、（イニ屬ス）

ロ、後生根ニシテ多肉且ツ多量ノ養分ヲ含ムモノ

さつまいも、（ロニ屬ス）

紡錐根、大根、ちさ、

二、大麥及小麥ニ於ケル花ノ構造ヲ說明シテ其差異ノアル所ヲ示セ。

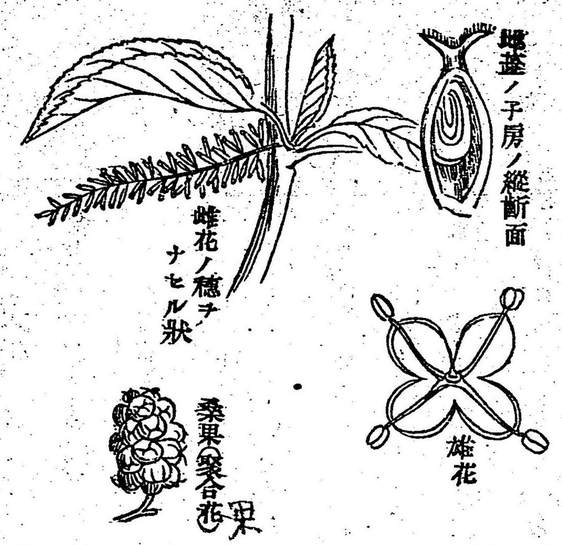
大麥、小穗狀花序ハ穗狀花狀ニ排列シ一個ノ花ヨリナル、護穎ハ小穗狀花序ノ前側ニ位シ雄蕊ハ三個アリ。穎果ハ四面ニ相併ブ。

小麥、小穗狀花ハ無柄ニシテ穗狀花序ニ排列シ四乃至五個ノ花ヨリ成ル、花ハ兩全花ナルガ或ハ上位ノ花ハ不具備花ナリ、花穎ハ芒ヲ有スルモノト有セザルモノトアリ、穗序花序ハ四面ヲ有ス。

三、桑及ビ無花果ニ於ケル花果ノ圖ヲ畫キテ其各部ヲ說明セヨ。

一、桑、花ハ單性花ニシテ雌雄異株トス。

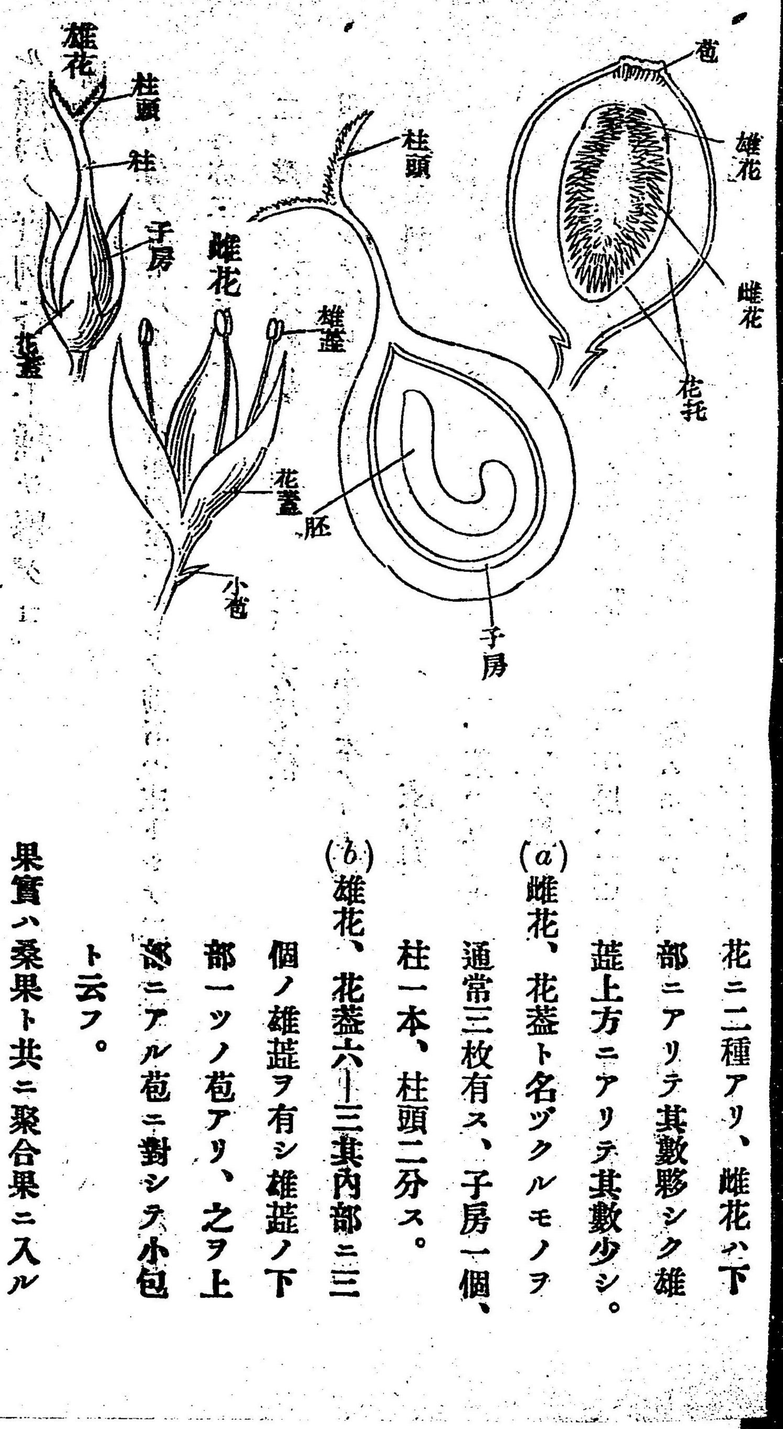
(a)雄花、四個ノ深裂セル黄綠色花蓋ヲ具ヘ雄蕊四個ニシテ周圍ノ花被ニ着生シ、且花蓋ノ各裂片ト對生ス、葯ハ通常內曲ス、



(b)雌花、雌花ハ相集テ毬狀ヲナサズ穗狀ヲナス、三—五個ノ萼片ヲ有シ子房上位、子房ハ一室乃至二室ナリ柱頭二裂ス。

(c)果實ハ聚合果ニシテ所謂桑果ト稱スルモノニシテ花托ノ上ニ數多ノ小花相集リテナルモノナリ、種子ハ獨立懸生

二、無果花、花托非常ニ膨脹シ花ノ周圍ヲ取リ圍ミ、苞ハ其頂上ニ着生シ花序ハ有限花序ナリ。



花ニ二種アリ、雌花ハ下部ニアリテ其數夥シク雄蕊上方ニアリテ其數少シ。

(a)雌花、花蓋ト名ヅクルモノヲ通常三枚有ス、子房一個、柱一本、柱頭二分ス。

(b)雄花、花蓋六—三其內部ニ三個ノ雄蕊ヲ有シ雄蕊ノ下部一ツノ苞アリ、之ヲ上部ニアル苞ニ對シテ小苞ト云フ。

果實ハ桑果ト共ニ聚合果ニ入ル

四、唇形科ト支參科ト其異同ノアル所ヲ分明ニ記述シテ、各科ニ屬スル種屬ノ實例各々十種ヲ擧ゲヨ。

同點、

一、葯ヲ有セル雄蕊ノ數四乃至二ニシテ前者ハ主トシテ二强雄蕊ナルトモ、後者ニモ亦二强ノモノアリ。

二、瓣ハ多少不整正ナリ、　三、子房上位、

四、主トシテ何レモ草本ナリ、（マレニ小木本アリ玄參科ニハ桐ノ如キ木本アリ）、

田共、黑點、唇形科、

一、香アル葉ハ對生セルモノ多シ。

玄參科

二、四分セル子房ヲ有シ花柱ハ一個アリテ、其中央ニ位シ花後四個ノ種子狀ノ果實ヲ結ブコトアリ。

一、葉ハ互生セルモノ多シ（殊ニ上部ノ葉ニ於テ然リ）、

二、子房ハ二室ニシテ各室ニ通常多胚珠ヲ含ムモノアリ。中軸、胎座或ハ二又ハ四個ノ側膜胎座ヲ有スルコトアリ。種子ハ鉤狀環狀等ノ突起ニ着生セル胚乳ヲ具フアリ、又翅ヲ具フアリ果實蒴ハ線狀長楕圓形ヲナス、（子房ハ稀ニ一室乃至四室ノモノアリ）、

三、莖ハ圓柱ノモノ多シ

例、きり、くがいさう、さぎこけ、かはぢさ、るりとらのを、ひめとらのを、いぬふぐり、おほいぬふぐり、みやまくわがた、びろーどもーずいくわ、

三、莖ハ主トシテ方形

例、はつか、うつぼぐさ、あきのたむらさう、みつばわさび、おどりこさう、ほとけのざ、ことじさう、しそ、くるまばな、たうばな、

五、薔薇科ニ屬スル木本植物中果實ノ食用トナルベキ普通ノ種類七ツヲ擧ゲヨ。

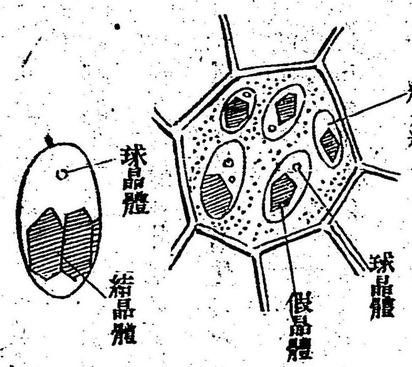
もゝ、おんず、うめ、びは、なし、りんご、すもゝ、ゆすらうめ、

六、麻、綿、烟草、構、藍等五種ノ効用ヲ記シ並ニ各所屬ノ科名ヲ問フ。

名稱	科名	効用
麻、	桑科、	皮ヨリ纖維ヲ採リ種子ヲ食用トシ皮ヲ去リタル莖ハおがらニシテ種々ノ用ニ供ス。
綿、	錦葵科、	貴重ナル植物ニシテ種子ニ生ジタル長軟毛ハ所謂綿ニシテ種々ノ用トシ種子ヨリ油ヲトリ燈火用又ハ其他ノ用ニ供ス。
煙草、	茄科、	葉ヲ吸煙ノ料トシ有毒草木ナリ。
構、	桑科、	樹皮ノ纖維ハ製紙ノ數ニ供セラル。
藍、	蓼科、	葉ヲ染料トス有用ナル草木ナリ、

七、細胞内ニ於ケル糊粉粒ノ位置、形態、成分、効用、並ニ形成セラルル順序及ビ其植物體ノ如何ナル部分ノ細胞内ニ存在スルヤヲ問フ。

一、糊粉粒ハ種子ノ植物體及細胞内ニ於ケル位置、及形成ノ順序多クノ植物ノ種子殊ニ脂肪ニ富ム種子（たうごま、あかまつ等）ノ胚乳細胞ニテハ原形質内ニ特種ノ小空胞數多存シ、其中ニ蛋白質性ノ溶液ヲ含有シ此等ノ細胞一旦乾固シ水分ヲ失フトキ該空胞内ニ蛋白質凝固シ、小球狀ノ糊粉粒ヲナス。



二、糊粉粒ノ形態、及成分、

糊粉粒ハ時トシテ圓形ナルアリ、或ハ時トシテ他ノ不定形ヲ取ルコトアリ然レドモ一般ニ小球體ヲナス。

蛋白質ノ一部分結晶シテ糊粉粒内ニ一個乃至二個以上ノ結晶トシテ含有セラル、然レドモ之レ眞ノ結晶ニアラザルヲ以テ假晶體ト稱ス。

糊粉粒ニハ猶此他ニ球晶體ヲ含有ス、其成分ハ重燐酸マグネシウム、カルシウム、及ビ或有機物トヨリ生成セルモノナリ、猶此他ニ糊粉粒ニハ蓚酸石灰ノ結晶ヲ含ムコト

アリ。

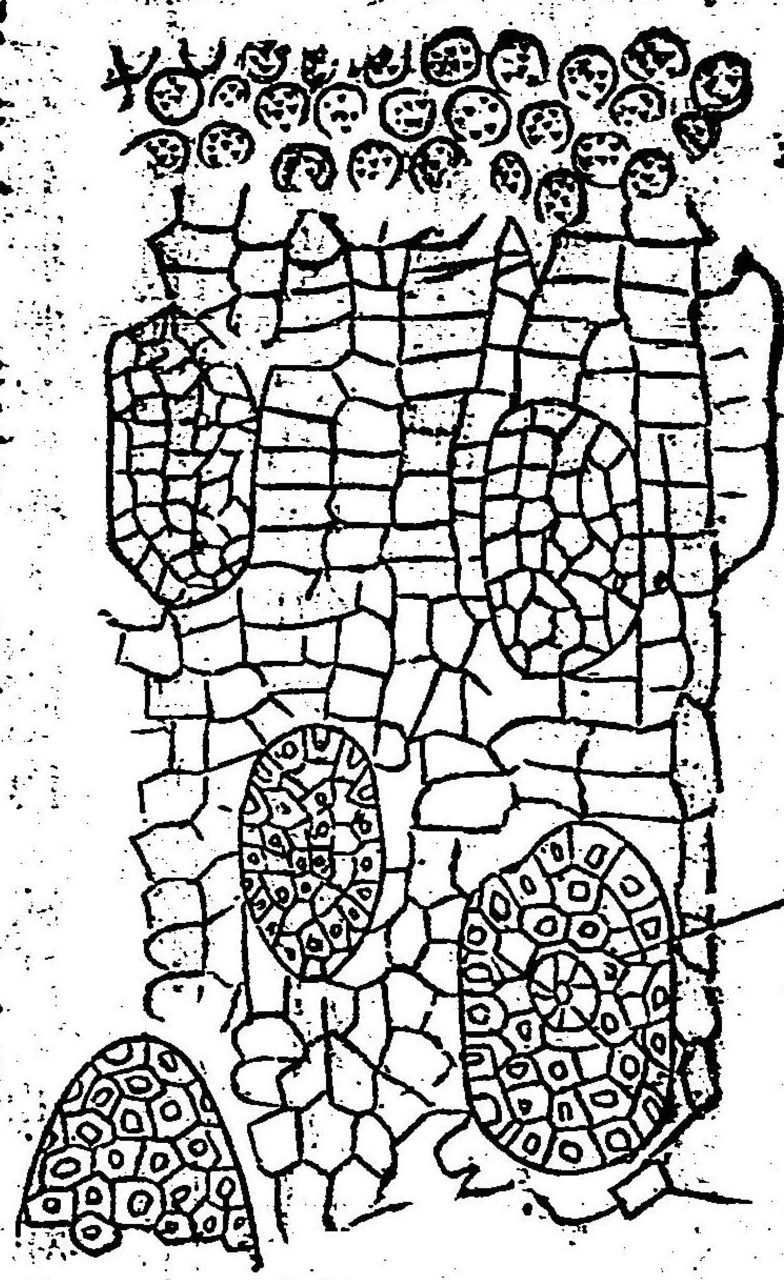
三、効用、

是等ノ諸物質ハ何レモ皆貯藏料ニシテ、種子發芽ノ際溶解セラレテ生長ノ料ニ供セラルヽモノトス。

八、單子葉莖ニ於ケル肥大生長、並ニ龍血樹類、莖幹ノ肥厚スル狀態ヲ圖解セヨ。

一、單子葉莖ニ於テハ雙子葉ニ於ケルガ如ク形成作用ノ著シキヲ認ムルコトナシ、何トナレバ該莖ノ維管束ハ有限ニシテ、一旦形成セラレタル後ハ再ビ其容積ヲ増スコトナケレバナリ、故ニ此類ノ莖幹ノ肥大トナルハ一ニ基本組織ノ諸原器ノ膨脹的肥厚ニ由リ其中ニ新維管束ノ増生スルニ基因スルモノナレドモ、一旦假皮膚甚シク堅硬トナレル後ハ再ビ莖幹ノ肥大ヲナスコト難シ、然レドモ單子葉類中龍血樹ノ如キハ特異ノ構造ニヨリ限リナク莖幹ヲ肥厚スルモノナリ。

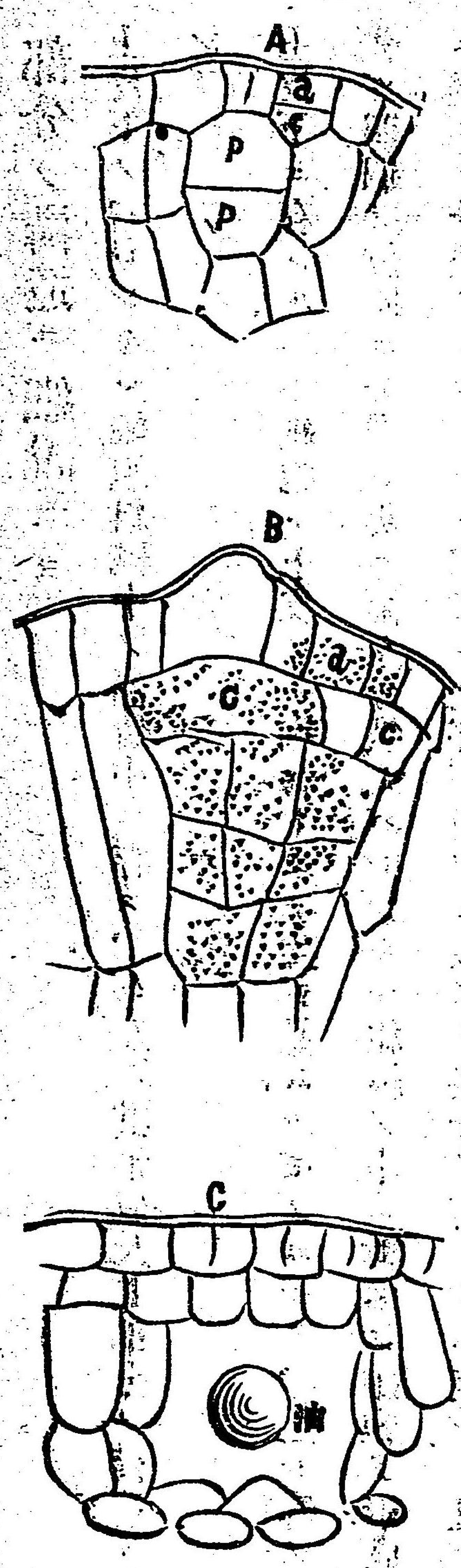
二、龍血樹ノ莖幹ノ肥厚スル狀態ハ莖幹ノ外圍部ニ圖ニ示セルガ如ク一帶ノかんびゆうむ層(形式層)ヲ生ジ該組織ノ盛ナル分生ニヨリ、年々外方ニ絕エズ、皮膚ヲ生ジ内方ニハ又基本組織並ニ新維管束群ヲ生ズルガ故ニ此ノ如ク莖幹ニテハ其直徑ハ限リナク増大スルニヨリテ巨大ノ容積ニ達スルヲ得ルモノナリ。



龍血樹ノ莖幹ノ横斷面ノ一部分
(ロ)維管束
(ニ)形成層
(ホ)皮膚部ノ組織

九、漆汁ハ漆樹ノ如何ナル組織内ニ存在スルヤ、並ニ該汁ヲ含有スル

第十四圖



部分ノ構造ヲ細說セヨ。

上皮下ノパレンキマ細胞組織中ノ油質中ニ存ス、今左ニ其形成及其部分ノ構造ヲ說明セン。

上皮下ニ存スルハ一細胞ト上皮ノ一細胞トヨリ生ジ始ムルモノニシテ、之レ等ノ細胞ガ先ヅ四個ノ細胞ニ分裂シ更ニ漸々分裂シパレンキマ組織ノ中ニ數多ノ細胞ヲ形成シ或度ニ達シテ分裂ヲ止メ之レト同時ニ之等細胞中ニ數多ノ漆汁ヲ有スルニ至ル、且ツ同時ニ之等細胞膜ガ解體シ細胞内ノ漆汁ハ共ニ相集マリテ此ノ一大室中ニ溜在ス。

十、氣泡計算法ニヨリ炭素同化作用ヲ實驗スル方法、並ニ該法ニヨリ日光七色中何レノ色光線ガ最大同化力ヲ有スルヤノ試驗法及ビ其結果ヲ記セ。

一、實驗ノ方法、

圖ニ示セルガ如ク水ヲ盛レル硝筒内ニくろも、又はさんぎやうも、ノ一枝ヲ投ジ水中ニテ鋏ニテ莖ヲ斷截スベシ、斯クシテ植物體ヲ日光ニ中ツルトキハ截面ヨリ續々氣胞、

(即チ同化作用ノ結果遊離セル酸素)ヲ發生スベシ、此ニ於テ玻璃棍ニテ該水草ノ莖ヲ抑サヘ動カザラシメ一處ニ靜止セル後一分時間ニ於ケル氣胞發生ノ數ヲ算スベシ、但シ此際氣胞ノ大サ適當ニシテ且ツ發生ノ狀態規則正シキヲ要ス、最初ハ先ヅ日光直射ノ場所ニ於テ毎分時ノ數ヲ測リ、後俄カニ該器ノ前方ニ板、又ハ物體ヲ立テ陰影ヲ投ジ之ヲ檢スレバ氣胞ノ數甚ダ僅少トナルベシ、又次ニ該器ニ黑筒ヲ覆ヒ其筒ノ一部ニ穿ガテル孔口ヨリ窺フトキハ氣胞ノ發生全ク息止スルヲ認ムベシ、是レ暗所ニ在リテハ炭酸分解作用行ハレザルニヨル、此ニ於テ黑筒ヲ除キ再ビ日光ニ直射スレバ氣胞發生ノ速度ハ當サニ前時ノ如クナルニ至ラン、氣胞ノ發生ハ一ニ炭酸分解ノ結果酸素ノ遊離スルニ基因スルモノナルガ故ニ、水中ニ溶解セル炭酸ノ分量多ケレバ氣胞ノ發生又從テ多シ、故ニ前記ノ實驗ニ於テ水中ニ CO^2、瓦斯ヲ通ズレバ氣胞ノ數益、多キヲ加ヘ、之ニ反シテ一度煮沸シタル水ヲ用ユルトキハ氣

胞ヲ發生スルコトナカルベシ、蓋シ之レ水中ニ CO_2 ノ含量甚ダ僅少ナレバナリ。

二、日光七色中何レノ色光線ガ最大日化力ヲ有スルヤノ試驗法及結果、

前實驗ニ引續キ氣胞ノ發生間斷ナク續出スルヲ認メタル後圓筒ノ前方ニ一枚ノ青色玻璃板ヲ立テ日光ヲシテ透射シ來ラシムルトキハ、氣胞ノ發生著シク減少スルヲ見ン、又青色板ニ代ユルニ黃色玻璃板ヲ以テ前ノ如クスルトキハ、其結果全ク前者ト相反シ氣胞ノ數量殆ンド日光中ニ於ケルガ如クナルベシ、是ニヨリテ青色光線共ニ同化作用ニ効アルモノナレドモ其强サハ兩光線ニ於テ異ナルモノニシテ、其効力ニ至リテハ黃色光線ハ青色光線ニ比シテ遙ニ大ナリト云フベシ、蓋シ日光各色光線中最强ノ同化力ヲ有スルモノハ現時諸說アリト雖モ一般ニ紅色光線ナリト認ムルモノナリ、然レドモ光線ガ各葉ヲ通過スルニ當リ其最初ニ日光ヲ受クル葉綠體ト又既ニ他ノ葉綠體ヲ通過セル光線ヲ受クルモノトハ各自ノ受領スル光線ノ力大ニ異ナルモノナリ、即チ組織ヲ通過スルニ從ツテ漸々吸收セラレ其力ヲ失フモノナリ、此ニ於テ深處ニ達スル光線中紅色線ハ已ニ多少吸收セラルヽヲ以テ同化作用ノ最効力ヲ表ハスニハ組織ノ深處ニ透入シテ、克ク其作用ヲ營ム黃色線ニヨリ染色シテ之ヲハ紅光線ノ効力著シク深遠ノ處ニ達シテ其効力ヲ全フスルハ黃光線ナリ）

十一、顯微鏡下ニ於テ如何ニシテ細胞ノ生死ヲ判斷スベキヤ其方法並ニ理由ヲ問フ。

細胞ノ生死ヲ判斷スル唯一ノ法ハ、原形質ノ分離現象トス他ニ色素ニヨリ染色シテ之ヲ驗スルノ方法アレドモ前者ニ比スレバ不完全ナリ。

其理由ヲ討ヌルニ、原形質分離ハ死細胞ニ於テハ決シテ認ムルヲ得ザルモノニシテ、該現象ハ生細胞ノ特有ノ現象ナレバナリ。

實驗ノ方法、

むらさきおもと、（たまねぎ又ハねぎニテモ可ナリ）ノ葉ノ裏面ノ中肋ニ沿フテ淺ク劃取リ數多ノ薄片ヲ作リ之ヲ豫メ濃度ヲ異ニセル硝酸加里溶液（例ヘバ 1% 1.2% 2% 2.5% 3% 4% &C）中ニ濃度ノ順序ニ從フテ浸シ一通リ浸シ終レバ更ニ最低濃度ノモノヨリ順次最高濃度ノモノニ薄片ヲ浸シ、薄片ノアル限リ、反復此順ヲ追フテ浸スベシ。而シテ

凡ソ十分乃至十五分ヲ經テ濃度ノ低キ 1% 1.2% 等ヲ順次鏡下ニ檢スベシ、然ルトキハ 1% 1.2% ノモノハ分離作用未ダ起ラズ、1.4% 1.6% ニ至リテ稍其分離ノ狀アルヲ見 2% ニ至テハ明ニ之ヲ認ムルヲ得是ニ於テむらさきをもとノ原形質ノ分離度ハ、硝酸加里 2% ナルコトヲ知ルベシ、素トヨリ葉ノ新鮮ナルト否ト及ビ老嫩期節時刻ノ如何ト場所トニヨリ其濃度一定セズ普通ノ細胞ハ通常 1.4% 前後ニ於テ起ルモノトス其外原形質分離ヲ見ルニハ、硝酸曹達鹽化曹達等無機鹽類ノ水溶液ニヨリ前方法ト同一ノ手段ニテ認ムルコトヲ得レドモ其力各異ナレリ。

砂糖グリセリンヲ使用スルモ亦認メ得ベシ、然レドモ同一ノ砂糖ニテモ蔗糖、葡萄糖、乳糖、果糖等ニヨリ其反應ノ度異ナルモノトス、蓋シ各物質ガ水ニ對スル交流力ノ異ナルニ基因スレバナリ。

十二、組織緊張力ノ依テ起ル理由並ニ其實驗法ヲ問フ。

植物體ノ位置形體ヲ維持スルニハ細胞ノ膨壓力ニヨルコト明ナレドモ、組織緊張力モ亦與ツテ力アルモノナリ、蓋シ組織ハ細胞ヨリナルガ故ニ細胞各箇ニ張力ヲ有スルモノトスレバ、其全體トシテノ組織ニ於テモ亦之レヲ有セザルヲ得ズ、且ツ又細胞ガ收縮スルモノナレバ組織ニ於テモ收縮作用ヲ有スベキヤ明白ナリ、今其組織緊張力ノ由テ來ル理由ヲ考フルニ、植物體ノ諸部ヲ構成スル種々ノ組織即チ表皮、皮層、維管束髓等ニ於テノ各自細胞ノ張力及生長不同ナルヲ以テ從テ之等ノ組織ハ相互ニ頗ル其緊張力ヲ異ニスルモノトス。中心部ノ組織(髓)ハ發生甚ダ盛ニシテ膨壓力モ亦大ナルガ故ニ從テ緊張力最モ強ク之レニ反シテ外圍ニアル表皮及皮層ハ生長並ニ膨壓ノ度前者ニ比シテ弱キガ故ニ、從テ緊張力亦微弱ナリ、故ニ中心部ノ組織ハ張壓ヲ周圍ノ組織ニ及ボシ周圍ノ組織ハ之ニ反シテ收縮ヲ中心部ノ組織ニ及ボスノ傾向アリ、然レドモ實際植物體ノ生活狀態ニ於テハ兩組織ノ力併行シテ全體ヲ強固ナラシメ組織ニ緊張力ヲ致スモノトス、然レドモ若シ之等ノ組織ニシテ互ニ分裂スルコトアランニハ、髓部ハ最モ伸ビ維管束ハ少ク伸ビ皮層ハ少シク收縮シ表皮ハ頓ニ收縮ス。

實驗、

そらまめノ莖ヲ取リ之ヲ長サ凡ソ五六寸ニ截リ利刀ヲ用キテ縱ニ分裂シテ數片トシ、

而モ全ク分離セズ尚下端ニ於テ相聯着セシメ之ヲ氷中ニ浸ストキハ、中央部ノ裂片ハ甚シク伸張シ外圍部ノ裂片ハ却テ著シク收縮シ殊ニ表皮ノ如キハ、收縮ノ激甚ナルニヨリ外方ニ向テ渦卷ス植物體ノ組織ニハ斯クノ如ク縱ニ緊張力アルノミナラズ、橫ニモ之レアルモノトス。

實驗、

柳ノ木幹ヲトリ皮膚ヲ輪狀ニ創リ取ル時ハ、皮片ハ甚シク收縮シタトヒ之ヲ原位置ニ齎スモ亦創傷部ヲ包含スルコトナシ、之レ皮部ガ收縮スルト同時ニ材部ノ膨脹スルニ基因スルモノナリ、而シテ實際ノ場合ニ於テハ內外此二力相平均シ縱ノ場合ニ於ケル組織緊張力ト共ニ相働キヲ植物體ノ體形位置ヲ維持スルモノナリ。

之レヲ要スルニ組織緊張力ハ細胞ノ膨壓力ニ關スルコト甚タル原因ニシテ此外細胞膜ノ性質、及ビ生長ノ狀態等ニヨリテ異ナルモノトス。

實驗、

たんぽゝノ如キ嫩キ莖ヲ食鹽水中ニ浸スレバ、原形質、分離ヲ生ジ細胞膜ノ緊張ヲ失フガ故ニ組織ノ張力モ亦消失シ萎縮スルニ至ル。

◉動物生理科

一、蛙ニ付キ大ナル神經ヲ露出スル方法ヲ問フ。

先ヅ鋏又ハ解剖刀ヲ適宜ニ用ヒテ頭骨ヲ創リ去ルトキハ各嗅葉ノ前端ヨリ前方ニ向テ出ヅル大神經出ヅ、之レ第一神經即チ嗅神經ナリ、同時ニ間腦腹面ノ極前端ヲ覗フ時ハ眼球ニ派出スル大ナル神經アリ、之レ視神經ナリ。

背側ヨリ脊椎ヲ創リ取ル時ハ、延髓ノ前側隅ヨリ一條ノ大神經出ヅ、之レ三叉神經ナリ。

三叉神經ノ後方ナル聽神經アリ、聽神經ノ後方ニシテ延髓ノ中部ノ側面ヨリハ舌咽頭神經出ヅルヲ見ル、舌咽頭神經ノ直後ニハ三條ノ根ヲ以テ延髓ヨリ出ヅル所ノ迷走神經アリ。腹部ヲ切開キ內臟ヲ取除ケバ、交感神經及ビ脊髓神經ヲ見ル、殊ニ太キ第一脊髓神經第二脊髓神經之ナリ、第八及ビ第九脊髓神經ノ合着ニ因リテ成リタル大神經ハ坐骨神經ト稱シ、大腿骨基端ノ背側ノ後肢ニ進入スルヲ以テ大腿骨基端ノ背側ヲ切リ開キ見ル

ベシ、以上大ナル神經ヲ擧ゲタルノミ。

二、 眼球ノ模型ニ就キ毛樣筋ノ在所及其用ヲ問フ。

脈絡膜延テ脈絡膜毛樣部ニ至レバ、有色結締組織細胞ヲ減ジ平滑筋ヲ有ス、此筋ヲ毛樣筋ト云フ。

毛樣筋ハ其一部ハ網狀結締組織ヲ以テ、角膜鞏膜境ノ裏面ヨリ左リ後方ニ進ミテ脈絡膜中ニ放散ス。其一部ハ內方ニ存スル輪狀束ニシテ、毛樣緣ヲ通過ス、之レヲミユルレル氏ノ筋ナリ、兩部共ニ動眼神經ヨリ運動神經ヲ受ク。

安靜時ニ於ケル水晶體ハ緊張セル沈子帶ノ牽引ニヨリテ、常ニ後方ニ存在スル硝子體ニ向テ平壓セラレテ存シ、固有ノ彈力ヲ以テ絕エズ隆起セントスルガ故ニ、今接近セル物體ヲ見ル時ニ當リ調節筋（毛樣筋ノ縱走纖維、及ビ其輪狀纖維ヲ指ス、近在ノ物體ヲ見ル時收縮ス）收縮シテ脈絡膜ノ緣邊ヲ前方ニ牽引シ、沈子帶ヲ弛緩セシムルトキハ其彈力ニヨリテ忽チ凸隆ストイヘドモ、其後面ハ硝子體ノ皿狀窩ニ接シテ其壓制ヲ受ケ隆起スルコト能ハズ、只前面ノミ前方ニ隆起シ從ツテ近接スル物體ヲ見ルヲ得ルナリ。

三、 生理用コンパスノ用所ヲ問フ。

生理用コンパスヲ使用スルハ彼ノ感覺ヲ試驗スルトキニ用ユ（壓感、溫感ノ時）

四、 胸管ノ模型ヲ示シ其何ナルヤ及其中ヲ流ル、液ノ由來ヲ問フ。

胸管ノ生ズルヲ見ルニ兩下肢及ビ骨盤ノ各半ハ其淋巴ヲ胃肝脾淋巴管ニ注ギ胃腸肝脾膵等ノ淋巴ハ皆合シテ腸淋巴幹ニ入ル、左右ノ腰部淋巴幹ト腸淋巴幹トハ合流シテ乳糜管トナル、胸管ハ之レヨリ上行シ左總頸筋脈ノ間ヲ經テ左右無名靜脈ノ會合角ニ入ル、此入ルニ先チ左鎖骨下淋巴幹ト左頸淋巴管ト氣管縱隔淋巴幹トヲ合併ス、以上ノ如クナルヲ以テ胸管ハ淋巴ヲ通ズルハ勿論其中ニハ腸胃ヨリ來ル淋管ハ乳糜ヲ含ムヲ以テ乳糜管ト云フ、故ニ乳糜ヲ混ズルモノナリ。

五、 三半規管ノ模型ヲ示シ其何ナルヤ又何ノ用ヲナスヤヲ問フ。

橢圓正圓ノ二囊及ビ三半規管機能

未ダ明ナラズ、曰ク樂音ノ高低及音色ハ蝸牛殼管ノ媒介スル所、而シテ其强弱ト雜音ノ種ト或ハ叉音源ノ方向トハ二囊及ビ三半規管ノ聽取スル所ナラント。

二嚢ト三半規管トガ音響ノ外ニシテ別ニ一特異ノ機能ヲ有スルコト疑フベカラザルニ似タリ、之ヲ毀損スルトキハ運動ノ障害アリトハ古クフルーレン、ゴルツ氏ノ諸氏ノ報ゼシ所、而シテ之ヲ賛成スルノ期ヲ近ク愈々多キヲ加ヘタリ、之レハ鳩ノ三半規管ニツキテ試験セリ。（宮入慶之助生理學講義千百二十六頁ヲ見ヨ）

コレニヨリテ人斷ズラク、二嚢三半規管ハ空間ニ於ケル頭部ノ位置及ビ運動ヲ認識スルノ機能ヲ有ス、而シテ之ヲ認識スルヲ得ルハ即チ全身ノ空間ニ處スルノ觀念ヲ構成スル所以ナリト。

六、穿山甲ノ骨骼ヲ示シ左ノ諸項ヲ問フ。

種名　目名、貧齒類ノ諸例、哺乳類ト爬虫類ノ骨骼上ノ異點

Placentalia　有胎盤哺乳類

Edentata　無齒類

Fam. Manidae　せんざんこー科

Manis Pentadactyla, L.　せんざんこー

Edentata

せんざんこー科　せんざんこー

ありくい科　ありくい

よろいねずみ科　おーよろいねずみ

みつわよろいねずみ

よろいむぐら

なまけもの科　みつゆびなまけもの

哺乳類ト爬虫類トノ骨骼上ノ異點

其最モ異ニシテ兩類ヲ骨骼上區別スベキ要點ハ次ノ二ナリ

一、哺乳類ニテハ脊椎ノ第一骨即載域（Atlas）ノ二個ノ關節面ヲ以テ後頭骨ト關節ス。

爬虫類ニテハ後頭骨ト脊椎ト連結スルニ頭骨ニハ一個ノ裸狀突起ヲ以テス。

二、哺乳類ニテハ下顎骨ガ頭骨ニ連接スルニハ別ニ他ノ骨ノ存スルヲ見ザルモ、爬

虫類ニテハ兩骨ヲ結合スルニハ其間ニ特別ノ一骨即方骨 Os quadratum ニヨルモノトス。

其他ニ於テモ亦異ナル點少カラズ、其主トシテ爬虫類ノ哺乳類ニ異ナルモノヲ擧グレバ、

爬虫類中蛇類ニテハ四肢ハ全ク之ヲ缺キ、或ハ後肢ノミ存スルモノアリ、(哺乳類ニテハ四肢ヲ具備スルモノトス) 爬虫類中他ノ者ハ四肢ヲ具フルモ哺乳類ノ如ク支重ノ要ニ適セザルヲ以テ横ニ出デ、單ニ前進ノ際之ニテコギ助クルニ過ギズ、支重ハ却テ腹壁ニ於テナスモノナリ。

哺乳類ト異ニシテ肋骨ノ發育著シク其數非常ニ多キモノアリ。胸骨ハ種類ニヨリテ能ク發育スルモノアルモ、又之ヲ缺クモノアリ、爬虫類ニハ脊椎骨ヲ左右自在ニ曲グルヲ得、手足ノ作用ヲ助ケ頗ル敏捷ナルモノアリ。

七、てふざめノ標品ヲ示シ左ノ諸項ヲ問フ。

種名 目名 魚類諸目ノ名稱

板鰓類ト硬鱗類トノ相違

(1)てふざめノ種名目名

目 Ganoidae. 硬鱗類

種 Acipeuser. てふざめ

魚類ノ諸目

1. Teleostei 薄鱗類
   a. Acantopteri 棘鰭類
   b. Anachautin 軟鰭類
   c. Physotomi 口鰾類
   d. Plectognathi 固顎類
   e. Lophobrauchii 總鰓類
2. Elasmobrauchii 板鰓類
   a. Holocephali 完頭類

b. Selacoidei　鮫類

c. Batoidei　鱝類

3. Ganoidei　硬鱗類

（之レハ原語ナクテモヨロシイ）

板鰓類ト硬鱗類トノ差異

板鰓類　硬鱗類

一、骨骼　皆軟骨ヨリナル。　軟骨或ハ硬骨ヨリナル。

二、皮膚　平滑ニシテ鱗ヲ有セズ（完頭類）　多ク並列セル光澤アル陶器ノ如キ骨鱗平行シテ五列ニ存ス。
鱗ヲ有スルモノハ粒狀又ハ楯狀ヲナス。

三、鰓　咽喉ノ側面ニ五雙ノ鰓孔（稀ニ）六雙或ハ七雙ヲ有スルモノアリ。　鰓孔ハ直チニ體外ニ開カズ鰓蓋ヲ以テ之ヲ覆フ。

各々分レテ體外ニ開クヲ常トスレドモ、又稀ニ鰓蓋アリテ左右ニ各一個ノ裂孔ヲ開クモノアリ。

四、腸　腸ノ内面ニ螺旋狀ノ瓣膜ヲ有スルコト同一ナリ。

五、脈管　大動脈管内ニ數列ノ瓣膜アルコトモ又同ジ、

六、尾鰭　尾鰭ハ兩類トモ概ネ不正ナリ。

七、卵　形大ニシテ卵黄ニ富ミ硬キ一種ノ嚢ヲ被リ紐ニテ海藻等ニ附着シ發生セル兒ハ至テ丈夫ナルガ故ニ、其卵ノ數モ亦從テ少シ間

卵ハ其形小ニシテ其數頗ル多シ。

なり。

八、住處　主トシテ海產魚類ナリ。

八、やつめうなぎ

種名、他ノ魚類トノ相違

綱　Cyclostomi　圓口類

目　Hyperoartia

種　Petromyzon fluviatilis L.

其魚類ト主トシテ異ル點ハ次ノ如シ。

一、口ニ上下顎ナシ、

二、鼻孔一ッニシテ末端ニアリ口ニハ多ク齒ガ併列シ他魚ニ吸ヒ付キ齒ヲ動カシ食ス。

三、兩側ニアル附屬物四肢ハ全ク缺ク。

四、鱗ヲ缺ク。

五、目ハ圓筒ノ如ク出デ其後ニ七ツノ小鰓孔併列ス。

淡水產ノモノアリ。

一、骨骼

骨骼ハ凡テ軟骨ニシテ脊索ハ生涯之ヲ有シ完全ナル脊椎骨ヲ生ズルナリ、只脊面ニ軟骨性ノ不完全ナル弧部ヲ有スルモノアリ。

二、皮膚

多ク脈ヲ備ヘ平滑ニシテ鱗ヲ有スルコトナク、脊ノ中央線並ニ尾端ハ鰭トナリ遊泳ノ作用ヲナス。

通常硬骨ナレドモ、時トシテ半硬半輭ノモノアリ、又全ク輭骨ヨリナルモノアリ。

脊索モ幼時ノ時ノミニ有シ成長ノ後失フモノト生涯之ヲ有スルモノアリ、脊椎骨ハ完全ニシテ前後ニ凹面ヲ有ス。

上皮ハ滑ニシテ數多ノ線ヲ有シ眞皮内ニハ鱗アリ、鱗ハ通常扁平ニシテ輪紋及ビ射線アリ、種々ノ形アリ、(圓滑鱗、櫛齒鱗、鰭鱗、楯狀鱗)他類ノ四肢ニ相當スルモノ鰭トナリ、各部ニ於テ構造名稱ヲ異ニス游泳(尾鰭ノミ主トシテ)及ビ體ノ平均ヲ保ツニ用ヒラル。

三、感官

目ハ通常克ク發達シ圓筒狀ニ突出ス、耳ハ一室ト二條ノ半規管トヨリナル。

鼻孔ハ只一ツニシテ正面ニアリ。

眼ハ著シク發達シ球形ニシテ其形比較的大ニシテ多ク眼瞼ヲ有セズ水晶體球形ナリ、耳ハ一室ト三半規管ヨリナル鼻ハ頭前ニ一對ノ孔ヲ開ケドモ後端口腔ニ通ゼズ。

四、消化器

口ハ圓形ニシテ數多ノ齒ヲ有シ舌ハ口底ニ位シ前後ノ運動ヲナシ口ト共ニ吸盤ノ作用ヲナシ以テ他物ニ附着ス。

口ハ頭ノ前端若シクハ下面ニ開キ上下顎骨及ビ口蓋ニ齒ヲ生ズ其形種々アリ。

五、呼吸器

鰓ニ於テ呼吸スルコトハ魚類ト一般ナルモ頸部ニ6―7對鰓嚢アリテ各個列ヲナシ、體上ニ開クモノト或ハ合シテ腹面ニ共同ノ一鰓孔ヲ開クモノアリ。

概ネ櫛齒狀ノ鰓ニヨリテ呼吸シ一個ノ鰓蓋ニテ被ハル者多シ、然レドモ時トシテ鰓孔列ヲナシテ各個側面ニ開孔スルアリ、或ハ相合シテ一個ノ孔トナリ開クモノアリ。

六、生殖

生殖器ハ體腔内ニアリテ生殖物ハ其成熟スルニ及ンデ生殖器ヲ出デ體腔内ニ落チ遂ニ腹孔ヨリ産出ス。

主トシテ卵生ニシテ稀ニ胎生ノモノアリ。

明治三十三年度本試驗

◉物理科

口頭

一、波動及其干涉

三、電流ニ關スル「エネルギー」教授法

一、電氣分解實驗

一、感應電流ヲ示ス實驗

◉化學科

一、イチン試ヲ講セヨ（口頭、教授法）

三、與ヘタル物質ヲ鑑識セヨ（實驗）

◉鑛物科

一、mRn ノ記號ノ意味ヲ說明セヨ

三、黃鐵鑛カ褐鐵鑛ニ爲ル時ノ化學變化ヲ說明セヨ

甲、尾平ノ斧石、

二、濕度及寒暖計

二、圓柱ノ重サ及大サヲ測定シテ其比重ヲ算出スル實驗

二、鹽化水素瓦斯ヲ製シ其容積組成ヲ分析的ニ試驗セヨ

二、蝕像ニ因テ結晶ノ對稱ヲ知ル事ヲ說明セヨ

四、左ノ標品ニ就キ知ル所ヲ述ベヨ

乙、甲斐ノライン鑛

丙、渡瀨川ノ櫻石

戊、倉谷ノ方鉛鑛

五、釜石ノ鐵鑛床ニ就キ知ル所ヲ述ベヨ

口頭

一、岩石學用顯微鏡ノ使用法

三、結晶模型五箇、鑛物、岩石、化石ノ標本二十五個ニ就キテ知ル所ヲ述ベヨ

◉習字科

一、進趨極虔恭退息常端壯（楷行草）

二、讀書如竹外溪流逈然而詠詩如嶺末風起勃焉而揚（楷行草）

三、春日野のわかなつみにやしろたへの袖ふりはへて人のゆくらん（本字假名トモ適宜ノ字體ヲ用ユベシ）

第一問答書式

楷
姓名

行
姓名

草
姓名

第二問答書式

楷	草
行　姓名	第三ノ問假名　姓名

用紙ハ誤脱汚損アリトモ別ニ請求スルヲ得ズ

（右二時間）

教授法

生徒ノ答案及ビ書牘文等ニ往々誤字アルタメ主意明了ナラザルコトアリ之ヲ矯正センニハ平素如何ニ注意セバ可ナラ
ンヤ

（右一時三十分間）

◉圖畫科

鉛筆畫

一、鉛筆寫生　男老人

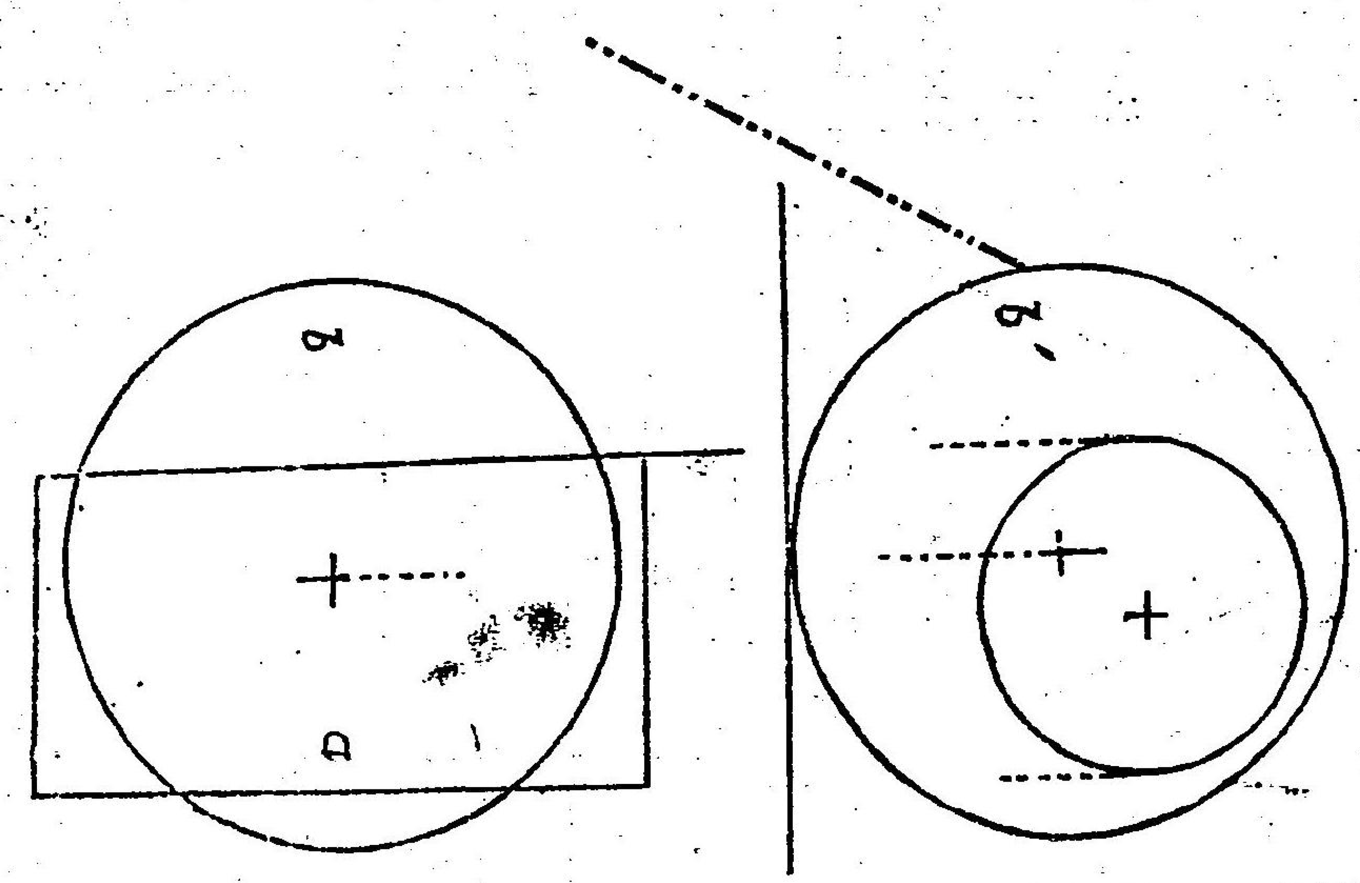
二、着色寫生　玻璃器入（林檎 蜜柑 ヨロ柿）

用器畫

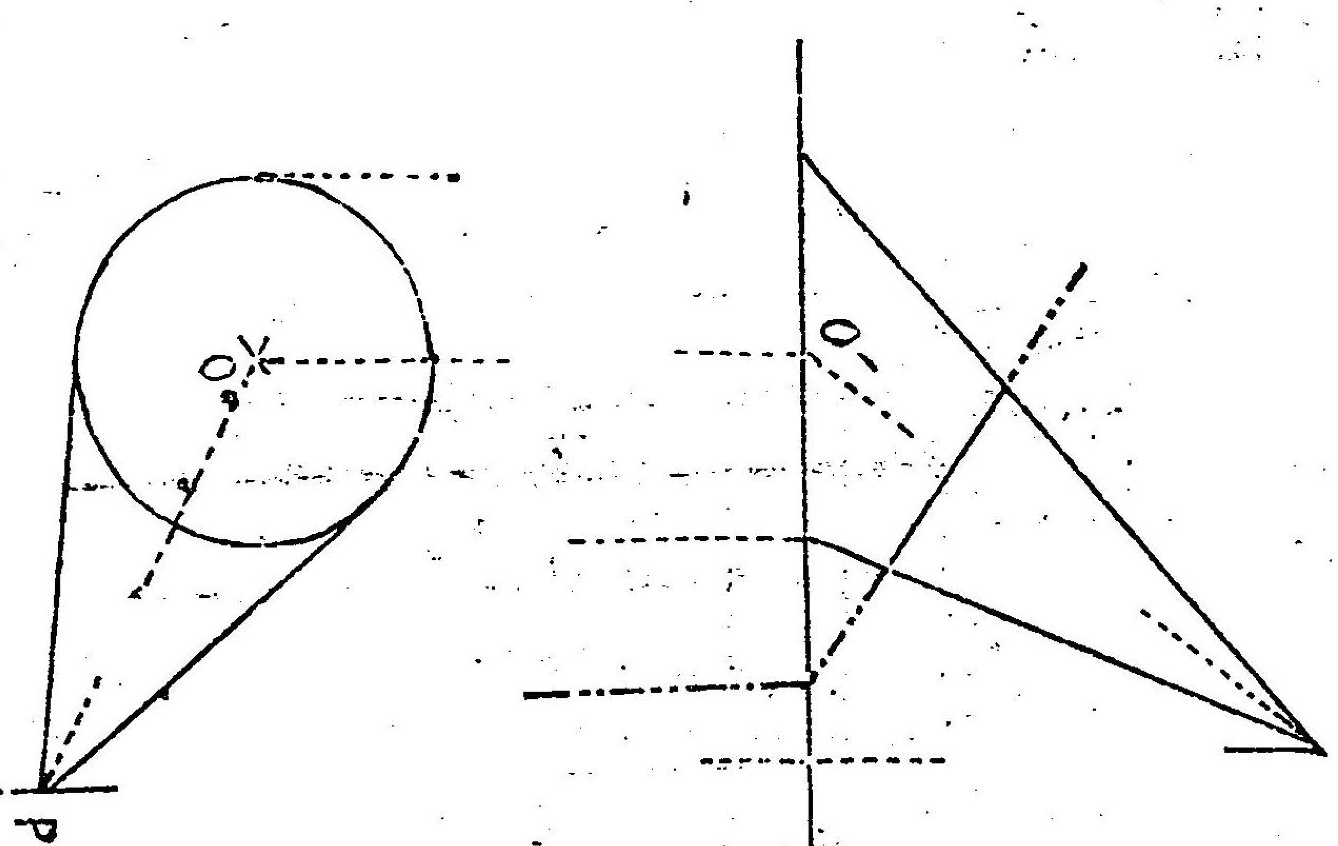
一、第一圖ノ斜軸圓錐ヨリ平面ガ切リ取ル曲線ヲ平畫面ニ投影シ併セテ此錐體ノ最長及最短線ノ實際ノ長サヲ示スベシ

二、第二圖ニ於ケル球ト圓柱トノ相貫體ノ投影ヲ完全シ全體ヲ矢印ノ方向ヨリ見タル場合ノ横面投影圖ヲ作レ

但シ此場合ニ用ユベキ新界線ハ變ニ鎖線ヲ完結セヨ



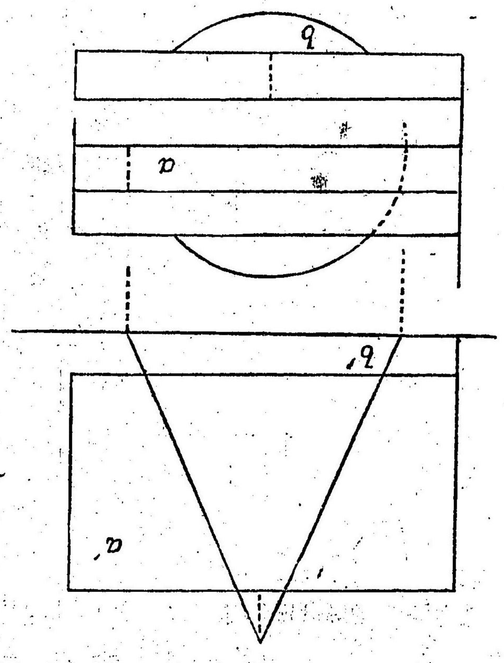
第二圖



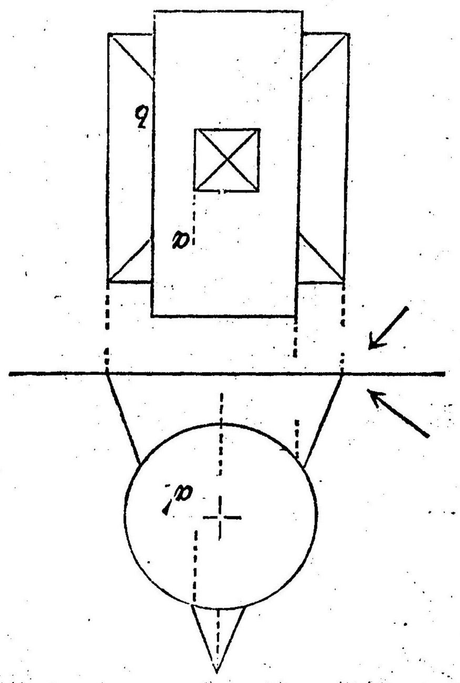
第一圖

第十四回

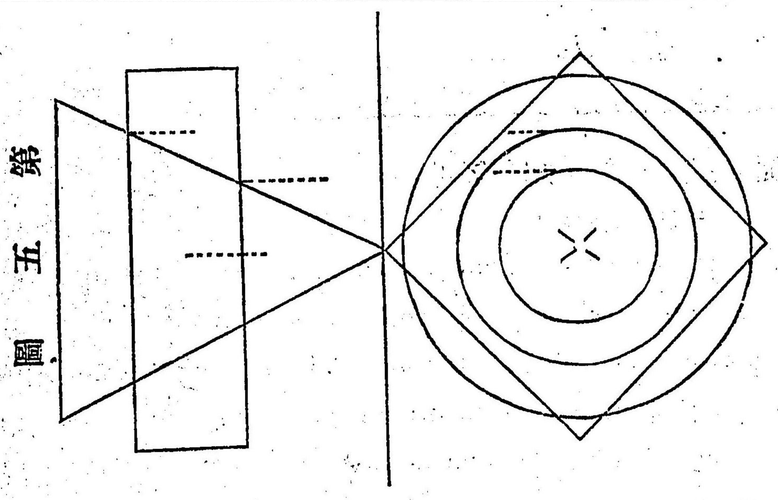
第三圖



第四圖



第五圖



三、第三圖ノ圓錐ノ五角柱上ノ相貫線ノ圖ヲ完結セヨ

四、第四圖ノ投影畫ニ陰影畫ヲ施セ但シ光線ノ方向ハ矢印ニ依ルベシ

五、第五圖ニ於テ投影畫ヲ以テ示シタル相貫體ヲ左ノ條項ヨリ遠視畫ニ作ル方板ハ角ノ一邊ニテ畫面ニ接シ、視點ハ高サ三寸五分圓錐ノ軸ヨリ一寸五分畫面ヨリ四寸ノ距離ニアルモノトス

◉外國語 佛語科

佛文和譯

UN BAVARD.

Arrívas a tout lu, a tout vu ; il vent le persuader ainsi : c'est un homme universel, et il

se donne pour tel; il aime mieux mentîr que de se taîre ou de paraître ignorer quelques choses. On parle a la table d'un grand d'une cour du Nord; Arrivas prenb la parole, et l'ôte à ceux qui allaient à direce qu'ils en savent; il s'oriente dans cette région lointaine comme s'il en étaít orígínaire, il discourt des moeurs dè cette cour, dès gens du pays, de ses lois et de ses coutumes; il récite des historiettes qui y sont arrivées, il les trouve plaisantes et en rit le premíer jusqu' à éclater. Quelpu' un se hasârde à le contredíre, et lui prouvr nettement qu'il dit des choses qui ne sont pas vraies; Arrivas ne se trouble point, prend feu an contraíre contre l'interrupteur. "Yl n'avance, lui dit il ie ne raconte rien que je ne sâche d'original; je l'ai oppris de Sethon, ambassadeur de France dans cette cour, revenu de Paris depuis quelques jaurs, qui je connais familièrement, que j'ai fort interrogé, et qui ne m'a caohe' aucune circonstance." Il reprenait le fil de sa narration avec plus de confiance quil ne l'avait commencée; lorsque l'un des convies lui dit: "C'est Sethon à qui vous parlez lui-mème, et qui arrive de son ambassade."

(La Bruyère.)

和文佛譯ト通シテ三時間トス

和 文 佛 譯

らんどしーるノ話

英吉利國ニ.らんどしーる(Edwin Landseer)ト云ヘル人アリ.幼キ時ヨリ畫ヲ好ミシガ遂ニ名高キ畫カキトナリテ誰知ラヌモノ無キニ至レリ。らんどしーるハ幼キ時.常ニ母ニ畫ノ手本ヲカキテモライシニ.母ハ靴鞭其他通常ノ品物ヲカキテ與ヘタリ。

らんどしーるハ同シ物ヲ再三畫キテ倦ミタリシカバ或時父ニ書キテヨト請ヒシニ父ハ少シク外ヘ出デヽ朋友ト遊ベトテ.廣キ野原ニ出シヤリタリ。

此ノ野原ニハ.野飼ヒニセル牛馬ナド多ク居リタリシ故らんどしーるハ之ヲ畫カントテ.先ツ臥シタルモノヨリ始メ.遂ニハ其動クサマ.走リマワル樣ヲモ畫キタリ。

其後らんどしーるハ我目ニフルヽ動物ハ何ニテモ皆畫キ習ヒテ.遂ニ動物ノ畫ニ最モ妙ヲ得タリ。

注意　時間ハ佛文和譯ト通シテ三時間トス

和文佛譯ノ答書ハ「ペン」及「インキ」ヲ以テ西洋紙ニ書クベシ

◉農業科

一、作物ノ新品種ヲ育成スルニ當リ注意スベキ要件ヲ擧ゲヨ

二、植物ノ養料吸收ニ關スル法則奈何

三、燐酸肥料ノ種類及其化學的性質ヲ問フ

四、役畜トシテ牛馬ノ得失奈何

五、高等小學第三學年ノ生徒ニ撰種ト云フ題目ニテ三時間ノ教授ヲナサントス之レガ教案ヲ作ルベシ

（右四時間）

◉家事科

一、修業年限四ケ年ノ高等女學校第三學年ニ用ユベキ家事科教授草案三時間分ヲ作ルベシ但シ其教授事項ハ文部省令高等女學校學科課程標準ニ據リテ之ヲ撰定スベシ　二、左ノ事項ヲ日記帳ニ記入スベシ

十二月廿日

手元現在高　金五拾圓

同　廿一日

座敷及ヒ部屋盤入替費　金拾五圓卅錢

國許松山氏ヘ歲暮トシテ物品送附ニ付運賃　金貳拾四錢

竹川氏ヘ立替金　金壹圓

同　廿二日

貯蓄銀行ヨリ引出　金三拾圓

火災保險料半期分　金三拾圓

衞生組合費本月分　金拾錢

同　廿三日

紫メリンス風呂敷二枚　金六拾錢

洋服屋ヘ手附金　金拾圓

主人俸給本月分　金百圓

同　廿四日

長女梅子ヘ靴一足　金一圓八拾五錢

次郎ヘ玩具　金拾八錢

竹川氏ヨリ立替金返濟　金壹圓

雜品賣却代　金一圓五拾錢

同　廿五日

日用小皿拾枚　金貳拾五錢

九谷燒菓子鉢一箇　金貳圓五拾錢

餅搗入費　金七圓三拾六錢

繪はがき三拾枚　　金貳拾四錢
郵便切手　　金一圓三拾五錢

三、肩ヨリ上、上臂下臂ヲ通シテ腕關節マデ繃帶ヲ施サントス如何ナル用法ニ據ルベキカ圖ヲ揭ゲテ之ヲ解說スベシ

四、傳染病ノ手當方幷ニ其豫防法ヲ記スベシ

五、腺病質ノ小兒ノ狀態及ビ之ニ對スル養育法ヲ述ブベシ

（右四時間）

◉裁縫科

一、左ノ事項ヲ高等女學校第一學年ニ教授スルモノトシテ其教授草案ヲ記載スベシ

本裁單衣男物裁方

二、片面物大幅（一尺六寸）ノ布ヲ以テ女大人物無垢上着幷ニ上着ノ廻リ一枚ヲ裁タントセバ其布地何程ヲ要スルカ又裁方ノ圖及ビ寸法ヲ記載スベシ

三、フヲネル大幅ヲ以テ胸當及ビ折衿附大人物シヤツヲ裁タントスルニハ如何ナル裁方ニヨルベキカ之ヲ圖解スベシ

但シ各部ノ寸法ハ圖中ニ記入スベシ

四、博多男帶　一筋　仕立方

六、女兒洋服上着一枚　仕立方

（右三時間）

五、縮緬女物　右袖　仕立方

◉法令及規程

一、教員免許令

朕教員免許令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月二十日

文部大臣伯爵　樺山資紀

勅令第百三十四號（明治三十三年三月三十日官報）

教育免許令

第一條　特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條　教員免許令ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ

合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條　教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

三　破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者

第六條　教員檢定ヲ出願スル者ハ手數料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ

第七條　教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第九條　教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手數料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條　教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ

第十一條　教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第十二條　本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附　則

第十三條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス

二、教員檢定委員會官制

朕教員檢定委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治卅三年三月卅日

勅令第百三十五號（明治三十三年三月三十一日官報）

教員檢定委員會官制

第一條　教員檢定委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ教員檢定ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條　教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一會長　一人　內閣總理大臣侯爵　山縣有朋

一常任委員　文部大臣伯爵　樺山資紀

一主事　一人

一臨時委員

第三條　會長、常任委員、主事及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第四條　會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ檢定ノ成績ヲ文部大臣ニ報告ス會長事故アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第六條　主事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ教員檢定ニ關スル庶務ヲ整理ス

第七條　臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ノ事ヲ掌ル

第八條　會長常任委員主事及臨時委員ニハ一箇年百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　教員檢定委員會ニ書記三人ヲ置キ文部省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及主事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ニハ一箇年五十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三、教員檢定ニ關スル規程

文部省令第十號　（明治三十三年六月一日官報）

明治三十三年勅令第百三十四號教員免許令第七條ニ基キ教員檢定ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十三年六月一日

文部大臣伯爵　樺山資紀

教員檢定ニ關スル規程

第一條　教員檢定ハ受檢人ノ學力品行身體ニ就キ教員タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ檢定スルモノトス

第二條　檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ法令ニ規定アルモノニ限ル

國語、漢文ハ合セテ一學科目トシテ檢定ス

修身、倫理ハ同一學科目トシテ檢定ス

數學ハ算術代數幾何、三角法ノ二部ニ博物ハ動物生理、植物、鑛物ノ三部ニ圖畫ハ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ體操ハ普通體操、兵式體操ノ二部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手數料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

三角法ハ算術代數幾何ノ檢定ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス

第三條　試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ臨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限、試驗ヲ爲スヘキ學科目及試驗施行ノ期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第四條　檢定ヲ受ケントスル者ハ氏名、族籍、住所、生年月及教員タラムト欲スル學校ノ種類、學科目ヲ記シタル願書（一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一　學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書（二號書式）及學業證書若ハ教員免許狀ノ寫

二　學校醫ノ身體檢定書（三號書式）但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若ハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ檢定書ヲ以テスルモ妨ケナシ

地方長官又ハ當該學校ハ本人ノ品行ニ就キ檢定願書ニ添ヘ其ノ意見ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條　左ノ第一號乃至第四號ニ揭クル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ第五號ニ揭クル者ハ其ノ免許ノ學科目ニ關シ第六號ニ揭クル者ハ其ノ敎授シタル學科目ニ關シ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

一　文部大臣ノ指定シタル官立學校ノ卒業生及選科修了生

二　師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ敎員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入リ三學年以上在學シテ卒業シタル者但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

三　師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若クハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修業シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

四　外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ學期ニ入リ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

五　敎員タラムト欲スル學校ノ學科程度ヲ同等以上ノ學校ノ敎員免許狀ヲ有スル者

六　敎員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ於テ一箇年以上敎員タルノ者若ハ敎員タリシ者

左ニ揭クル者ハ體操ニ關シ前項第一號ニ準スルコトヲ得

一　陸軍步兵科士官

二　元陸軍敎導團步兵科卒業生

三　陸軍步兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者

四　私立日本體育會體操學校本科優等卒業生

第六條　前條ニ依リ無試驗檢定ヲ出願シタル者ニシテ敎員檢定委員會ニ於テ試驗ヲ必要トト認メラレタルトキハ本人ノ志望ニ依リ更ニ出願ヲ要セス次期ノ試驗檢定ニ於テ出願ノ學

科目ニ就キ直ニ本試驗ヲ受クルコトヲ得

第七條　試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス但シ學科目ノ種類ニ依リ豫備試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

豫備試驗ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　試驗ハ受驗人出願ノ學科目ニ就キ其ノ教員タラムト欲スル學校ノ學科目ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシテ教授法ヲ併セテ之ヲ行フモノトス

第九條　豫備試驗ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ

本試驗ヲ行フ場所ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第十條　豫備試驗ニ合格シタル者ハ爾後引續キ行フ本試驗ヲ三回マテ受クルコトヲ得

第十一條　受驗人歷史、地理及算術代數幾何ノ試驗ニ合格セサルモ其ノ一部分ノ成績佳良ナルトキハ其ノ部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分ヲ省キ其ノ他ノ部分ニ就キ試驗ヲ行フ本試驗ノ際ニ於ケル同一學科目ニ就キ三箇年以上引續キ現ニ教授ニ從事シ成績佳良ナル者ニ就テハ地方長官ノ稟申ニ依リ其ノ教授シタル學科目ニ關シ其ノ學校ト同種類ノ學校ノ教員トシテ特ニ無試驗檢定ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ本令第四條第一項ニ準シ必要ナル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第十四條　明治三十二年文部省令第二十五號第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ハ本令第五條第一項第二號ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條　明治二十九年文部省令第十二號師範學校、中學校、高等女學校教員免許規則ニ

依ル豫備試驗ノ合格者及證明書ノ受領者ニ對シテハ本令第十條第十一條ヲ準用シ仍其ノ效

力ヲ存續セシム

第一書式（用紙美濃紙）

教員檢定願

消印

収入印紙

何學科　何學科

何學科

私儀師範學校（中學校）（女子師範學校）（師範學校女子部）（高等女學校）教員志願ニ候間前記ノ學科ニ就キ試驗檢定（無試驗檢定）相受度別紙履歷書竝ニ醫師身體檢查書相添ヘ此段相願候也

年　月　日

住所族籍

氏　名

生年月

右

何　某印

文部大臣　何　某　殿

第二號書式（用紙美濃紙）

履歷書

學業

一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業　證書寫別紙ノ通

一年月日何々ニヨリ何免許狀ヲ受ク　免許狀寫別紙ノ通

業務

一年月日何官職拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞罰

一年月日何所ニ於テ何々ニ付キ何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク

右之通相違無之候也

教員檢定ニ關スル規程

年　月　日

第三號書式（用紙美濃紙記載方ハ別記身體檢查書記載方心得ニ依ルヘシ）

身體檢查書

一體　格
一身　長
一體　重
一胸　圍
一中心視力
色　盲
眼　病
一聽　力
耳　疾
一呼吸器
一神經系
一皮　膚
一言　語
一既往現在ノ疾病又ハ畸形

右檢查候處相違無之候也

年月日檢查

住　所
何學校醫
學位（若ハ資格）何　某　印

百三十三

右

何　某　印

百三十二

族　籍
何　某
生年月

別記

身體檢查書記載方心得

一檢查ノ表記及身長體重胸圍聽力等ノ檢查方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程ニ準スヘシ

一體格ノ强健ト稱スル者ハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(センチメートル)(糎)ヲ以テ體重(キログラム)(瓩)ヲ除シタル商○、三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス

中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(センチメートル)(糎)ヲ以テ體重(キログラム)(瓩)ヲ除シタル商○、二六以上且無病ノ者ヲ指ス

薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ强度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狹小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

一中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ 20/a ト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ニ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ色盲ハ其ノ有無、若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ

一呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ

一神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ

一皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚症ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顏面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ

一言語ハ明朗、吃、嗄聲等ヲ記載スヘシ

一既往現在ノ疫病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜病、脚氣等ノ曾患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

四、學校教員學力試驗及免許狀授與手數料登記印紙ヲ以テ納付方

文部省令第四號（明治二十五年三月三十一日）

明治二十四年(月)(十二)勅令第二百四十五號ニ依リ本年四月一日ヨリ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ

手數料種目左ノ如シ

學校教員學力試驗手數料

學校教員免許狀授與ノ手數料

（參照）

勅令第二百四十五號（明治二十四年十二月）

政府ニ納ムヘキ手數料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得但其主目ハ主務大臣之ヲ定ム

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

五、學校教員學力試驗及免許狀授與手數料トシテ登記印紙貼付方

文部省告示第三號（明治二十五年四月十九日）

本年三月文部省令第四號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手數料ヲ納ムルニハ學校教員學力試驗手數料ニ係ルモノハ地方廳ニ於テ願書ノ査閲ヲ受ケタル後其願書ニ學校教員免許狀授與手數料ニ係ルモノハ免許狀受領ノトキ其受領書ニ印紙ヲ貼付シ消印スヘシ

六、無試驗檢定者ノ資格

文部省告示第百五十三號

明治二十三年文部省令第十號教員檢定ニ關スル規程第五條第一項第一號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

明治二十三年六月一日

帝國大學分科大學卒業生

元東京大學卒業生

元工部大學卒業生

農業教員養成所卒業生

高等商業學校卒業生

元東京商業學校卒業生

文部大臣伯爵　樺山資紀

帝國大學分科大學選科修了生
帝國大學文科大學（元古典講習科）卒業生
帝國大學理科大學（元簡易講習科）卒業生
帝國大學農科大學實科卒業生
帝國大學農科大學乙科優等卒業生
高等學校卒業生
元高等中學校卒業生
札幌農學校卒業生
元駒場農學校卒業生
元東京農林學校卒業生
商業教員養成所卒業生
東京工業學校卒業生
元東京職工學校卒業生
工業教員養成所卒業生
東京美術學校卒業生
東京音樂學校卒業生
元高等師範學校（附屬音樂學校）卒業生
元東京音樂學校卒業生
東京外國語學校卒業生
學習院高等學科、大學科卒業生

七、第十四回檢定試驗施行ノ告示及受驗者心得

告示

文部省告示第百五十四號

明治三十三年文部省令第十號教員檢定ニ關スル規程ニ依リ左ノ學科目ニ就キ師範學校中學校高等女學校教員試驗檢定ヲ施行ス受檢者ハ本年七月十日マテニ同規程第四條ニ依リ願書ヲ地方廳ニ差出シ地方廳ハ八月十日マテニ文部省ニ差出スヘシ但シ試驗施行ノ期日ハ更ニ告示ス

明治三十三年六月一日

文部大臣伯爵 樺山資紀

試驗學科目			
修身倫理	歷史	化學	家事
教育	地理	博物	農業
國語漢文	數學	裁縫	
	物理	習字	
	圖畫	體操	
	英語		

◉受驗ニ關スル規程抜抄

○試驗監督者

第七條　同一學科ノ受驗者ハ互ニ其答書等ヲ見ルヲ得サルコトニ注意スヘシ

第八條　試驗問題ハ當該學科試驗施行ノ際其試驗場ニ於テ開封シ受驗者ニ配付スヘシ

第九條　試驗問題ニ關シテハ一切說明スヘカラス

第十條　豫定ノ試驗時間盡キタルトキハ何等ノ事情アルモ直ニ答書ヲ收取スヘシ

第十一條　受驗者試驗中事故アリテ試驗場外ニ出ツルトキハ之ニ附添フヘシ

第十二條　試驗場ニ於テ受驗者不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ勿論其他受驗上疑ハシキ擧動アリタルトキハ其狀況ヲ詳記シ試驗答書ニ添付スヘシ

但シ試驗監督上ノ妨害ヲ爲スモノノ如キハ退場セシムルコトヲ得

○受驗者

第十三條　試驗當日ハ定時前ニ試驗ヲ受クヘキ場所ニ出頭スヘシ若シ其時限ニ後レテ出頭シタルトキハ試驗場ニ入ルコトヲ許サス

第十四條　試驗場ニ出席スルニハ羽織袴又ハ洋服ヲ着用スヘシ

但女子ノ服裝ハ適宜タルヘシ

第十五條　携帶品トシテ示シタルモノノ外書籍書類ハ勿論其他白紙タリトモ携帶シテ試驗場ニ入ルコトヲ許サス

第十六條　試驗問題ニ關シテハ一切質問スルコトヲ許サス

第十七條　試驗答書ハ文字ヲ明瞭ニ記載シ且問題紙面ニ特ニ指示スルモノノ外一問毎ニ答書ヲ別ニシ必ス姓名ヲ記載スヘシ

但一問ノ答書二葉以上ニ亘ルトキハ毎葉順序ノ符號ヲ記シ且一葉毎ニ必ス姓名ヲ記載シテ之ヲ綴ルヘシ

第十八條　某問題ニ就キ答ヲナス能ハサル場合ニ於テハ其問題ノ番號及ヒ不能ノ二字並ニ姓名ヲ記載シテ差出スヘシ

第十九條　一旦答書ヲ出シタル上ハ縱令誤謬アルコトチ發見スルモ訂正スルコトヲ許サス

又一旦退場シタルトキハ其試驗時間中再ヒ入場スルコトヲ許サス

第二十條　試驗場ニ於テハ受驗者互ニ言語ヲ交フルコトヲ許サス又監督官ノ承認ヲ得スシテ席ヲ離ルルコトヲ許サス

第廿一條　試驗場ニ於テハ受驗者ハ總テ監督官ノ指揮命令ニ從フヘシ若シ監督官ニ於テ不都合ノ所爲アリト認ムル者アルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第廿二條　凡テ不都合ノ所爲アリト認メタル者ハ其情狀ニ依リ既ニ差出タル答書ヲ無効トシ且當期ニ於テハ引續キ試驗ヲ受クルコトヲ許サヽルコトアルヘシ

第廿三條　受驗者ハ左記ノ用具ヲ携帶スヘシ

○各學科、筆、鉛筆、小刀、硯、墨

但習字毛筆書受驗者ヲ除クノ外ハ硯墨ニ代フルニ矢立又ハ墨壺ヲ以テスルモ妨ケナシ

右ノ外尚學科ノ種類ニ依リ携帶スヘキ用品左ノ如シ

一幾何（設問）　定木、コンパス、

一習字　三寸角及一寸角ノ文字ヲ書クヘキ筆、小楷筆、墨汁、文鎮、

一用器畫　ゴム、圖引器械、三角定木、ピン、曲尺、

一鉛筆畫　ゴム、畫用鉛筆、繪具及筆、筆洗、小皿、

一毛筆畫　面相筆、線畫筆、ヤキ筆、墨、繪具、刷毛、羽箒、筆洗、小皿、

一外國語　ペン、ペン軸、インキ、吸取紙、

一裁縫　針、鋏、篦、鯨尺ノ類、

一測量　カラス口、コンパス、三角定木、

一簿記　黑色インキ、赤色インキ、ペン、ペン軸、丸定木、吸取紙、

八、教員免許令等ニ關スル主務省ノ取扱上ノ要件

一、教員免許令第一條及第二條中特別ノ規定トアルハ現在ニ於テハ小學校實業學校、醫學校及藥學校ノ教員ニ關スル規程等ヲ指ス

二、教員免許令ニ依リ免許狀ヲ要スル者ノ中ニハ官立學校教官ヲ含マス

三、農業教員、商業教員、工業教員、養成所卒業者ニ同令第三條ニ依リ直チニ免許狀ヲ授與セス無試驗檢定ヲ要スルコト、爲シタル ハ該養成所設置ノ目的タル元ト實業教員ヲ養成スルニアリテ當該學校以外ノ教員ヲ養成スルモノニアラサルヲ以テナリ

四、教員檢定ニ關スル規程第二條中法令ニ規定アル學科目トハ現在ニ於テハ文部省令ヲ以テ規定セラレタルモノノ外アルコトナシ

五、國語又ハ漢文ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ國語漢文ノ試驗檢定ヲ出願シタル場合ニハ豫備試驗ヲ行ハス直チニ免許狀ヲ有スル者ニシテ歷史、地誌又ハ地文ノ免許狀ヲ有スルモノニシテ地理、動物又ハ生理ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ動物生理、毛筆畫ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ毛筆畫用器畫、鉛筆畫ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ鉛筆畫用器畫ノ試驗檢定ヲ出願シタル場合亦同シ

動物、生理、動物生理、植物、鑛物ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ博物ノ試驗檢定ヲ出願シタル場合ニハ免許狀ヲ有セサル部分ニツキ豫備試驗及本試驗ヲ行フモノトス但シ動物若ハ生理ノ一科目ニツキ有スル者ハ動物ノ豫備試驗ヲ省クモノトス

六、日本歷史東洋史西洋史中ノ一科目若ハ二科目ノ證明書ヲ有スルモノニシテ歷史、毛筆畫用器畫ノ證明書ヲ有スル者ニシテ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ證明書ヲ有スル者ニシテ鉛筆畫用器畫ノ試驗檢定ヲ出願シタル場合ニハ豫備試驗ヲ行ハス直チニ證明書ヲ有セサル部分ニ就テノミ本試驗ヲ行フモノトス

七、國語又ハ漢文ノ豫備試驗ニ合格シタル者ニシテ國語漢文ノ試驗檢定ヲ出願シタル場合ニハ豫備試驗ヲ省キ直チニ本試驗ヲ行フ、日本歷史又ハ萬國史ノ豫備試驗ニ合格シタル者ニシテ歷史、地誌又ハ地文ノ豫備試驗ニ合格シタル者ニシテ地理、動物又ハ生理ノ豫備試驗ニ合格シタル者ニシテ動物生理、毛筆又ハ用器畫ノ豫備試驗ニ合格シタル者ニシテ毛筆畫用器畫、鉛筆畫又ハ用器畫ノ豫備試驗ニ合格シタル者ニシテ鉛筆畫用器畫ノ試驗檢定ヲ出願シタル場合亦同シ

八、教員檢定ニ關スル規程第十三條ノ同一學校トハ某ノ一學校ノミヲ指シ同一學科ニツキ三ケ年以上引續キ教授ニ從事スト稱スル者ノ中ニハ國語漢文科ニ在リテハ國語ノミ數學

科ニ在リテハ算術ノミニ年以來繼續教授ニ從事シ現職ニ在ル者ノ如キ類ヲ包含ス

地方長官ヨリ無試驗檢定ノ稟申ヲナス場合ニハ本人ノ願書ハ別ニ之ヲ要セス

本條ニハ私立學校ニハ私立學校ヲモ包含ス但シ現在ニ於テハ中學校及高等女學校ノミナリ

私立町村立、郡立若ハ府縣立學校ニシテ中途府縣立、郡立、町村立若ハ私立學校ト變スルカ如キ單ニ經濟上ノ關係ニ異動ヲ生シタル場合又ハ名稱ノ變更ニ止マリ若ハ學校ヲ分離併合セシ場合ニハ新校ヲ以テ舊校ト同一學校ト看做シ本條ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

（附記）

次回ノ試驗ヨリハ左ノ事項ニ注意スルヲ要スト云フ

師範學科受驗者ニ在リテハ

一數學ハ算術代數幾何ノ外簿記ノ試驗ヲ要ス

一倫理ノ中ニハ帝國憲法ノ大意、女子部ハ作法ノ試驗ヲ要ス

又國語漢文ノ受驗者中ニテ國語ノ受驗者ハ

一文學史ノ大要、和歌、古文ノ試驗ヲ併セ受クルコトヲ要ス

九、教員檢定ニ對スル規程ノ改正

省令第十二號（卅四年五月九日）

明治三十三年文部省令第十號教員檢定ニ對スル規程中左ノ通改正ス

第二條　檢查ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身	教育	國語及漢文	英語	佛語
獨語	歷史	地理	數學	物理及化學
博物	法制及經濟	習字	圖畫	家事及裁縫
體操	音樂	簿記	農業	商業
手工	手藝			

歷史ハ日本史、東洋史西洋史ノ二部ニ數學科ハ算術代數幾何、三角法、解析幾何、微分積分ノ四部ニ物理及化學ノ二部ニ博物ハ動物及生理、植物、鑛物ノ三部ニ圖畫ハ毛筆畫

教員檢定ニ對スル規程中ノ改正（

用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ家事及裁縫ノ二部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手數料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

三　角法ハ算術代數幾何ニ解析幾何ハ三角法ニ微分積分ハ解析幾何ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス

第五條　左ニ揭クル者ハ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

一　文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者及選科修了者

二　師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入リ三學年以上在學シテ卒業シタル者但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

三　師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

四　外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ニ入リ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

五　教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ教員免許狀ヲ有スル者

第六條　削除

第十條　左ニ揭クル者ニシテ體操科ノ試驗檢定ヲ出願シタルトキハ兵式體操ノ部分ヲ省ク

一　陸軍步兵科士官

二　陸軍步兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者

第十一條　削除

第十三條　削除

第十五條　從前ノ規定ニ依リ認メラレタル豫備試驗ニ合格幷ニ證明書ノ效力ハ仍其ノ有效期間存續ス

教員檢定ニ對スル規程中ノ改正

一今回ノ試驗檢定ハ師範學校中學校高等女學校教員試驗檢定竝ニ高等女學校女子師範學校師範學校女子部教員試驗檢定ノ二種ニ區別シテ之ヲ行フ但シ前者ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニ對シテハ後者ノ試驗檢定ハ之ヲ行ハス

一習字科、體操、音樂科竝ニ數學科ノ內三角法、解析幾何、微分積分ニ就キテハ豫備試驗ヲ行ハス

一習字科ノ本試驗ハ檢定願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ

一出願學科ノ一部ニ就キ免許狀若クハ證明書ヲ有スル者又ハ出願學科ノ豫備試驗ニ合格シタル者ノ試驗檢定ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ行フ

國語及漢文科

一國語又ハ漢文ノ免許狀ヲ有シ國語及漢文科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キテノミ本試驗ヲ行フ

一國語又ハ漢文ノ豫備試驗ニ合格シ國語及漢文科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ本試驗ヲ行フ

○歷史科

一日本史ノ免許狀ヲ有シ歷史日本史東洋史科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キ本試驗ヲ行フ

一日本史ノ免許狀ヲ有シ歷史科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ日本史東洋史ノ豫備試驗ヲ省キ西洋史ノ豫備試驗及免許狀ヲ有セサル部分ニ就キ本試驗ヲ行フ

一萬國史ノ免許狀ヲ有シ歷史科若クハ歷史日本史東洋史ノ二部ノ證明書ヲ有シ歷史科若クハ歷史日本史東洋史科若クハ歷史西洋史科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ省キ直ニ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キ本試驗ヲ行フ

一日本史又ハ東洋史又ハ西洋史ノ一部若クハ二部ノ證明書ヲ有シ歷史科若クハ歷史日本史東洋史科若クハ歷史西洋史科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ證明書ヲ有セサル部分ニ就キテノミ本試驗ヲ行フ

一日本史又ハ萬國史又ハ歷史ノ豫備試驗ニ合格シ歷史科若クハ歷史日本史東洋史科若クハ歷史西洋史科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ本試驗ヲ行フ

史科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ本試驗ヲ行フ

○地　理　科

一地誌又ハ地文ノ免許狀ヲ有シ地理科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ本試驗ヲ行フ

ニ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キテノ本試驗ヲ行フ

一地誌又ハ地文ノ豫備試驗ニ合格シ地理科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ本試驗ヲ行フ

○物理及化學科

一物理又ハ化學ノ免許狀ヲ有シ若クハ其豫備試驗ニ合格シ物理及化學科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ免許狀ヲ有セサル部分若クハ未タ豫備試驗ニ合格セサル部分ニ就キテハ豫備試驗及本試驗ヲ行ヒ其他ノ部分ニ就キテハ直ニ本試驗ヲ行フ

○博　物　科

一動物又ハ生理ノ免許狀ヲ有シ動物及生理科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キテノミ本試驗ヲ行フ

一動物又ハ生理ノ豫備試驗ニ合格シ動物及生理科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ本試驗ヲ行フ

一動物又ハ生理又ハ動物生理又ハ植物又ハ鑛物ノ免許狀ヲ有シ博物科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キ豫備試驗及本試驗ヲ行フ、但シ動物又ハ生理ノ免許狀ヲ有スル者ニハ動物生理ノ豫備試驗ヲ省ク

一動物又ハ生理又ハ動物生理又ハ植物又ハ鑛物ノ豫備試驗ニ合格シ博物科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ未タ豫備試驗ニ合格セサル部分ニ就キテハ豫備試驗及本試驗ヲ行ヒ其他ノ部分ニ就キテハ直ニ本試驗ヲ行フ但シ動物又ハ生理ノ豫備試驗ニ合格シタル者ニハ動物生理ノ豫備試驗ヲ省ク

○圖　畫　科

一毛筆畫ノ免許狀又ハ證明書ヲ有シ毛筆畫用器畫科若クハ鉛筆畫ノ免許狀又ハ證明書ヲ有シ鉛筆畫用器畫科若クハ用器畫ヲ有シ毛筆畫用器畫又ハ鉛筆畫用器畫科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ免許狀又ハ證明書ヲ有セサル部分ニ就キテノミ本

試驗ヲ行フ

一毛筆畫ノ免許狀又ハ證明書ヲ有シ圖畫科ノ試驗檢定ヲ出願シタルモノニハ用器畫ノ豫備試驗ヲ省キ鉛筆畫ノ豫備試驗及鉛筆畫用器畫ノ本試驗ヲ行フ

一鉛筆畫ノ免許狀又ハ證明書ヲ有シ圖畫科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ用器畫ノ豫備試驗ヲ省キ毛筆畫ノ豫備試驗及毛筆畫用器畫ノ本試驗ヲ行フ

一用器畫ノ證明書ヲ有シ圖畫科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ省キ毛筆畫及鉛筆畫ノ本試驗ヲ行フ

一毛筆畫用器畫ノ免許狀ヲ有シ鉛筆畫用器畫科若クハ鉛筆畫用器畫ノ免許狀ヲ有シ毛筆畫用器畫科ノ試驗檢定ヲ出願シタルモノニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キ本試驗ヲ行フ

一毛筆畫ノ豫備試驗ニ合格シ毛筆畫用器畫科若クハ毛筆畫用器畫科若クハ毛筆畫用器畫ノ豫備試驗ニ合格シ鉛筆畫ノ豫備試驗ニ合格シ鉛筆畫用器畫科若クハ鉛筆畫用器畫ノ豫備試驗ニ合格シ圖畫科若クハ用器畫ノ豫備試驗ニ合格シ毛筆畫用器畫科又ハ鉛筆畫用器畫科又ハ圖畫科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ豫備試驗ヲ行ハス直ニ本試驗ヲ行フ

○家事及裁縫科

一家事又ハ裁縫ノ免許狀ヲ有シ家事及裁縫科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キ豫備試驗及本試驗ヲ行フ

一家事又ハ裁縫ノ豫備試驗ニ合格シ定事及裁縫科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ未タ豫備試驗ニ合格セサル部分ニ就キテハ豫備試驗及本試驗ヲ行ヒ其合格シタル部分ニ就キテハ直ニ本試驗ヲ行フ

○體操科

一普通體操又ハ兵式體操ノ免許狀ヲ有シ體操科ノ試驗檢定ヲ出願シタル者ニハ直ニ免許狀ヲ有セサル部分ニ就キテノミ本試驗ヲ行フ

明治三十四年五月

教員試驗檢定出願者注意

教員檢定委員會會長　理學博士　山川健次郎

目次

一修身倫理科	一頁
一教育科	九
一國語科	二十九
一漢文科	三十四
一歷史科	四十
東洋史	四十
西洋史	四十六
日本史	五十四
一地誌科	六十四
一地文科	七十八
一數學科	八十七
算術代數幾何	八十七

三角法
理論
應用
解折幾何
一測量科
一儀記科
一物理科
一化學科
一植物科
一動物科
一生理科
一鑛物科
一習字科

二百四
二百四
二百十四
二百十七
二百三十一
二百三十七
二百五十
二百五十九
二百六十七
二百七十三
二百八十三
二百九十一
二百九十八

一圖畫科
毛筆畫及用器畫
鉛筆畫及用器畫
一音樂科
一体操科
普通体操
兵式体操
一外國語
英語
獨語
佛語
一農業科
一商業科

二百一
二百八
二百十六
二百十六
二百二十二
二百二十四
二百二十四
二百三十一
二百三十四
二百三十九
二百五十一

一手工科
一家事科
一裁縫科

附錄

一教員免許令
一教員檢定委員會官制
一教員檢定ニ關スル規程
一教員學力試驗及免許狀授與手數料登記印紙ヲ以テ納付方
一教員學力試驗及免許狀授與手數料トシテ納ムル登記印紙貼付方
一檢定試驗施行ノ告示
一檢定豫備試驗日時割ノ告示
一檢定本試驗日時割ノ告示
一受驗者心得
一教員檢定試驗委員氏名幷其受持學科
一教員免許令等ニ關スル主務省ノ取扱上ノ要件
一明治卅二年檢定試驗問題

四
二百五十八
二百七十五
二百九十一

一
四
六
十七
十八
十九
二十三
三十
三十四
四十
四十四

教員檢定試驗問題答解

修身、倫理科（三時間）

一、良心ハ如何ナル心的作用ナリヤ

良心ハ複雜ナル心的作用ニシテ之ヲ分拆スレバ三ツノ要素ヲ含有ス(一)知的作用(二)情的作用(三)意的作用之ナリ吾人ハ先天的ニ善惡正邪ヲ判別スル能力アリ即チ彼ヲ善トシ正トシ彼ヲ惡トシ邪トスルハ之レ良心ノ知的作用ナリ既ニ知的作用ニ由リテ善惡正邪ヲ判別スル時ハ善ヲ爲セバ快樂ヲ感ジ惡ヲ爲セバ不快ヲ感ズルモノナリ即チ不善ヲ爲セバ後ニ悔悟シ良心ノ呵責スル所トナリ甚ダ不快ノ感ヲ起セドモ之ニ反シテ善ヲ行フ時ハ心中愉快ヲ感ズレ良心ノ情的作用ナリ既ニ知的作用ニテ善惡正邪ヲ判別シ情的作用ニヨリテ善ヲ爲セバ快樂ヲ感ジ惡ヲ爲セバ不快ヲ感ズルガ故ニ其ノ善タリ惡タルヲ知ル以上ハ良心ハ其働キヲ始メ人ニ善行ヲ勸メ惡行ヲ避ケシム即チ吾人ニ善ヲ爲シ惡ヲ止ムル命令的衝動ヲナス之レ良心ニ意的作用アル所以ナリ

良心ハ右ノ如ク知情意ノ三要素ヲ含有スルモノニシテ單ニ知的作用ニノミ歸シマタ情的作用意的作用ノ一ニノミ歸スルコト能ハズ故ニ良心ハ以上ノ三要素ヲ含有スル心ノ現象ト見テ可ナリ善惡正邪ヲ誤リナク判別スル一種ノ靈妙ナル能力ト考フルハ非ナリ然リ而シテ良心ハ先天的ノ如ク見ユレドモ蓋シ祖先以來ノ永キ經驗ニヨリテ起リタルモノナリ然レドモソノ經驗タルヤ偶然ニ起リタルニアラズシテ精神ニ固有ナル性質ニ基キテ起リタルモノニテ先天的要素ト實驗的要素トヲ包含スル而シテ良心ノ作用ヲ約言セハ正規ニ戻レル個人的意志衝動ヲ防遏スルニ在リ

二、倫理上ニ於ケル至善(Summum Bounum)ノ意義ヲ説明セヨ

至善トハ倫理上行爲ノ目的標準トナルベキモノニテ換言スレバ倫理上吾人ノ究竟ノ目的ナリ而シテ此ノ目的タル吾人ノ理想ニ外ナラザレドモソノ理想タルヤ固ヨリ人間界ニ於テ實行セラルベキモノタラザルベカラズ通常善ト稱スル所ノモノハ時代ノ異ルニヨリ或ハ人種ノ異ルニヨリテ一定セズ古代ニアリテ善ト認メシモノ今ハ惡トナスコトアリ甲國ニ於テ善トスル所ノモノモ乙國ニ於テハ惡ト定ムルアリ然レドモ倫理學ニ於テイフ所ノ至善ハサルモノニアラズ絶對的價値ヲ有スルモノナリスベテノ行爲ヲシテソノ善ノ善タル所以ノ根據アラシムルモノナリ即チ至善ニ合スルモノハ善之ニ反スルモノハ惡ナリ前述ノ如ク至善ハ理想的ノモノナルガ故ニ社界ノ進歩人智ノ發達スルニ從テ自カラ發達進歩スルモノナルモ要スルニ吾人ノ天賦ノ基礎タル生活機能ヲ正規ニ營ムニアリト云フコトヲ得ベシ

三、中庸ニ所謂「莫レ見ニ乎隱一莫レ顯ニ乎微ニ」ノ意如何

此ノ一句ハ中庸ニ子思ガ君子愼獨ノ工夫ヲ述ベタルモノニテ洵ニ服膺スベキ言ナリ凡ソ顯ニ注意シテ隱ニ注意セズ微ニ忽ニシテ大ヲ愼ムハ世ノ常ナリ然ルニ君子修德ノ工夫ハ然ラズ隱微ヲ戒メテ道ヲ修メ以テ誠ノ域ニ達スルモノナリ中庸ニイフガ如ク道ハ人タルモノヽ須臾モ離ルベカラザルモノナリ若シ離ルヽモ差支ナキモノナラバコレ道ニアラズ故ニ君子ハソノ睹ザル所ヲ戒愼シソノ聞カザル所ヲ恐懼シ暫クモ道ヲ行フ心ヲ忘レヌナリ君子ガカク愼ミ畏ルヽ所以ノ理ハ凡ソ天下ノコト如何ニ隱レタル事ニテモ見ハレザルハナク微少ナルコトヨリ顯著ナルハナシ故ニ君子ハ獨ヲ愼ムナリモト君子ハ道ノ体用ニ

達セントスルガ故ニ一念邪ナレバ既ニ道ニソムキ一念善ナレバ道ニ合ス人ノ見ルト見ザルトヲ問ハズ一意道ヲ守ル故ニ獨ヲ愼ムトハイフナリ而シテ獨ヲ愼ムトハ即チ誠ヲ云フナリ

四、三輪執齋ノ學說ノ要点ヲ叙述セヨ

執齋ハ德川時代著名ノ陽明學者ナリ其ノ主トスル所ハ文藝ヲ後ニシテ實踐窮行ヲ先ニシ專ラ道義ヲ明ニシ心術ヲ窮ムルニアリ其今學說ノ要点ヲ左ニ說明セン

(一)心之本體　執齋ハ心ノ本體ヲ說キテ細カニ善惡ノ起源ヲ論ジタリソノ說ノ主眼トスル所ハ四言敎ノ第一句無善無惡心之體ニアリ即チ心ノ本體ハ善モナク惡モナク之ヲ例セバ明鏡ノ如シ善惡ノ二途アルハ動キ出ヅル時ノ事ナリ動クハ氣ニ因ルガ故ナリソノ動カザル時ハ明鏡ノ如シ此ノ明鏡即チ人ノ人タル本體ナリ心ノ體ハ人心ニ宿ル天神ナリ此ノ光明ハ人ノ意念ニ亘ラズ自然ニ是非ヲ照スナリ之ヲ良知トイフ耳ニ五音ナキハ耳ノ本體ナリ五音ナキガ故ニ能ク五音ヲ分チテ違フコトナシ口ニ味ナキハ口ノ本體ナリ故ニ能ク五味ヲ分チテ誤ラズ若シ一味口ニ存スレバ五味トモニ違フ故ニ五味ナキヲ口ノ至善トス

心ニ善惡ナキハ心ノ本體ナリ心ニ善惡ナシ故ニ能ク善惡ヲ辨ヘテ誤ルコトナシ若シコレアル時ハ善惡共ニ違フ故ニ善惡ナキヲ心ノ至善トスコレ執齋ガ心ノ本體ヲ說キシ大要ナリ此ノ說固ヨリ四言敎ノ講義ニ過ギザレドモ自カラ一家ノ特色アリテ彼ノ說トナスベキモノアリ

(二)意之動　執齋又四言敎ノ有善有惡意之動ヲ說キテ曰ク人心元來至善ニシテ無善無惡ト雖血氣ノ生々時トシテ止ル事ナケレバ必ズ動カズトイフコトナシソノ動クヲ意トイフソノ動ク所千緒萬端是ヲ物トイフ皆意ノアル所ナリ意ノアル所カク千緒萬端トイヘドモツマル所善惡ノ二途ニ漏ルヽ事ナシト約言スレバ心ノ本體ハ無善無惡ノモノナレド決シテ寂然不動ナルモノニアラズソノ活動スルニヨリテ千緒萬端ノ事トナル而シテソノ事或ハ善或ハ惡トナリ玆ニ善惡ヲ生ズルナリ

(三)良知　吾人ハ何ニヨリテ善惡正邪ヲ知ルカ執齋ハ之ヲ良知ニヨルトナス其說ハ彼ガ四言敎ノ知善知惡是良知ノ句ヲ解釋シタル所ニ於テ知ルコトヲ得ベシ執齋曰ク良知ハ本體ノマヽニシテ人爲ニワタラザルモノナリ孺子ノ井ニ入ルヲ見テ怵惕惻隱スルハ人爲ニ

亘ラズ天命ノ性ヨリ直チニ發出スルモノナリ是ヲ良知トイフ又曰ク此ノ所謂心之體ハ即チ人心ニ宿リマシマス天神ナリ此光明ハ人ノ意念ニ亘ラズ自然ニ是非ヲ照ラス是ヲ良知トイフト又曰ク惡念起ルト雖本體ノ良知ハ未ダ嘗テ亡ビズ此ノ故ニ善惡ヲ知ラズトイフ事ナシ良トハコシラヘタルコトナク直ニスラスラト出ルコトナリソノ思ヒ計ラザレドモ自然ニ知ルモノヲ良知トイフト又曰ク其害アルニ至テハ良知ニ照シテ恥シキナレド如何トモスベカラザレバ俄ニ驚テ其不善ヲ揜フテ其害ヲ顯ハサントスト以上ノ言ヲ以テ艮齋ノ所謂良知トハ如何ナルモノナルカヲ知ルヲ得ベシ要スルニ艮齋ハ良心ト良知トヲ異名ニシテ同體トナシタルモノ也

(四)格物　艮齋ハ又格物ヲ論ジタレドコレマタ四言教ノ爲善去惡是格物ノ主意ヲ敷衍シタルニ過ギズソノ要ハ意ノアル所ヲ物トイフ天下ノ事々物々ハ皆此ノ意ニ在リソノ意ノ善ヲナシ其意ノ惡ヲ去ルト格レ物トイフニアリ

以上述ベ來リシ所ハ艮齋ガ四言教ヲ解釋シタル說ナレドモ自カラ一家ノ特色ヲ有シ彼ガ一箇ノ說ト爲スベキモノアレバソノ要點ヲ記シテ彼ガ學說ノ大要トス

五、賢哲ノ嘉言善行ヲ倫理ノ講話ニ引用スベキ機會及ビ其方法ヲ論ゼヨ

賢哲ノ嘉言善行ハ人ヲシテ奮勵蹶起セシムル大感化力ヲ有スルモノナルガ故ニ倫理ノ講話ニ於テハ最モ必要ナルモノナリ然レドモ之ヲ用フルニハ能ク生徒ノ年齡知情意ノ發達ニ適合スル樣注意セザルベカラズ然ラザレバ嘉言善行ヲ引用シタル効ナク講話ヲシテ徒ラニ繁雜ナラシムルノミ故ニ之ヲ引用スルニハ敎師ハ充分ニ生徒ノ年級ニ注意セザルベカラズソノ年級ノ異ルニヨリテ講話ニ多少ノ差異アレド今茲ニハ一般ニ嘉言善行ヲ引用スベキ機會ト方法ヲ論ズベシ

(甲)其機會

(一)嘉言善行ガ講話ノ主旨ニ勢力ヲ與ヘ又其主旨ヲ明瞭ナラシムル時　倫理講話ハ單ニ知力的ノミニアラズ感情的ニ善ヲ勸メ惡ヲ禁ズル必要アリ故ニ講話ヲナス場合ニモ賢哲ノ嘉言善行ヲ引用シテ具体的ニ善行ヲ說明スル時ハ大ニ生徒ノ感情ヲ惹起スルモノナリ故ニ講話ノ際能ク其機會ヲ見テ嘉言善行ヲ引用スル時ハ講話ノ主旨ニ勢力ヲ與ヘテ大ニ益アルベシ又講話ノ際古人ノ言行ヲ引用シテ我ガ講話ト對比シテ說明スル時ハ生徒ヲシ

テ一層明白ナル知識ヲ得シムルコトヲ得ベシ

(二)嘉言善行ガ講話ノ事件ニ適切ナル時　嘉言善行ヲ講話ニ引用スルハ固ヨリ講話ノ主旨ニ適切ナラザルベカラザルハ明ナリ去レド偶然ノ出來事例ヘバ生徒ノ過失等ニ就キテ之ガ講話ヲナスニハソノ過失ニ關スル格言善行ヲ引用スルハ大ニ効アルモノトス

(三)講話ヲ始ムル時又ハ之ヲ概括スル時　長時間ノ講話ヲナシタル場合ニハ必ズ之ヲ概括シテ說明シ生徒ヲシテ記憶ニ便ナラシムベシ此ノ場合ニ賢哲ノ格言ヲ引用シテ講話ノ主旨ヲモ明ニシ且之ガ記憶ヲ易カラシムベシ講話ノ場合ニヨリテ格言ヲ始メニ引用スルノ便ナルコトモアルベシ

(乙)其方法

講話ノ綜繹的ナルト歸納的ナルトニヨリテソノ方法ニ多少ノ差異アリ綜繹的ナラントセバ賢哲ノ嘉言善行ヲ先ニシテ之カ道理ヲ後ニ說明スベシ歸納的ナラントセバ多クノ事實ヲ先ニシテ終結ニ嘉言ヲ引用スベシコレハ生徒ノ年齡學力ニ應ジテ何レニモ撰擇アルベシ而シテ賢哲ノ嘉言善行ヲ引用スル場合ニハソノ人物ニ關係アルモノ例ヘハ畫像遺物筆蹟等ヲ示シ豫メ生徒ノ已知觀念ヲ喚起シ置クコト必要ナリ賢哲ノ言行ニツキテハ單ニ一ノ說明的敎授ニ止マラズ充分ニ之ガ實行ヲ促サザルベカラズ

敎育科

一、美感發達ノ次第及其道德トノ關係如何

美ヲ覺スルハ知覺ノ一樣式ナリ即チ物ノ性質トシテ美ヲ覺スルナリ而シテ美感ハ快感ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ尤モ快感ハ美感ノ元質ヲ含有セリ故ニ美感ヲ論センニハ勢ヒ快苦ノ理ヲ論セサルヘカラス

抑人間ノ自保ナルモノハ其實際ニ於テハ正順ノ狀態ニ在リテハ生存ヲ保益スルモノハ快感之ニ伴ヒ否ラサルモノハ不快感之ニ伴フ故ニ人間ハ快感ヲ得レハ自然ニ生存ヲナスコトヲ得ルモノナレハ自保ハ即チ目的ニシテ其目的ニ適合スル所置ヲ取ラントスルモノハ是レ快感ナリトス若夫レ生理上ヨリ之ヲ見レハ快ハ身体ノ構成的歷程ニシテ不快ハ身体

ノ破壊的歷程ナリ而シテ快感不快感ノ生スルハ外界ノ刺激ト感官ノ受應ノ關係トニ依ルモノナリ今感覺ヲ區別センニ劣等感覺及高等感覺ノ二種トナスコトヲ得ヘシ劣等感覺トハ味覺嗅覺觸覺ニシテ高等感覺トハ聽覺及視覺ナリトス而シテ此視聽ニ於ケル快感ヲ以テ原本的ノ美感トナス原本的美感ハ即チ生理的快感ニシテ人間カ其自保ニ利アルカタメニ之ヲ得ツヽアルナリ此ノ如ク原本的美感ハ生理的ニ基因スルモノナレハ其美感ヲ研究センニハ勢ヒ生理的ノ研究ヲ要スヘキモ茲ニハ先ツ視聽ニ於ケル快感カ原本的ノ美感タルコトヲ示スニ止メ以下其發達ニ論及セントス

快苦感覺ノ刺激ハ內界ヨリ發スルモノナキニアラサレトモ主トシテ外界ヨリ來ルモノナリ故ニ外界ヲ識別スルノ作用アルヲ要ス此ノ識別ノ作用ハ即チ知覺ニシテ知覺ハ感覺ヨリ來リ感覺ハ主トシテ外界ヨリ來ル然ルニ外界ノ現象ハ甚タ複雜ナルモノナルニ感覺ハ唯外界ノ刺激ヲ直接ニ感受スルニ過キス.シテ甚タ簡單ナル心的作用ナレハ其外界ニ於ケル相似ノ点ヲ分類シ之ヲ自己ノ經驗ヨリ得タル所ノ一定ノ形式ニ容ルヽノ知的作用即チ識別ヲ要スルナリ此ノ識別ノ心力ヲ知覺ト云フ知覺ハ外界ヲ形式中ニ把握スルノ快感ナリ此快感ニシテ視聽ノ感官ニ關係アルモノヲ形式的美感ト云フ而シテ外界ヲ形式中ニ把握センコトヲ要ス此ノ意志活動ハ美感ノ主要ナル素質ナレハ其消長ハ美感ノ發達ニ關係ヲ有スルナリ

形式的美感ハ之ヲ分チテ視覺的形式美感及聽覺的形式美感ノ二種トナス前者ハ即チ色及形ニシテ色ハ外界ニ於ケル光線ノ作用ニ依リテ感覺ヲ生シ生理的快感トナル此ノ如ク外界ヨリ來ル所ノ感覺ノ經驗ガ發達スレハ色ニ於ケル外界判別ノ要因トナルナリ形ニ於テモ亦然リ後者ハ即チ聲音ニシテ外界ニ於ケル空氣ノ作用ニ依リテ感覺ヲ生シ生理的快感トナルナリ其發達ニ於ケルハ前者ト異ナラス

形式的美感ハ一定ノ形式中ニ外物ノ適應シ來ルヲ樂シムノ快感ナルガ人間ノ情操ガ發達シテ高尙トナルニ從ヒ是等形式的ノ快感ヲ減シ更ニ形式ヲ離レタル即チ複雜ニシテ把握シ得サルカ如キモノヲ樂シムニ至ルヿヲ遊離的美感ト云フ故ニ人間ハ意志活動ノ發達ニ從ヒテ形式的美感ヨリ遊離的美感ヲ發生スルニ至ル

以上ニ於テ述フルカ如ク美感ハ主トシテ外界ヨリ來ルモノナレハ美感ノ發生ニハ外界ニ

之ヲ促スニ足ルモノ存在スルヲ要ス故ニ幼稚ナル者ニ對シテハ其精神ニ充タスニ清麗ニシテ且正實ナル形象ヲ以テシ之カ美感ヲ起サシムルヲ肝要トス視覺ニ依ル所ノ美ハ色及形ニシテ物ノ外面ニ表ハル、所ノ美ナレハ若シ外面ニシテ汚穢ナランカ先ツ眼ハ美感ヲ生スルコトナシ是ヲ以テ小兒ニ對シテハ其初生ノ期ヨリ務メテ周圍ニ於ケル諸物及身体ヲ清潔ニシ小兒ノ性質ヲシテ深ク汚穢ヲ嫌ヒ清麗ヲ愛スルコトニ馴致セシムルハ敎育上ノ一大要事ナリトス蓋シ諸物及身体ノ不潔ナルハ一時眼ニ觸レテ不快ノ感ヲ生セシムルノミナラス想像ノ發生及道德ノ進歩上障害アルコトハ著明ナル事實ナリ而シテ聽感ニ依ル所ノ美ハ音樂或ハ談話ノ形ニ於テ來ルモノニシテ是等ノ美感ハ情操ヲシテ優麗ノ域ニ進マシムルモノナリト雖モ若シ其聲音ニシテ美感ヲ起サシメス却テ鄙猥ノモノタラハ小兒ノ心ヲ損害シ徒ラニ劣等ナル体慾上ノ快樂ヲ想像スルノ念ヲ生セシメ高尚優美ナル理想界ニ其心ヲ存在セシムルコト能ハサルモノナリ故ニ小兒ノ美感ヲ發生セシムルニハ美麗ナル物及整然タル秩序ヲ保タサルヘカラス是等ノ手段ニ依リテ始メテ高尚ナル美感及道德的ノ情操ヲ養成シ得ルモノナリ然ラハ則チ美感ハ道德的ノ情操ヲ養成スル先驅ナレハ敎育上最留意スヘキノコトナリトス

二、ヘルバルト＝チルラー學派ノ敎授統一ノ理論及方法ヲ述ヘ且其可否ヲ論セヨ

敎材ノ連結ハ理會ヲ確實ニシ且其進歩ヲ促スコト大ナリ蓋シ學ヒタル所ノ智識ニ連結ヲ得シメサレハ之ヲ應用セシムルコト能ハサレハナリ然トモ連結ハ或點マテハ爲シ得レトモ全ク爲シ得サルコトアレハ强チ之カ連結ヲ爲サントスルハ却テ弊害ヲ生スルモノナリ然ルニヘルバルト派ノ敎育家ハ敎授ノ統一ナルコトニ重キヲ置キ統一ニ依リテ敎授上ノ智識ハ或一点ニ集合スルモノナリト考ヘテ專ラ其集合ノ必要ナルヲ說ケリ此派ノ敎育家ハ其統一スヘキモノヲ目的トナルモノニシテ敎育ノ目的ト敎授ノ目的トハ同一ナレハ如何ナル學科モ品性陶冶ニ引付ケサルヘカラストセリ然ルニ其後チルラーニ至リテ敎授ノ統一ヲ計ルニハ其中心トナル學科ヲ立ツヘキコトヲ唱道セリ所謂開化史的階段法是ナリ開化史的階段法トハ人類發達ノ初期即幼稚トハ相同シクシテ人類カ古代ノ蒙昧時代ヨリ今日ノ時代ニ進ミタル狀ハ一個人カ其幼稚期ヨリ成人ニ至ルト相符合スルトノ假定ニ基キ兒童ノ心狀ニ最能ク適合スルモノハ古代ノ事柄ニシテ其成長スルニ

從ヒ漸次進歩セル時代ノ事柄ニ興味ヲ有スルニ至ルモノナリトシ歴史的階段法ヲ貴ビ宗教史ヲ設ケテ學科ノ中心トナシ其統一ヲ計レリ蓋シ宗教ハ人ノ心情ニ關スルモノナレハ品性陶冶ノ中心トナルヘキモノト考ヘシナラン依テ第一學年ニハ童話第二學年ニハロビンソンクルーソーノ傳第三學年ニハイスレールノ族長時代ヲ授ケ斯ノ如ク次第ニ開化史ノ階段ヲ追ヒ第八學年ニ宗教改革ノ歴史ヲ授クルコトヽセリ是即チ此派ノ所謂統一教授ノ材料トナルモノナリ然ニ此法ニ從フトキハ一學年毎ニ其授クル材料ハ一ノ全体ヲナセルモノトナルカ故ニ現今廣ク行ハルヽ所ノ各種ノ學科ヲ各學年ニ授ケ其中或部分ハ初メニ授ケ或部分ハ後ニ授クル所謂環狀教授トハ大ニ相反スルモノナリ

且開化史的階段ニ從テ撰擇セル教材ノ第一學年ニ於ケル童話ヲ中心トシ讀方ヲ始ムルカ如キハ其連結ヲナシ得ヘキモ學科ノ種類ニ依リテハ連結セシムルニ甚不適當ナルモノアレハ後ニ至リテ其方法ヲ代ヘタリ例ヘハ童話ニ於テ狐ノ話ヲナスニ當リ狐カ二疋ナルトキハ其二ノ數ヲ捉ヘ之ヲ算術ニ應用シ又ロビンソンクルソーノ話ヲナスニ當リ海ヲ渡ルニハ船ヲ要スト云ヘハ其船ニツキテ示教スルカ如シ是最初ヨリハ其方法改良セリト雖モ不適當ナルコト甚多シ前例ニ依リテ之ヲ示サンニ狐ノ話ニ於テ算術ヲ授クルモ算術ニハ算術ノ順序方法アレハ徒ラニ横ニ連結セシメントシテ算術ノ本分ナル縦ノ順序ヲ紊亂スルカ如キコトアリ

加之教育ノ目的ト教授ノ目的トハ品性陶冶ノミニテハ甚狹シ即其目的ハ現在ノ文明社會ニ適當シタル人物ヲ造ルニ在レハ倫理的ナラサルヘカラス故ニ善良ナル意志ハ必要ナルモ善ヲ爲シ惡ヲ避クルノ知識モ必要ナリ圓滿ナル情操ヲ養フニハ吾人ハ種々ナル範圍ヨリ集メタル知識ヲ善良ナル意志ニ依リテ働カシムルコトヽナルナリ然ルニ其知識ヲ得ル材料ハ各特別ナル品性陶冶ノ上ニ價値アル肝要ノモノナルニ之ヲ他ノ學科ノ附隨トスルハ不都合ナリ

又ヘルバルト派カ嚴密ナル統一ヲナスハ心理學ニ基キタリヘルバルトノ心理學ハ觀念ヲ本トナシ情モ意モ觀念ヨリ出ツルモノトナセリヘルバルトノ心理學ニ依レハ嚴密ナル統一ヲ爲シ得ヘキモ近來ノ心理學ハ觀念ヲ本トスル能ハサレハ學科ノ上ヨリモ嚴密ナル統一ナキモノト云ハサルヘカラス然トモ統一ハ亦爲シ得ルモノナリ即チ教育者ノ爲人、學

校ノ風、教授ノ精神、教授ノ連結等ハ統一ヲ助クルノ手段トナルモノナリ教師ノ爲人カ
兒童ノ氣質ヲ感化シ學校ノ風ハ訓練ヲ助クルカ如シ英國カ獨國ヨリモ統一ノ點勝レルハ
訓練ノ精神アレハナリ又ヘルバルト派ハ觀念ヲ本トスルカ故ニ智ノ一方ニノミ傾キテ統
一ヲ計リ智識ヲ與フルニノミ重キヲ置キタルハ欠點ナリ人ハ知ルコトノミヲ以テ足レリ
トセス之ヲ行ハサルヘカラス故ニ行ノ上ニモ亦統一ヲ計ラサルヘカラサルナリ
以上ノ所說ヲ約言セハ左ノ如クナルヘシ
第一　開化史的階段法ハ教授ノ統一ヲ爲スニ足ラス
第二　學科ノ上ヨリハ嚴密ナル統一ヲ爲スハ無効ナルノミナラス弊害アリ（橫ノ連結
ノタメニ縱ノ連結ヲ破ル）
第三　嚴密ナル統一ハ各學科內部ノ連結ヲ破ルモノナリ
第四　統一ハ智ニ依ルヘキノミニアラス行ノ上ニモ必要ナリ

三、男女共同教育ノ利害ヲ論セヨ

教育ハ大ニ人ノ天才ニ注意セサルヘカラス即チ人ハ各自然ノ特性アリテ其天才相同シカ

ラサルモノナレハ之ニ依リテ教育上ニ特別ナル方針ヲ立テサルヘカラサルカ如シ男女ノ
上ニ於テモ特別ナル教育ヲ施スヘキハ當然ノコトタリ蓋シ男子ト女子トハ其性質風習ヨ
リ處世ノ業務ニ至ルマテ相同シカラサレハナリ
然ルニミルノ如キハ男女ノ間ニ區別アルモノニアラス女子ハ男子ヨリ智識ノ點ニ於テ劣
レルハ教育ノ罪ナリ又業務ノ少キハ男子カ專橫ナルノ罪ナリ是レ男子ハ女子ヨリ腕力強
キカ故ニ其業務ノ如キモ男子ハ自己ノ好ムモノハ悉ク之ヲ專領シ女子ニハ其好マサルモ
ノヲ與ヘタルカタメニ女子ハ自然ニ業務ノ範圍狹ク隨テ智識ノ點ニ於テモ劣レルニ至リ
シモノナレハ之ヲ以テ男女ヲ區別スルハ野蠻ナリトマテ極論セシカ女子ニモ今日許シテ
アルヨリ多クノ業務ヲ與フルコトハ素ヨリ必要ナルヘキモ悉ク男子ト同一ナラシムルニ
至リテハ無稽モ亦甚シト云ハサルヘカラス極論者モ女子ハ男子ト身體ニ相異アルコトヲ
認メタリ身體ニシテ相異アランカ精神ニモ亦相異ナカルヘカラス既ニ身體及精神ニ相異
アランカ其業務ヲ區別セサルヘカラス然ラハ則チ教育ニ於テモ之ヲ區別セサルヘカラサ
ルハ當然ノコトタリ中等以上ノ教育ニ至リテハ殊ニ然リトス

男女相異ノ點ニツキ之ヲ再言セン ニ男子ト女子トハ身體ノ構造ニ於テ強弱ノ差アリ心意ノ發育及運用ニ異ナル所アリ即チ男子ハ推理力判斷力ニ長シ女子ハ知覺力注意力ニ長シ又男子ハ智ニ富ミ女子ハ情ニ富ム而シテ其業務ハ男子ニ適スルモノアリ女子ニ適スルモノアレハ各其適スル所ヲ擇ハサルヘカラス即チ女子ハ家ヲ守リ子女ヲ敎育シ夫タルモノヲシテ家事ノ煩累ニ顧慮ノ憂ナカラシメ男子ハ社會ニ立テ事ヲ爲シ名譽ト富トヲ得ルニ在レハ其業務ノ異ナルト天才ノ異ナルトニ依リ敎育ノ材料及方法ヲ異ニセサルヘカラス若シ夫レ男女ヲ混同シ之ヲ敎育スルトキハ其性質ヲ害シ風習ヲ破リ處世ノ方途ヲ誤リ啻ニ敎育ノ目的ヲ達スル能ハサルノミナラス其極一家ノ秩序ヲ紊亂シ國家ノ基礎ヲ危殆ナラシムルニ至ラン彼ノ米國ニ行ハルヽ男女混同敎育法ノ如キハ其理ニ反スルノミナラス男子ト女子トノ懸隔甚シキ我國ニ在リテハ全然適合セサルモノト斷言セサルヲ得ス故ニ女子ハ賢母良妻タルニ適シ男子ハ亦男子タルニ適シタル敎育ヲ施シ以テ各其天職ヲ全フセシメンコトヲ要ス

四、 尋常小學校必須敎科ノ價値ヲ述ヘヨ

明治二十三年ノ小學校令ニハ尋常小學校ノ敎科目ハ修身讀書作文習字算術体操トスト雖モ体操ハ土地ノ情況ニ依リ缺クコトヲ得シヲ以テ必須科ニアラサレハ之ヲ除クノ外ノ五科目ニツキ其價値ヲ述ヘン但シ本試驗ハ明治三十二年ニシテ小學校令改正(三十三年)前ニ係リシヲ以テ二十三年ノ小學校令及二十四年ノ敎則大綱ニ依レリ

修身、、修身ノ要旨ハ兒童ノ良心ヲ啓培シテ其德性ヲ涵養シ人道實踐ノ方法ヲ授クルニ在レハ自己及他人ニ對スルノ道德ハ勿論尊王愛國ノ志氣ノ發生ヨリ國家及社會ニ對スルノ責務ヲ知ラシメ風俗品位ヲシテ純正ナラシムル等ハ本科ノ功果ナリトス故ニ本科ハ個人及國民トシテノ性格ヲ與フルノ價値アリ

讀書及作文、、讀書及作文ノ要旨ハ普通ノ言語幷日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智德ヲ啓發スルニ在レハ一定ノ形式ニ於テ自己ノ思想ヲ發表シ即チ文字ヲ以テ之ヲ書キ顯ハシ又ハ他人ノ書キタル文字ヲ見テ其思想ヲ知リ且言語ヲ自在ナラシムル等ハ本科ノ功果ナリトス故ニ讀書及作文ハ個人及國民トシテ智識技能ヲ與フルノ價値アリ

習字、習字ノ要旨ハ文字ヲ書キ方ヲ知ラシメ運筆ニ習熟セシムルニ在レハ讀書及作文ト相待テ其功果ヲ同フスルモノナレハ其價値モ亦同シ

算術、算術ノ要旨ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思想ヲ精確ナラシムルニ在レハ日常ノ賣買貸借又ハ容積重量等ニ關スル事項及計算ヲ知ラシムル等ハ本科ノ功果ナリトス故ニ亦個人及國民トシテノ知識技能ヲ與フルノ價値アリ

五、寄宿舍ノ利害ヲ論シ併セテ之ヲシテ有効ナラシムル方法ニ及ベ

寄宿舍ハ訓育ノ目的ヲ達センカタメニ設ケラレタル場所ナリ然レトモ實際ニ於テ其利益ト弊害トハ何レカ多キヤヲ疑ハサルヲ得サルカ如キ有樣ナリ先ツ其弊害ト認ムヘキ点及其弊害ノ生スル原由ヨリ之ヲ論セン

寄宿舍ニ於テ發生スル所ノ弊害ト惡風習トヲ擧クレハ粗暴、高慢、不從順、不注意及他ヲ惡評スルコト等ニシテ遂ニハ着實ナル思想ヲ失シ社會ニ危險ヲ與フルノ一分子トナルナキヲ保セス果シテ然ラハ寄宿舍ノ弊害モ亦大ナリト云ハサルヲ得ス抑寄宿舍ハ愛ヲ以テ滿タサレタル家庭ノ空氣中ニ生棲セシ少年カ稍生長シテ青年トナリ高等ノ學校ニ入學スルニ際シテ用ヒラルヽモノナレハ溫暖ナル空氣中ヨリ俄ニ冷却スル空氣中ニ移サルヽヲ以テ其健康否資性ヲ害スル實ニ鮮少ニアラサルナリ即チ寄宿舍ハ他人ナル青年者ノ集合所ナレハ上ハ父母兄姉ニ對シ下ハ弟妹ニ對スル關係ナク常ニ愛情ノ連鎖ナキヲ以テ自ラ粗暴高慢不從順等ノ弊習ヲ發生スルノ止ムヲ得サル境遇ト云ハサルヘカラス素ヨリ寄宿舍ニ於テハ舍則ヲ設ケ且舍監アリテ常ニ監督ノ任ニ當リ又時々敎師ノ訓戒スルアリテ其弊習ヲ防クノミナラス之ヲ善良ノ域ニ導カンコトヲ怠ラスト雖モ冷酷ナル舍則ト權力ニ訴フル舍監ノ命令トハ未タ以テ生徒ヲ心服セシメ之ヲ匡正スルニ足ラサルナリ加之寄宿舍ハ同年ナル多人數ノ集合所ナルカ故ニ惡弊一タヒ起ルトキハ忽チ全生徒ニ及ホシ容易ニ之ヲ救正スル能ハス甚シキニ至リテハ全生徒ノ放校トナリ敎員ノ轉免トナリ學校ヲ閉鎖セシメタルノ例少ナシトセス寄宿舍ノ弊害豈恐レサルヲ得ンヤ

然ラハ斷然之ヲ廢サヽルヲ得サルカ如キモ亦存立セサルヘカラサルノ必要アリ是レ敎育ヲ受ケンカタメニ遠ク家庭ヲ離レサルヲ得サルト家庭ノ不完全ナルト家庭ヲ有セサルトノ三者アレハナリ且寄宿舍ハ生徒ニ利益ヲ與フルノ點ニ於ケモ亦少ナカラサルナリ今其

利益ノ點ニ就テ之ヲ言ハンニ寄宿舍ニ於テハ常ニ舍監ノ監督ノ下ニ在ルカ故ニ不完全ナル家庭ニ在ランヨリハ感化ヲ受ケ又ハ規律ヲ守リ整頓ヲ貴ブノ風習ヲ養フ上ニ於テ利益アリ又惡習ニノミ感染スルモノニアラサレハ相互ノ長所良風ヲ交換スルノ利益アリ又共働ノ習慣ト公共ノ精神トヲ養フノ利益アリ

以上述フルカ如ク寄宿舍ニハ一利一害アレハ存廢何レニ歸セシムヘキヤ更ニ考究ヲ要スルカ如シト雖モ存立ノ必要アルコトハ亦既ニ述フルカ如クナレハ其弊害ヲ芟除シ務メテ之ヲ有効ナラシムルノ方法ヲ講セサルヘカラス其方法果シテ如何是レ寄宿舍ヲシテ家庭的ナラシムルノ一途アルノミ現今ノ寄宿舍ノ如ク嚴酷ナル舍則ヲ設ケ寄宿生ヲシテ兵役者ト同視シ甚シキニ至リテハ之ヲ囚徒視スルアリ是豈敎育ノ方法ナランヤ我國ノ敎育カ所謂寺子屋タリシ時代ニ在リテハ敎師ハ自家ニ門弟ヲ寄宿セシメ恰モ家庭ニ在リシト同一ノ取扱ヲナシ即チ敎師ハ嚴父タリ其妻女ハ慈母タリ門弟ハ長幼ニ依リテ兄弟ノ關係ヲ保タシメタルカ如シ故ニ學生ハ家庭ヨリ他家ニ移ルモ家庭ノ精神ヲ失ハサルノミナラス師家ノ感化ニ依リ益其精神ヲ發達スルニ至レリ然ルニ近來此良法ヲ廢シ家庭ナク所謂一ノ集會所タルカ如キ寄宿舍ノ制ニ依ルコトヽナリシハ誠ニ嘆スヘキノコトタリ英國ノ如キハ今尚我國寺小屋時代ノ風ヲ存シ敎師ノ自宅ニ十名位ツヽノ學生ヲ割當テヽ寄宿セシムルカ故ニ敎師ハ家庭ノ一人トナリテ子弟ヲ訓育セハ學生ハ家庭ニ得タル精神ヲ後マテモ保チ得ルコトヽナレリ蓋シ寄宿舍ヲシテ家庭的ナラシムルトハ學生ヲシテ家庭ノ精神ヲ失ハシメサルノ云ヒニシテ又寺小屋時代ノ敎育トハ初等敎育ノミナラス此時代ニ於ケル總テノ敎育ヲ指シタルモノナリ而シテ家庭的トハ長屋ナラハ之ヲ數軒ニ分割シ一棟ノ家ナラハ小ナルモノヲ幾軒ヲモ建築シ之ニ普通ノ家屋ノ如キ間取ヲナシ又家具ヲ備ヘ成ルヘク各戸ニ少數ノ學生ヲ住マシメ成ルヘク一戸毎ニ德望アル敎師ヲ舍監トシテ監督ノ任ニ當ラシメ學生ヲシテ舍内ノ經營ヲナサシメ宛然家庭ニ於ケルカ如キ境遇ニ在ラシメハ庶幾クハ現今ニ於ケル寄宿舍ノ弊害ヲ除去スルコトヲ得ン

然ルニ寄宿舍ヲ小ニシテ棟數ヲ增シ舍監ヲ多クスルカ如キハ要スルニ家庭ノ精神ヲ失ハスシテ益之ヲ善良强健ナラシメンカ爲ナレハ此目的ニシテ達スルヲ得ハ寄宿舍棟數ノ多寡及舍監ノ數ノ如キ何ソ關センヤ且此事タル容易ニ實行ヲ望ムヘキニアラサレハ先ツ現

今ノ如キ大ナル寄宿舍ニ於テスルノ方法ヲ考ヘサルヘカラス是ニ於テカ團体トシテ取扱フノ方法ナキヲ得サレハ兵式的ノ方法ヲ參酌シ之ニ依リテ秩序ト規律トヲ保チ以テ多人數ヲ統括セサルヘカラサルモ亦家族的ノ方法ヲ主トスルニアラサレハ圓滿ナル訓育ヲ施ス能ハサルコトヲ忘ルヘカラス蓋シ家族的ノ方法ハ懇切愉樂ヲ本トシ感化訓陶ヲ深カラシムルモノナレハ個人トシテ之ヲ遇スル上ヨリハ極メテ肝要ノコトタリ然ラハ即チ寄宿舍ヲシテ有効ナラシムルニハ両者ヲ採用シ之カ調和ノ要ヲ得ルニ在リト云ハンノミ

六、 兒童ノ學業ノ優劣ヲ表スル諸方案ニ就テ得失ヲ評セヨ

兒童學業ノ優劣ヲ表スルノ方案種々アルヘシト雖モ從來行ハレタルモノハ評點及評語ノ二種ナルカ如シ而シテ評點ハ百點ヲ以テ定點トスルアリ十點ヲ以テ定點トスルアリ又評語ハ甲、乙、丙、丁、戊トスルアリ善、能、可、未、否トスルアリ善、良、可、稍可、不可トスルアリ其他種々アルヘシト雖モ是等ハ内容ノ定メ方ニ過キサレハ評點ヲ用フルト評語ヲ用フルトニ就キ其得失ヲ評論セントス

抑兒童學業ノ優劣ヲ表スルハ即チ敎育ノ効果ヲ檢シ之ニ差等ヲ附スルモノニシテ敎育ノ功果ヲ檢スルハ亦其能力ヲ考査スルニ外ナラサルナリ然ルニ評點法ハ總テノ學科ヲ算段的ニ調査セントスルカ故ニ六十點アリ六十一點アリ六十二點アリ六十三點三分ノ一アリ實ニ分毫ヲ爭フノ點數ヲモ附スルニ至ル而カモ其附點ハ理論ニ關スル學科ナラハ或ハ之ヲ爲シ得ヘキモ習字圖畫等ノ如キ術ニ關スル學科ニ至リテハ此ノ如キ細密ナル點數ヲ附シ得サルヘシ否之ヲ附スルノ甚不當ナルヲ知ル尤理論ニ關スル學科ノ如キハ細密ナル點數ヲ附シ得ルモノトスルモ是レ單ニ答案ノ成績ニ過キスシテ兒童ノ能力其モノヽ功果ニアラサルナリ蓋シ能力ニハ甚シキ細密ナル等差ヲ附シ得サルモノナレハナリ然ラハ則チ能力ヲ表示スルニ評點法ヲ用フルノ不合理ナルハ問ハスシテ明ナリ故ニ近來ハ之ニ代フルニ評語ヲ以テスルニ至レリ而シテ其評語モ概チ五等ニ區別シ小差ヲ設ケス是レ全級ノ兒童ヲ五等トナスモノニシテ此等差ハ兒童ノ能力ヲ表示スルニ於テ正確トスルコトヲ得ヘケレハナリ且評語ヲ用フルトキハ評點ヲ用フルヨリハ弊害少ナシ弊害トハ何ソヤ兒童カ競爭心ニ驅ラレ過度ノ勉強ヲナシ其極心身ノ發育ヲ害シ又ハ自己ノ力ヲ增スカタメニ勉强スルノ本分ヲ忘レ成績點ノ多キヲ得ンカタメニ勉强スル

ノ陋習ヲ生スルコトニシテ評語ヲ用フルトキハ此陋習ヲ避クルコトヲ得ヘシ論者或ハ云ハン評點評語何レモ其優劣ヲ表スルノ方法ナルニ於テハ其陋習ヲ避クル能ハサルノ點ニ至リテハ同一ナラント夫レ然リ豈其レ然ランヤ是レ評點ハ單ニ成績ニ優劣ヲ附スルモノニシテ能力其モノヽ價値ノ輕重ニ感動ヲ與フルノ度甚タ低ク徒ラニ皮相ノ競爭心ヲ惹起セシムルモノナルモ評語ハ優劣ヲ表示スルノ目的ニ適シ隨テ兒童ハ自己ノ能力ヲ增進センカタメニ勉强スルノ心ヲ起サシムルニ至ルモノナレハ敎育ノ功果ヲ檢スルノ目的ニ關シ大差アルコトヲ知ラサルヘカラサルナリ

七、尋常小學校第四學年ノ兒童ニ儉約ノ重ンズヘキコトヲ敎授スル敎授例ヲ作ルヘシ

敎　授　例

一、題目　休翁ノ話

一、目的　儉約ノ重ンズヘキコトヲ知ラシム

一、方法

(1)豫備、　簡單ナル序言又ハ問答ニ依リテ先ッ儉約ノ重ンズヘキ事柄ニツキ興味ヲ與ヘッヽ舊觀念ヲ喚起シ若シ舊觀念微弱ナルトキハ之ヲ復習シテ確實ナラシメ而シテ是ヨリ休翁カ儉約ヲ守リ子孫マテ其家繁昌シタルコトヲ說話シ其間時々問答ヲナシ兒童ニヲ指示スヘシ

(2)提示、　休翁ハ大ニ富メル商人ナリシガ或時感スル所アリソレヨリ又身ニ絹布ヲ纏ハズ一家ノ衣服モスベテ木綿ヲ用ヒワヅカノ物ニテモ絹ヲ用ヒザル樣注意セシガタメ其子孫ニ及ブマデ世々ユタカニ暮シタルコトヲ說話シ其間時々問答ヲナシ兒童ニ注意ヲ與フルト同時ニ興味ヲ喚起シ且事項ニ依リテハ新事物ヲ兒童ノ目前ニ排列シテ其觀察ヲナサシメ新觀念ヲ與フルコトヲ務ムヘシ而シテ說話了レハ二三ノ兒童ヲシテ復演セシムヘシ

(3)比較、　先ッ兒童ヲシテ休翁ノ行爲ニツキ批評セシメ又他ノ例話ヲ引キ且休翁ハ富メル身ヲ以テ斯ノ如ク儉素ヲ守リシハ常人ノ爲シカタキコトニシテ實ニ身ヲ立テ世ニ處スルノ龜鑑タルヘキヲ示シ諸子カ富メル家ニ生レ何事モ不自由ナク又他日休翁ノ如キ富メル人トナルトモ儉約ヲ守ラサレハ身ヲ破リ家ヲ滅スコトヲ了得セシメ其

觀念トナリタル事物ヲ既得ノ舊觀念ト相比較シ之ヲ結合セシメ而シテ之ヲ判斷セシムルコトヲ務ムヘシ

(4)統合、以上ノ結果即チ新舊ノ觀念ヲ比較シ類似關係ノ點ヲ一括シテ勅語ノ「恭儉己ヲ持シ」等ノ格言ニ依リ休翁ノ儉德ヲ以テ兒童ノ思想ヲ搆成シ其概念ヲ作ラシムヘシ

(5)應用、祝日大祭日ノ如キ衣服ヲ改ムルトキニテモ決シテ絹布ヲ用フヘカラサル等ノ切實ナルコトニツキ兒童ノ意志ヲ述ヘシメ新ニ得タル觀念ハ果シテ兒童ノ心意ニ同化セシヤ否ヲ檢スヘシ且此例話ニツキテハ儉約ト吝嗇トノ別ヲ辨知セシムルコト肝要ナリ

(附記)

此教授例ハ教授例其モノニアラスシテ教授例ヲ作ルノ方法ヲ示シタルモノナレハ其實例ハ受驗者ニ於テ之ヲ試ムヘシ又方法ハ必ス五段ニ分ツヲ要セス三段ニ分ツハ寧ロ適當ナルヘシ而シテ受驗ノ際ハ此ニ示シタル方法ノ例ニテモ差支ナカルヘシ

國語科（二時間）

解釋文法

一、東山の邊なる住家をいで逢坂の關を過ぐるほどに駒引きわたる。望月の頃もやうやう近き空なれば秋霧立ちわたりてふかき夜の月影はのかなりゆふつけ鳥かすかに音づれて遊子猶殘月にゆきけむ函谷の有樣思ひ出でらる(東關紀行)

東山の邊なる住家　東山は京都の東山なり邊なるのナルはニアルの約まりたるなり住家はスミカと讀むカは家の音にあらずすべて場所をいふなりアリカ、カクレガなどいふも皆同じ○逢坂の關を過ぐるほどに　逢坂の關は近江國にあり昔關門を設けて往來の人を糺せし所なりほどには頃にの意○駒引きわたる望月の頃も云々月影はのかなり　駒引きわたるとは望月の序語に用ゐたるなり昔東國より駒を朝廷に貢する例ありてそのときは必ず逢坂の關を過ぐるなりその頃は毎年八月十五日頃即ち望月の頃なればかくいひしなり且信濃の望月の牧より出づる駒を引くことあれば駒引きわたる望月といふ語大に味ゐ

り紀貫之の歌に「逢坂の關の清水にかげ見えて今やひくらむ望月の駒」ありほのかはカスカニホンノリとして居ること即ち見えて分明ならぬをいふ○ゆふつけ鳥かすかに音づれて　ゆふつけ鳥は木綿着鳥と書き鷄のことをいふ音づれてとは鳴くことなり○遊子猶殘月にゆきけむ函谷の有樣思ひ出でらる　これは支那の孟嘗君の故事を引きたるなり孟嘗君秦に捕はれしが秦を遁れ出でしに路函谷關（秦國要害の地にして關門のある所なり）を過ぎさるべからず然るに關門の法規として鷄鳴せざれば人を通さず孟嘗君の至りし時猶深更にして鷄鳴せざれば關門を過ぐることを得ざりき然るに孟嘗君の門下に鷄鳴を能くする者あり故にその人をして鷄鳴せしめしかば關吏門を開き過ぐることを得たり今東關紀行の作者源親行が逢坂の關を越ゆる時夜深き月影はのかに見えて鷄鳴聞えて恰も孟嘗君が函谷關を越ゆるに似たればうの故事が思ひ出でらるとなり

二、やはらぐる光にあまるかげなれや
　　いすずがはらの秋の夜の月（新古今集）

やはらぐる光とは和光同塵といふ意にて所謂本地垂跡說なりさて本地垂跡とは佛家の說に日本の天照太神は天竺の大日如來の假りに現はれたるにて一身同體なりとの說即ち天竺は神の本地にして日本は其跡を垂れたる土地なりとの意○いすずがはらは五十鈴川原にて伊勢國にあり天照太神を祭れる地○さて一首の意は天照太神の鎭座まします五十鈴川原の秋の夜の月影とは他所（よそ）の月影とは一際異りて見ゆれぞこれは和光の餘れる光によりてかくは貴くさやかに澄み渡りてみゆるならむ洵にめでたき月影よとなり

三、易水に葱なかるゝ塞さかな（蕪村句集）

此の句は支那の故事によりて咏みしなり昔燕の太子丹嘗て秦に質たりし時秦王太子に禮なかりしを怨み後太子燕に歸るに及び復讐せんと思ひ刺客荊軻をして秦に至り秦王を刺さしめんと欲し其の發するに及び太子及び賓客之を送りて易水の上に至り既に祖して道を取る別れに臨み荊軻歌うて曰く風蕭々兮易水寒壯士一去兮不復還と此句最も人口に膾炙し既に易水といひば直ちに寒風凛冽たるの思ひあらしむうこに里人なぞの洗ひ流したる冬の葱を持ち來りて客觀的に寒氣を示したるなり冬川の流れに葱なぞの流れ行くさまは如何にも寒さうに見ゆるものなればなり易水は只川の意に用ゐたるなれぞ荊軻の故事

によりて易水寒しといふ名句あれば寒さかなといふに對して一層の力一層の淋しさを添へたり

四、左の二文の意義の異同を説明せよ

いかになりたまひにきとか人にもいひ侍らむ

いかになりたまひにしと人にもいひ侍らむ

此の二文の中前のは「いかになり給ひにき」といふ説明的挿入文を有する疑問文にして後のは「いかになり給ひにし」といふ疑問的挿入文を有する説明文なり故に之を口語に譯すときは次の如くなる

如何ニオナリナサッタト人ニモ申シマセウカ

如何ニオナリナサッタト人ニモ申シマセウ

五、左の歌の係結を詳細に批評せよ

山里にたれをまたこはよぶこ鳥

ひとりのみこそすまむと思ふに(山家集)

よぶこ鳥は誰を呼ぶと結ぶべきを言掛にて結辭を兼ねたるものなり下の句のこそその係りの豆爾遠波三類の係りなるゆゑ動詞活用の已然言にて結ぶが普通なれば此の場合にはすまめと結ばざればかなはぬ樣に見ゆれを然らずこそは定格の外左の異例あり

結辭を活用して下に續くるものは結を轉ずる

櫻花けふこそかくは匂ふともあな頼みがた明日のよの事(伊勢物語)又一度天下の事取行はんを見ばやとこそ思ひつるに(保元物語)又下にこそ人の心もうつろふを色に見せたる山櫻かな(續古今)即ち聯搆文となるものは其の結を轉ずるなり

右の異例によりて本門のすまむはこそ係りあるもめと改むるの必要なきなり且つ句調の上よりいふも此の歌はめにて結ばずむとして下に續けたる方遙に優れり

作文(二時間)

法文添削の標準を論ず